大阪狭山市文化財報告書５

太満池南窯・北窯発掘調査報告書

１９９１．３

大阪狭山市教育委員会

はじめに

本報告書は、大阪狭山市北端の太満池の岸に所在する２基の須恵器窯の発掘調査報告書です。

太満池は、開発のために約半分が埋め立てられることになりましたが、それに先立って実施された発掘調査によって、須恵器窯と多くの遺物を発見することができました。本市には多くの須恵器窯がありますが、これまでに本格的に発掘された例は少なく、今回の発掘成果は貴重なものとなりました。その成果を公表させていただくことが、本市の文化財の普及、啓発の一助になればと、このたび報告書を刊行いたしました。調査にあたりましてご指導、ご協力いただきました各位には心からお礼申し上げます。

本市教育委員会としましては、今後も文化財の調査、保存、活用に努力する所存であります。皆様方の温かいご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成３年３月

大阪狭山市教育委員会
教育長　上　谷　三　郎

例　　言

1. 本書は、大阪狭山市教育委員会が、大阪狭山市東池尻所在の太満池において実施した発掘調査の報告書である。

2. 発掘調査は平成２年の１月から３月まで行い、その後整理作業を平成３年３月まで実施した。

3. 発掘調査は大阪狭山市教育委員会社会教育課の市川秀之が担当し、整理作業は市川および社会教育課の植田隆司が担当した。本報告書の執筆は太満池南窯については市川が、太満池北窯については植田が担当した。

4. 調査にあたっては次のかたがたの参加・協力を得た。
若宮美佐、安有美子、吉本和美、井上昌代、鬼塚理子、川口真之、津野忠之、山崎和子、桜渕繁太郎、井穴俊一、高林正男、松川友和、溝端竹一、山本完子、高林美津枝、松本昌子、西田紀佐子、太田八重子、荒瀬志摩子、桝井つやみ、松本明子、植田三知子。

本　文　目　次

（頁）

はしがき

例　　言

調査に至る経過 …… （市川） …… 1

調査地周辺の歴史的環境 …… （市川） …… 1

太満池89－１区発掘調査報告 …… （市川） …… 5
　1. はじめに …… 5

　2. 太満池南窯 …… 5
　　遺構 …… 5
　　遺物 …… 7

太満池89－２区発掘調査報告 …… （植田） …… 18
　1. はじめに …… 18

　2. 近世遺構 …… 18
　　遺構 …… 18
　　遺物 …… 18

　3. 太満池北窯 …… 22
　　遺構 …… 22
　　遺物 …… 23
　　小結 …… 25
まとめ …… （市川） …… 29

挿　図　目　次

(頁)
第１図　大阪狭山市内埋蔵文化財分布図 …… 3
第２図　調査地位置図 …… 4
第３図　ＴＩＭ89－１区、太満池南窯灰原平断面図 …… 6
第４図　太満池南窯灰原出土遺物(1) …… 9
第５図　太満池南窯灰原出土遺物(2) …… 10
第６図　太満池南窯灰原出土遺物(3) …… 11
第７図　太満池南窯灰原出土遺物(4) …… 12
第８図　太満池南窯灰原出土遺物(5) …… 13
第９図　太満池南窯灰原出土遺物(6) …… 14
第10図　太満池南窯灰原出土遺物(7) …… 15
第11図　太満池南窯灰原出土遺物(8) …… 16
第12図　太満池南窯灰原出土遺物(9) …… 17
第13図　ＴＩＭ89－２区、近世遺構・太満池北窯平断面図 …… 19
第14図　溝１土器出土状況 …… 20
第15図　土坑土層断面図 …… 20
第16図　近世遺構出土遺物 …… 21
第17図　太満池北窯燃焼部平面図・土層断面図 …… 24
第18図　太満池北窯出土遺物(1)（燃焼部床１・床２堆積層） …… 27
第19図　太満池北窯出土遺物(2)（燃焼部床２堆積層） …… 28

表　目　次

(頁)
第１表　太満池南窯出土遺物観察表 …… 31
第２表　太満池北窯出土遺物観察表 …… 44
第３表　太満池南窯杯蓋形態分類表 …… 53
第４表　太満池南窯杯身形態分類表 …… 54
第５表　太満池北窯燃焼部床１杯蓋形態分類表 …… 55
第６表　太満池北窯燃焼部床１杯身形態分類表 …… 55
第７表　太満池北窯燃焼部床２杯蓋形態分類表 …… 56
第８表　太満池北窯燃焼部床２杯身形態分類表 …… 57

図　版　目　次

図版１　ＴＩＭ89－１　ａ．太満池南窯灰原
　　ｂ．太満池南窯灰原土層断面
図版２　ＴＩＭ89－１　ａ．太満池南窯灰原
　　ｂ．太満池南窯
図版３　ＴＩＭ89－１　太満池南窯灰原出土遺物(1)
図版４　ＴＩＭ89－１　太満池南窯灰原出土遺物(2)
図版５　ＴＩＭ89－１　太満池南窯灰原出土遺物(3)
図版６　ＴＩＭ89－１　太満池南窯灰原出土遺物(4)
図版７　ＴＩＭ89－１　太満池南窯灰原出土遺物(5)
図版８　ＴＩＭ89－１　太満池南窯灰原出土遺物(6)
図版９　ＴＩＭ89－２　ａ．近世遺構　溝１土器出土状況
　　ｂ．近世遺構　土坑
図版10　ＴＩＭ89－２　ａ．近世遺構　溝２・溝３
　　ｂ．太満池北窯燃焼部（調査前）
図版11　ＴＩＭ89－２　ａ．太満池北窯燃焼部（床２直上）
　　ｂ．太満池北窯燃焼部（床２直上、東上方より）
図版12　ＴＩＭ89－２　ａ．太満池北窯燃焼部床２遺物出土状況（東上方より）
　　ｂ．太満池北窯燃焼部床２遺物出土状況（北より）
図版13　ＴＩＭ89－２　ａ．太満池北窯燃焼部（床１直上・半掘、東上方より）
　　ｂ．太満池北窯燃焼部（床１直上・半掘）
図版14　ＴＩＭ89－２　太満池北窯燃焼部出土遺物(1)（床１堆積層・床２堆積層）
図版15　ＴＩＭ89－２　太満池北窯燃焼部出土遺物(2)（床２堆積層）

調査にいたる経過

太満池は大阪狭山市内において狭山池につぐ大池である。太満池の歴史的意義については次章で述べる予定であるが、非常に古い時代に築造された溜池であることは論を待たない。この太満池の東岸に、南北２基の須恵器窯が所在することも古くから知られており、研究者の注意を引いてきた。太満池の約半分を埋め立て、隣接する工場の用地とする計画が出されたのは平成元年の年末のことであった。埋め立てに際して、大阪狭山市教育委員会社会教育課は施主に対し、発掘届の提出を求めるのと同時に、現地の踏査を行ったところ、かねてより本市の埋蔵文化財分布図に記載されていたとおり、東岸の南北箇所において須恵器窯が存在することを、須恵器片の散布から確認することができた。そこで、提出された発掘届にもとずき工事主と覚え書きをかわし、発掘調査を実施することとなった。工事日程との関連で、先に南側の窯跡の発掘工事を行い、終了後北窯の発掘工事を実施した。発掘期間は南窯が平成２年１月５日から１月22日まで、北窯が２月15日から３月31日までであった。その後平成２年度にコンテナ約100杯分におよぶ出土遺物の整理作業を行った。また太満池内の須恵器窯以外の遺跡分布状況を把握するため、池内の数箇所において重機を用いたトレンチを掘削し、断面の観察を行ったが、池による堆積は意外にも浅く、すぐに地山面にいたった。遺構、遺物等は確認できなかったので、調査の主体を東岸の２基の須恵器窯に集中して、発掘を実施した。太満池の歴史自体を考えるには、北堤の断面を観察することがもっとも有効であろうが、今後も池の半分は貯水のために利用されることとなっており、堤については現状変更がなされないため、その部分の調査は行わなかった。

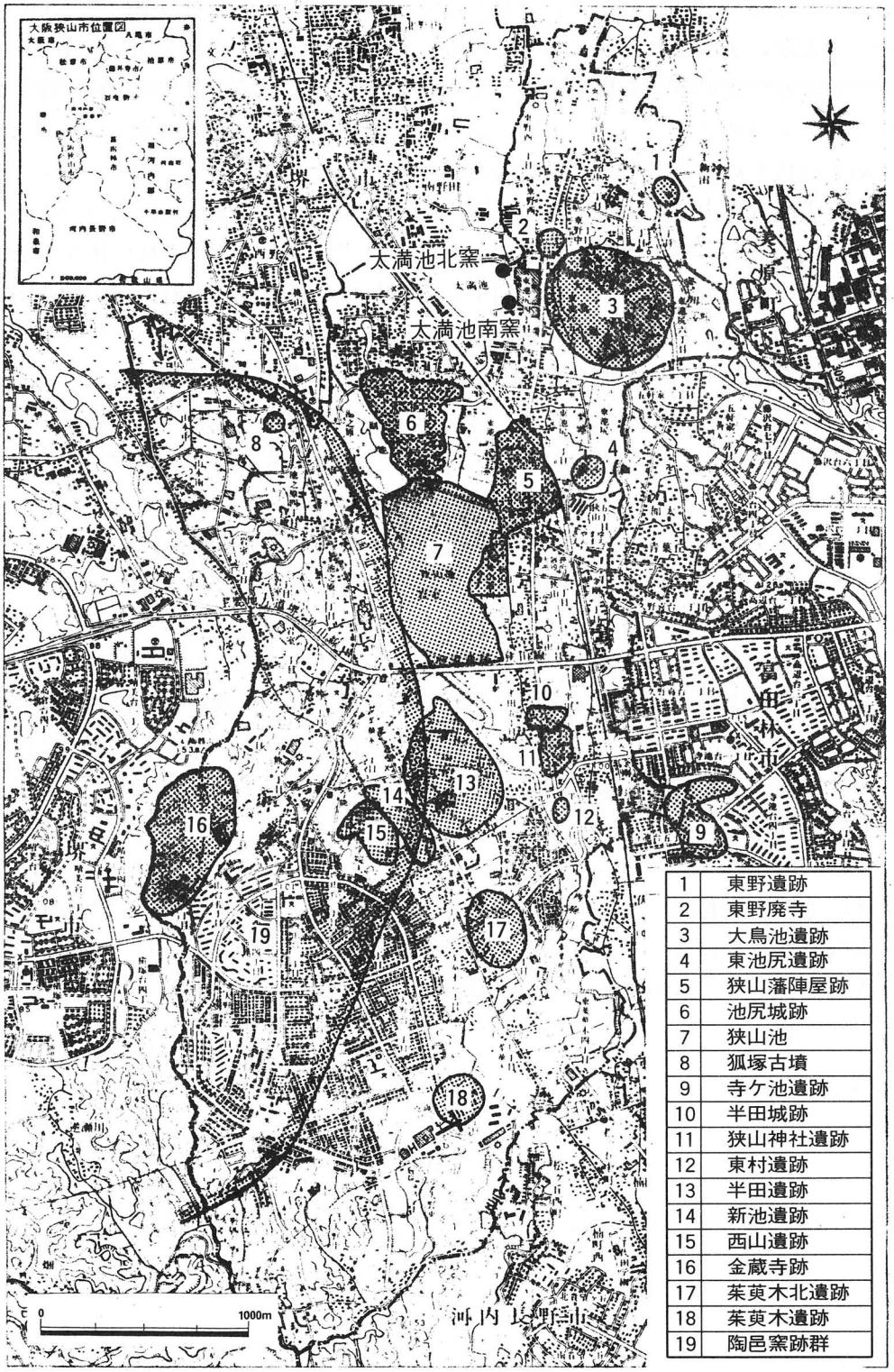
調査地周辺の歴史的環境

今回発掘した２基の須恵器窯周辺の歴史的環境を述べるにあたっては、まず太満池についての説明をもってその端緒とするのが妥当であろう。太満池はタイマイケと読む。太満池は狭山池の北方約１kmに位置する。狭山池の築造は南河内の開発史にとって大きな画期であったが、その時期についてはいまだ定説がない。近年の狭山池ダム化工事に伴う文化財調査によって、６世紀の後半から７世紀にかけて築造された可能性が示されているがその見解についても今後検討の必要があるだろう。[1] 太満池はこの狭山池のすぐ水下に位置し、狭山池中樋から流れ出た水をいったん溜め、さらに下流の諸村に分配する機能を担っている。その意味において太満池の歴史は常に狭山池のそれと一体のものであったということができるだろう。さて太満池が文献に登場するのは『續日本紀』天平４年の「築河内國丹比郡狭山下池」という記載である。この狭山下池がどの池を指すのか不明であるが、狭山池のすぐ下にある太満池、大鳥池のうち、東除川につながる大鳥池が狭山池との関連をもったのは比較的新しい時期と考えられ、やはりこの下池は太満池を指すと考えるのが妥当であろう。築造以後太満池がいかなる歴史をたどったのかは明確ではない。白鳳期に

は池の東側に寺院(東野廃寺)が建立されたことが最近の調査から明らかになっている。この寺院は平安期に再興されるが、長くこの地に栄えたようで、[2] 今回の調査でも90－2区において寺院跡かと思われる遺構を検出している。近世には太満池は北野田村、南野田村、阿弥村などの立会池となったが、下流の諸村へと流れる水もみなこの池にいったん入れられたため水利権をめぐってたびたび水論が起きている。

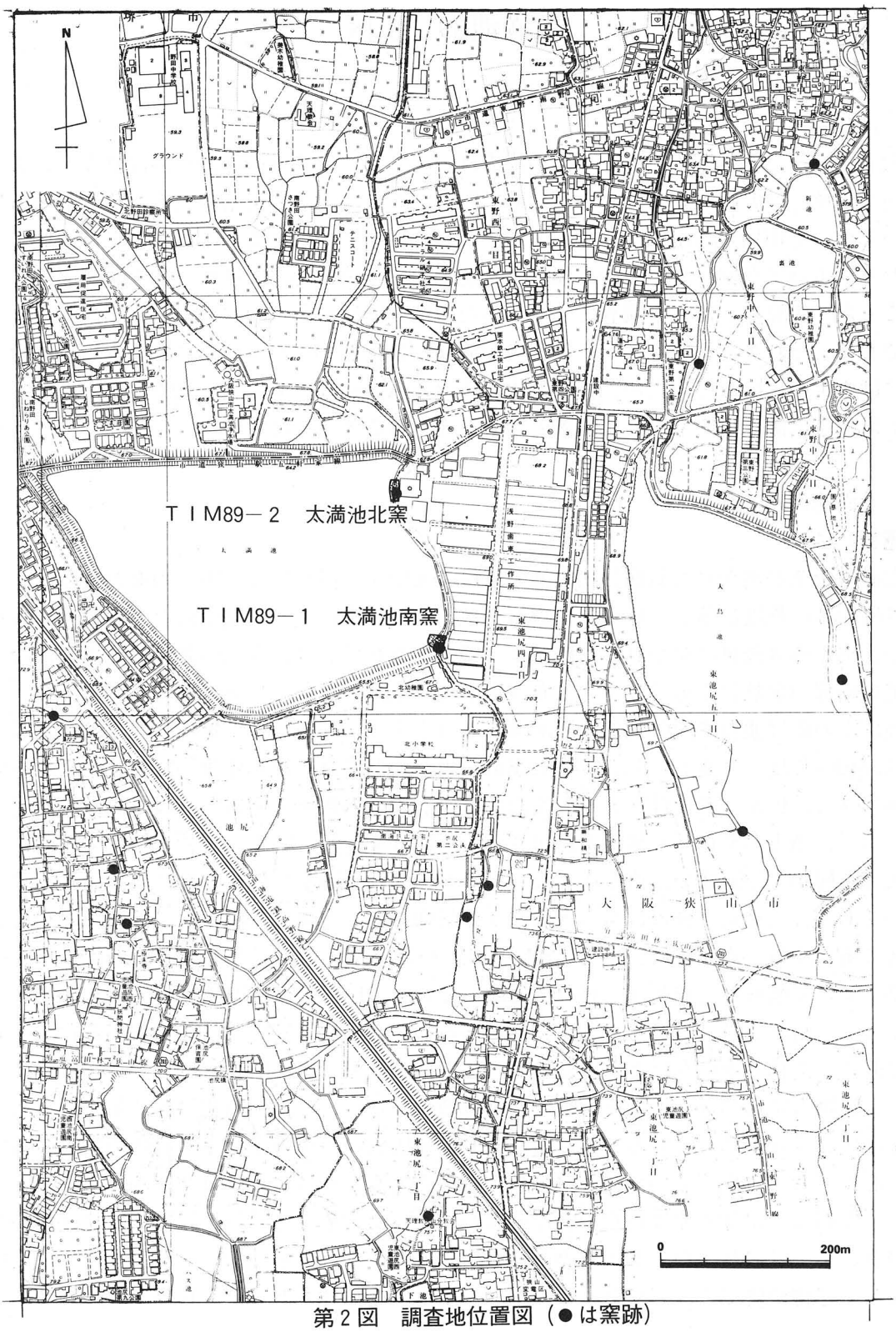
また、太満池は狭山池と同様に東西の段丘を堤で塞き止めて築かれた溜池である。周知の通り大阪狭山市から堺市南部、和泉市にかけての一帯は古墳時代の我が国を代表する須恵器生産地帯であった。丘陵の斜面を利用して築かれた高蔵地区や栂地区の須恵器窯に比べ、大きな斜面に恵まれない、大阪狭山市内の須恵器窯はいずれも段丘崖等を利用して築かれた小規模なもので、狭山池や太満池の東西の岸を構成する段丘崖にも多くの須恵器窯が残されている。狭山池内の須恵器窯と狭山池の前後関係については充分検討する必要があるが、太満池の東岸のふたつの須恵器窯については、池築造以前より経営され、その廃絶後池がつくられたとかんがえるのが自然であろう。太満池東岸の須恵器窯については古くからその存在が知られていた。昭和42年に刊行された「狭山町史　本文編」[3] のなかで森浩一氏は狭山町（現大阪狭山市）内に所在する須恵器窯の一覧を載せられているが、そのなかにはこのふたつの須恵器窯も含まれている。しかしながら今日にいたるまで、これらの窯については散布する須恵器片の採集や、池岸における窯断面の確認がおこなわれただけで、発掘調査が実施されたのは今回が初めてである。以下の調査報告においては南側の窯をふくむ南の調査区を90－1区、同じく北側の窯をふくむ北の調査区を90－2区と呼称することとする。またこれも便宜的な名称であるが、南側の窯を太満池南窯、北側の窯を太満池北窯と呼ぶこととしたい。

(1)　狭山池調査事務所　『狭山池調査事務所平成元年度調査報告書』　1990年3月
(2)　大阪府教育委員会　『池尻城跡発掘調査概要・Ⅳ』　1990年3月
(3)　森　浩一　「土器の生産」（『狭山町史』1967年11月　所収）



1	東野遺跡
2	東野廃寺
3	大鳥池遺跡
4	東池尻遺跡
5	狭山藩陣屋跡
6	池尻城跡
7	狭山池
8	狐塚古墳
9	寺ケ池遺跡
10	半田城跡
11	狭山神社遺跡
12	東村遺跡
13	半田遺跡
14	新池遺跡
15	西山遺跡
16	金蔵寺跡
17	茱萸木北遺跡
18	茱萸木遺跡
19	陶邑窯跡群

第１図　大阪狭山市内埋蔵文化財分布図



第２図　調査地位置図（●は窯跡）

太満池89－１区

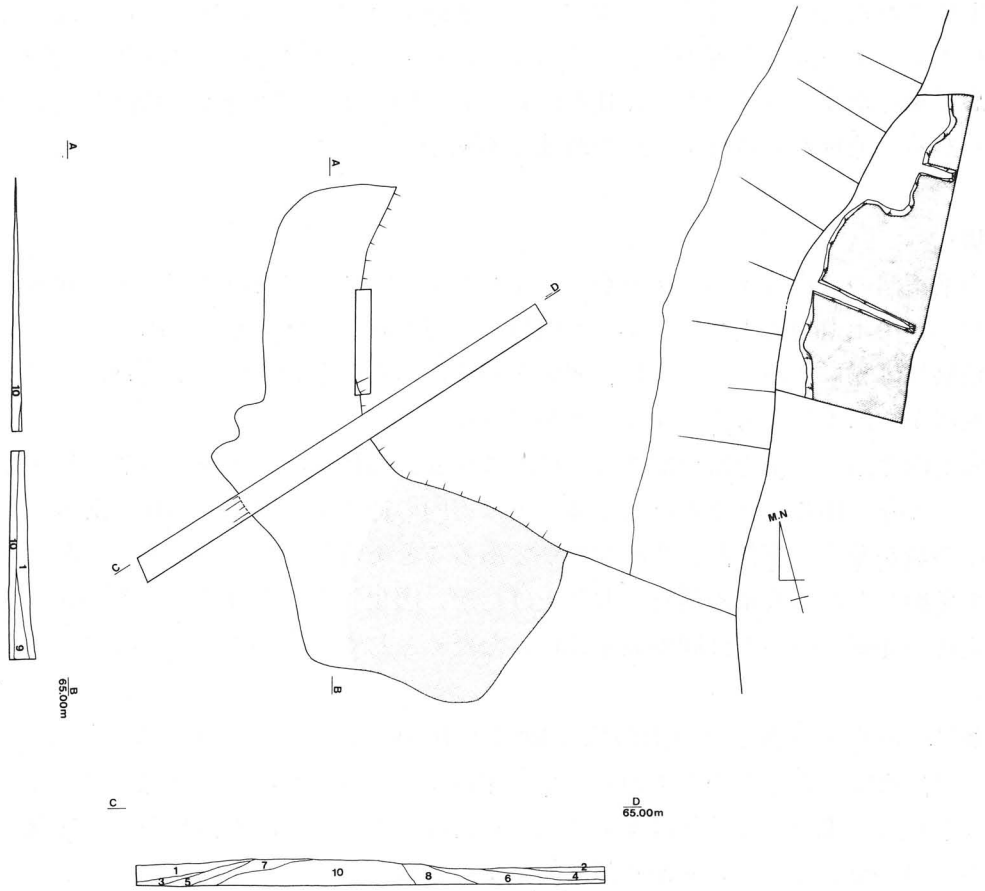
１．はじめに

太満池南窯を主体とする89－１区の調査は、すでにこの箇所の岸が水の浸食などによって相当崩壊しはじめていたため、きわめて難行した。太満池の東南隅にあたるこの箇所においてかつて南側から水路が流入していたことによって、須恵器窯本体はすでに破壊されており、よって今回はかつての本体による焼土の残る箇所と、灰原の一部を調査するにとどまった。灰原が一部しか調査できなかったのは、灰原が今日の池岸の下に相当はいりこんでおり、それを発掘することには相当な危険がともなったからである。また須恵器窯の上には盛土が施されていたが、古墳時代以後の遺構面を確認することはできなかった。よって以後、太満池南窯を中心に調査の結果を述べることとしたい。

２．太満池南窯

（遺構）

太満池南窯が築かれた斜面は狭山池の東岸に連続する段丘崖で、南窯のあたりでは崖の高さは約３ｍ程度に達している。須恵器窯はこの段丘を利用して築かれたものと考えられるが、窯本体は後世に築かれた水路によって破壊されており、今回の調査で検出しえたのは窯焼成部の余熱による焼け土の分布（上部焼け土部と呼称）と灰原部のみであった。上部焼け土の面は池岸の現状地盤から30cmほど盛土をはいだところで検出した。焼け土層の厚さは10cm程度で、南北7.6m、東西2.8m、但し西側には既存の建物がたっていたため東西幅はさらに広がる可能性がある。また焼け土層の下の褐灰色砂質土には須恵器片が混じっており、須恵器窯自体が何度か修復された可能性を示している。現状の地形ではこの上部焼け土層のすぐ西側で垂直な崖になってるが、これは池築造以後の水による浸食によるものであり、窯築造当初にはもっと緩やかな斜面であったと考えられる。灰原部は今日の池底に所在する。南北15m、東西4.8m、もともとは楕円形を呈したものと考えられるが、水路によって削られ、現状は三日月形となっている。灰原部は層厚や遺物のふくまれ具合によって、南北２区に分けることが可能である。北部灰原は層の厚さが10cmから15cmと極端に薄く、遺物も細片がほとんどである。また南部灰原は層の厚さが30cmから40cm程度と厚く、遺物も完形に近いものを含めて非常に数が多かった。今回図化しえた須恵器は大半が南部灰原より出土している。また南部灰原は赤灰色の土を多く含み、遺物の出土の多さをあわせて考えると、この部分が窯の焚口直下の場所であることはほぼ確かであるといえよう。なおこの南部灰原は現在の池岸のなかにさらに入りこんでいた。これは池岸がかなり浸食によって崩れ、崩土が灰原の上に堆積していることを示しているが、池岸には池に隣接して建物が建てられており、また土砂の崩壊の危険性もあってこれ以上の調査はでき



① 淡褐色砂質土
② 淡褐色シルト
③ 淡黄灰色シルト
④ 黄褐色砂質土
⑤ 淡灰黄色砂質土
⑥ 淡灰黄色シルト
⑦ 灰黄色シルト
⑧ 暗灰黄色シルト
⑨ 黄灰色粘土
⑩ 黒灰色灰土(灰原)

第3図　ＴＩＭ89－１区、太満池南窯灰原平断面図

なかった。上部焼け土部と南部灰原との位置関係を考慮するとこの須恵器窯の方向は北東ー南西方向であり、長さは最低でも10mはあったことが推定される。また灰原は南北両区ともに一層のみであり、層序からは同一時期に形成されたものとしてあつかわざるをえない。この須恵器窯の灰原を大きく削り、本体を破壊した水路は最大幅4.5mで南西方向から池に流れ込み、灰原付近で大きく北側にまがっている。掘り方ははっきりしており、自然に形成されたものとは考えられない。この水路は砂によってほぼ完全に埋没していたが、一部にトレンチを設定し掘削したところ深さは最大で0.9mに達していた。遺物には若干の須恵器細片がまじっていたが、比較的新しい遺物が多く、最近まで機能していたことが考えられる。遺物からは掘削された時期は不明であった。

（遺物）

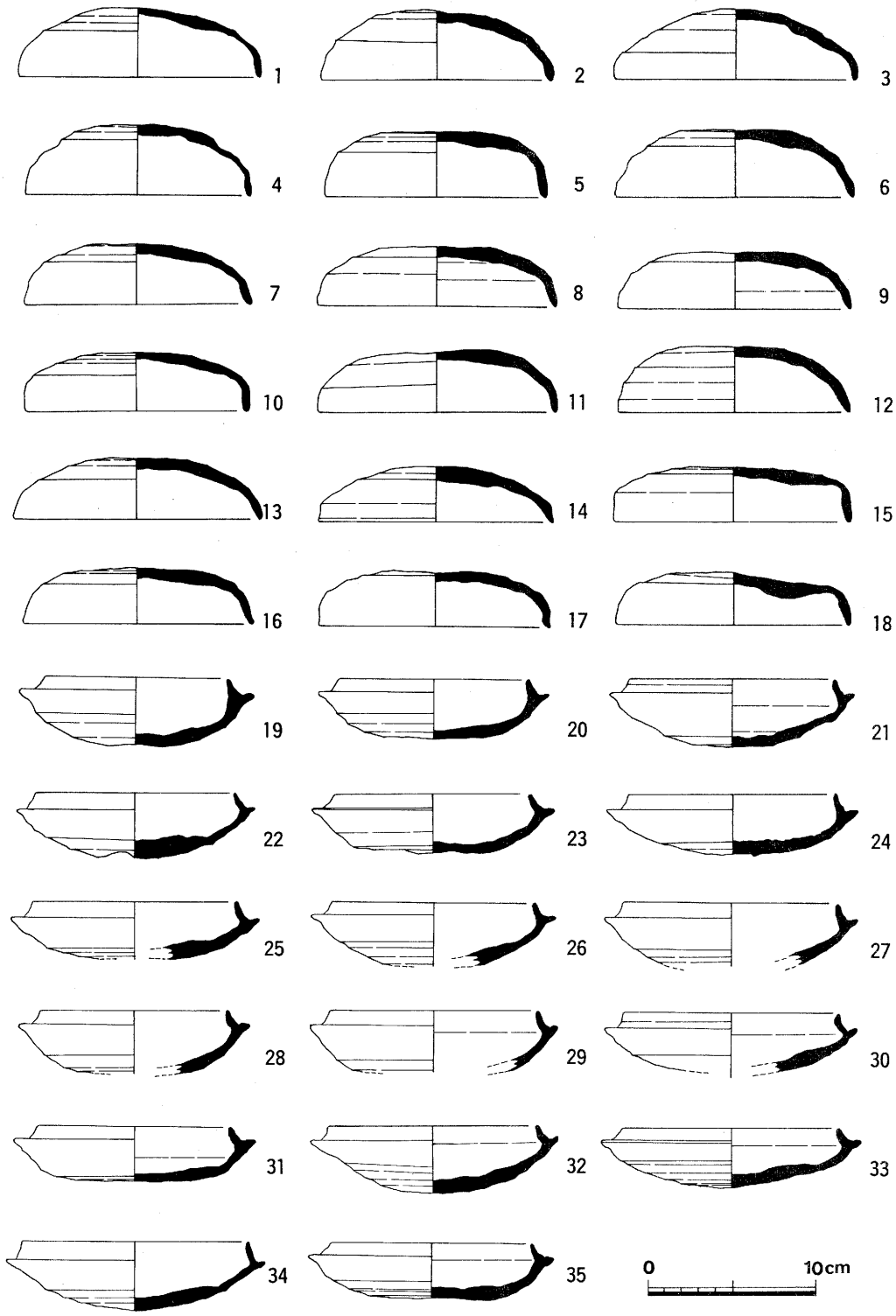
太満池南窯の遺物はすべて灰原から出土したものである。灰原は相当広い範囲に広がっていたが、出土遺物の大半は、窯の焚口付近と思われる南部灰原から出土している。灰原の堆積層には先にも述べたように、明確な層位がみられないため出土遺物は基本的には同一の地層から出土したものとすることができる。

太満池南窯出土の須恵器の器種は、杯蓋、杯身、高杯、瓹、提瓶、壺蓋、短頸壺、甕等である。杯身、杯蓋、甕などの数が多いのは市内の他の須恵器窯と同様であるが、提瓶、短頸壺の数が多く、全体的に器種が豊かであることを特色として挙げることができよう。灰原を発掘したため大量の遺物を取り上げたが、図化しえたのはそのうち118点であった。出土遺物の詳細については観察表をご覧いただくとして、ここではその概要を記すこととしたい。

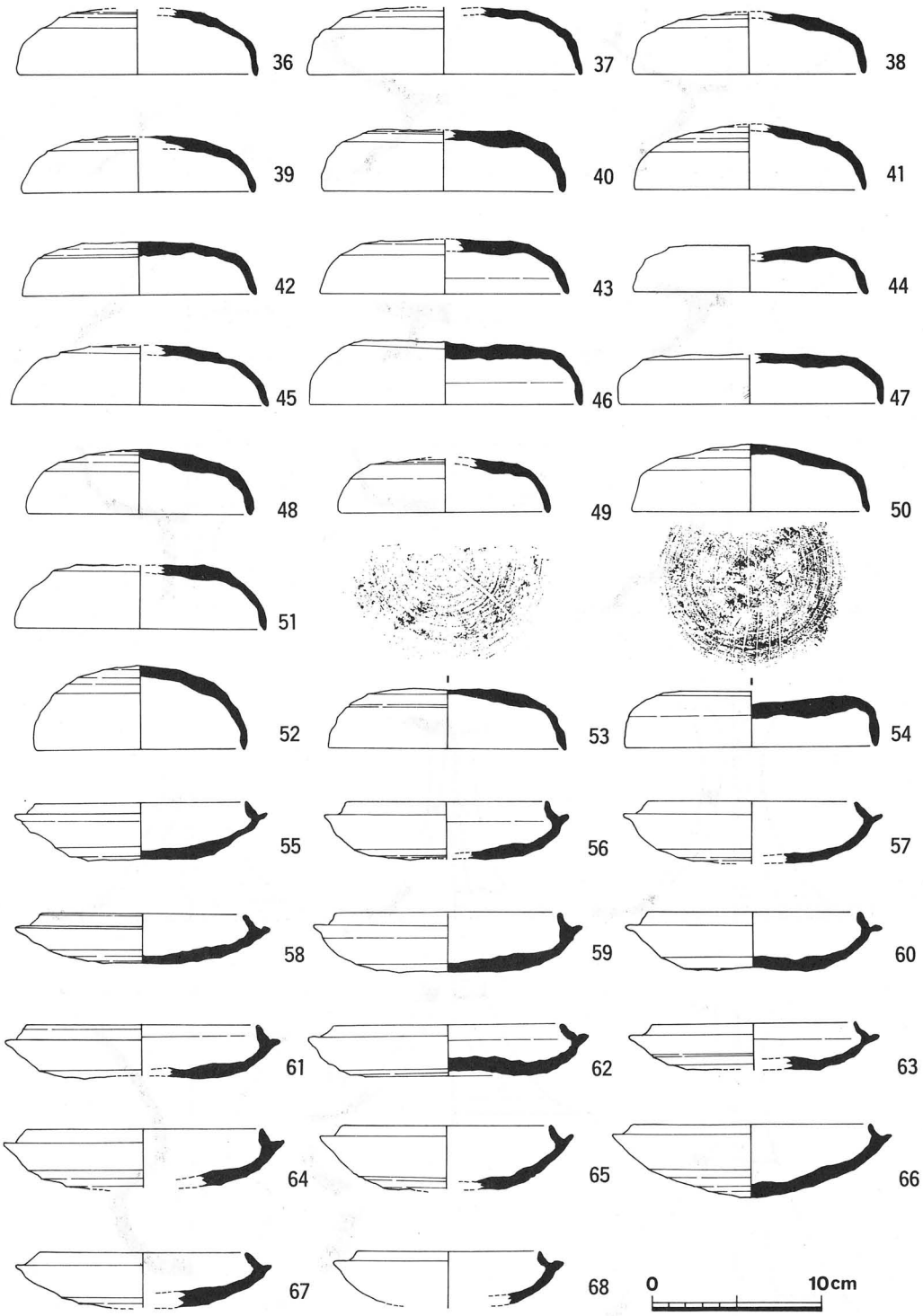
杯蓋は計37点を実測した。口径は12.4cmから16.0cmまでであり、稜の痕跡は2、3、などで僅かに観察できるものの大半のものでは沈線すらみられない。ヘラ削りは天井部のみにほどこされる。また口縁端部は丸く仕上げられ段をもつものはみられない。杯身は口径11.2cmから14.0cmまで。たちあがり部は内傾するものと、いったん内傾し立ち上がるものに分けられる。受け部は水平に伸びるものよりも、やや上方に伸びるものの方が多い。高杯は計14点を実測。有蓋のものと無蓋のもの、あるいは短脚のものとスカシが2段に入る長脚のものに分類できる。瓹は1点のみ実測しえた。ただし口縁端部は欠損していた。口縁部は大きく開くが、波状文等の飾りはみられず、太い沈線が一条施されている。提瓶は5点を実測した。口縁はいずれも若干開き気味で、口径は5.3cmから7.2cm。体部はいずれも回転カキ目を施す。把手は省略が進みカギ形となっているが、86のみは輪状である。88はその口径やかえりの状態から考えて長頸壺の蓋と思われる。89は脚付き長頸壺で脚部が欠損している。体部に2本の沈線が入る。全体的に自然釉がかかっている。91～94は口縁端部が平たくおさまっており、短頸壺の蓋と考えられる。95、96、98、99、100は短頸壺、98はいびつな器形である。口径は7.8cmから11.7cm。97は長頸壺。口縁端部は丸くおさま

り、体部外面にはタタキののちカキ目が入る。101から118は甕。甕は非常に多くの個体数を発掘したが、口縁部が残り、図化しえたのはわずかであった。口縁は外反してから端部において若干肥厚するものが大半である。口縁部の装飾は104においてカキ目、106、110などで沈線がみられるほかはほとんど施されていないが、115のみはハケ目、ななめ方向のタタキが施されている。

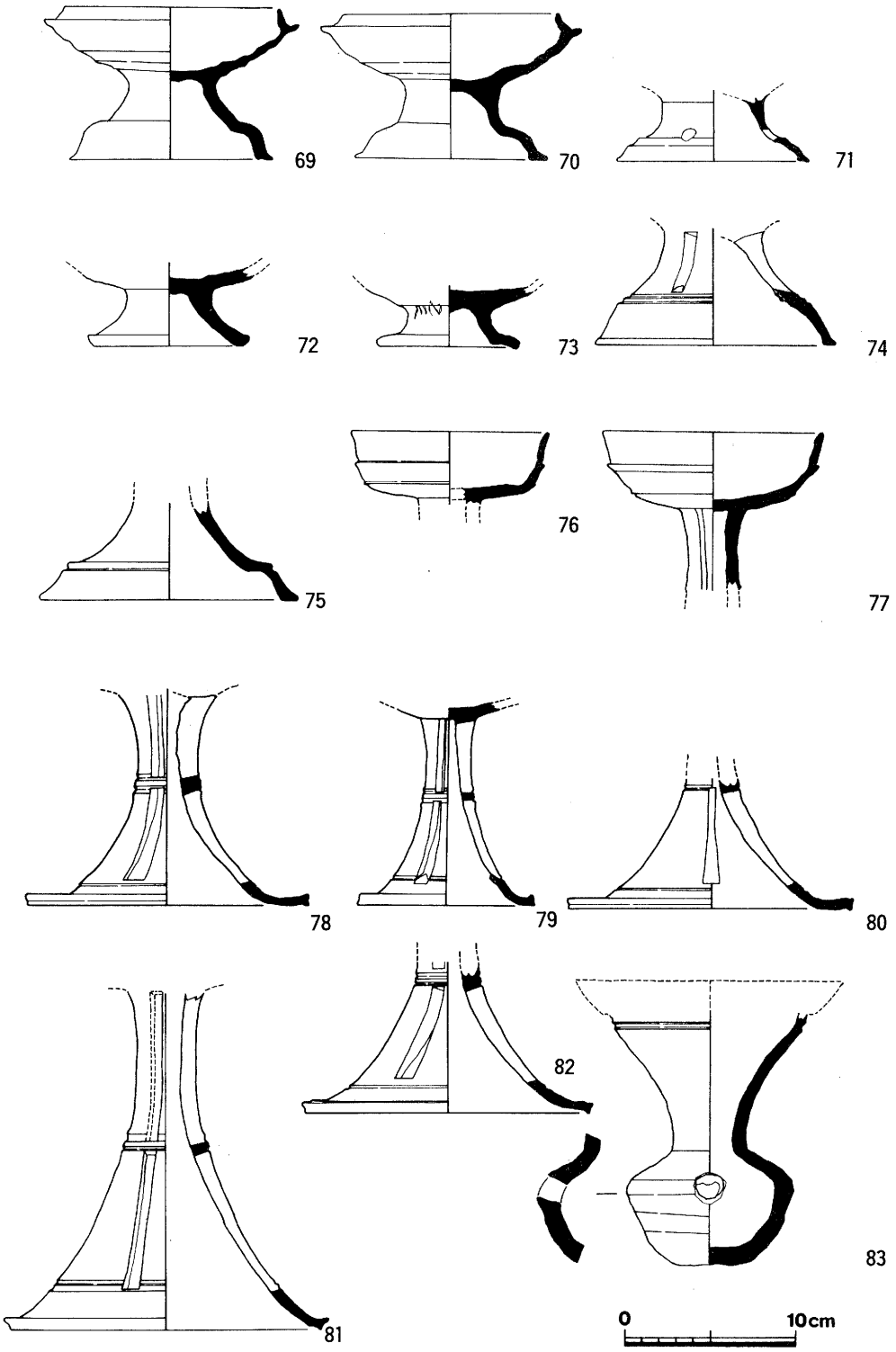
太満池南窯の遺物は、田辺昭三氏の編年によれば、おおむねＴＫ43の枠のなかに入るものとして評価できる。また器種間における時期差もほとんど認めることができないが、杯身のなかには若干ＴＫ43に先行する時期のものも含まれており、この窯の経営時期についてある程度の幅を考える必要がある。太満池南窯の遺物は量、器種ともに非常に豊かであり、杯、甕が器種の大半を占めた太満池北窯と好対照を示すものであった。このふたつの窯は時期的にはほとんど同時期に経営されていたものであることが遺物によって明らかであるが、約200ｍの距離をおいて隣接する窯の間に器種構成の大きな違いがあることは興味深い事実であるといえる。大阪狭山市内の須恵器窯はこの時期のものが圧倒的に多く、今後さらに発掘調査を進め資料を増やすとともに、窯間の器種構成を比較することによって、陶邑窯跡群内のさらに細かい地域的な特色や、工人達の社会構成にせまることが可能となるだろう。



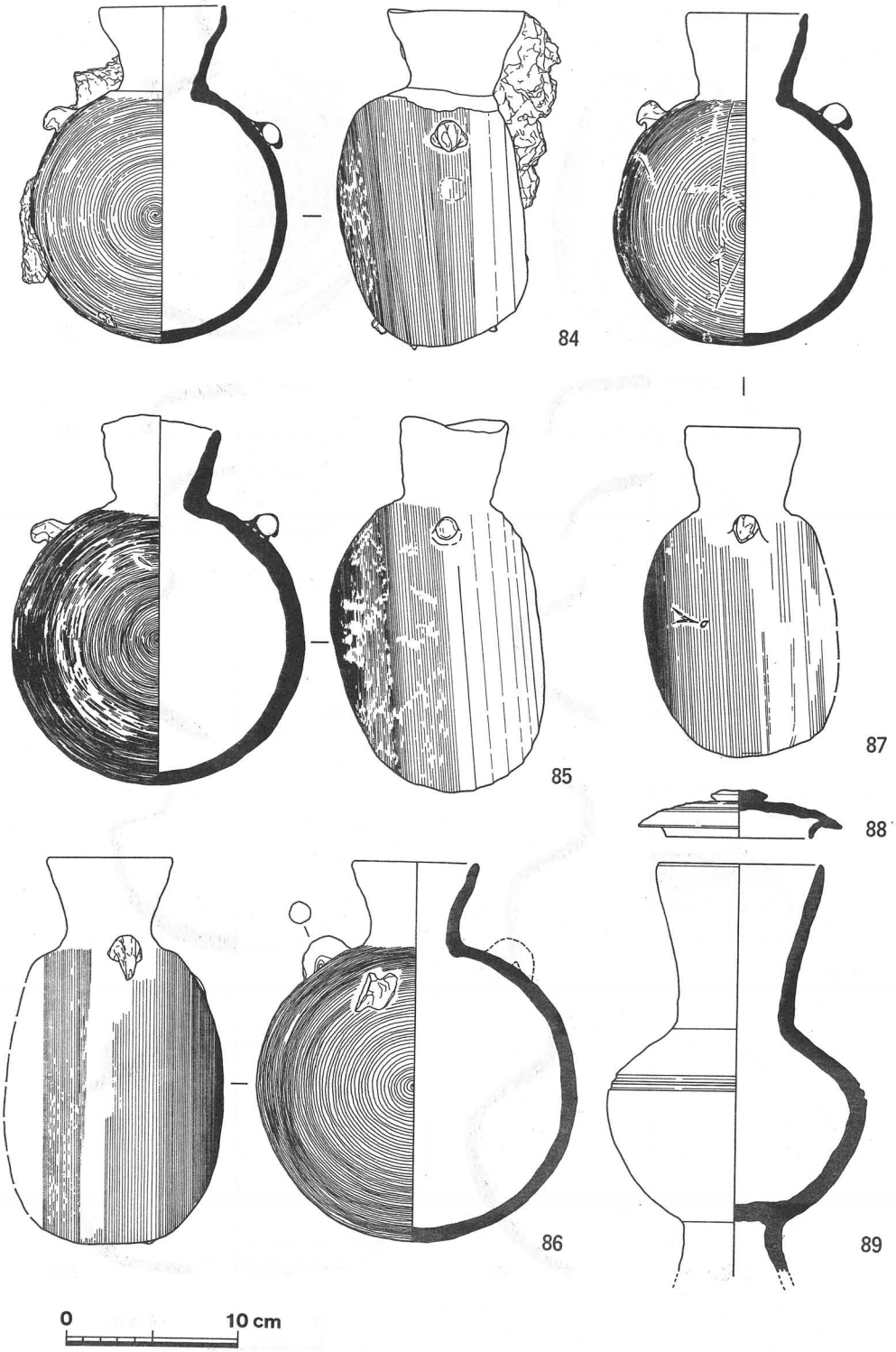
第４図　太満池南窯灰原出土遺物（１）



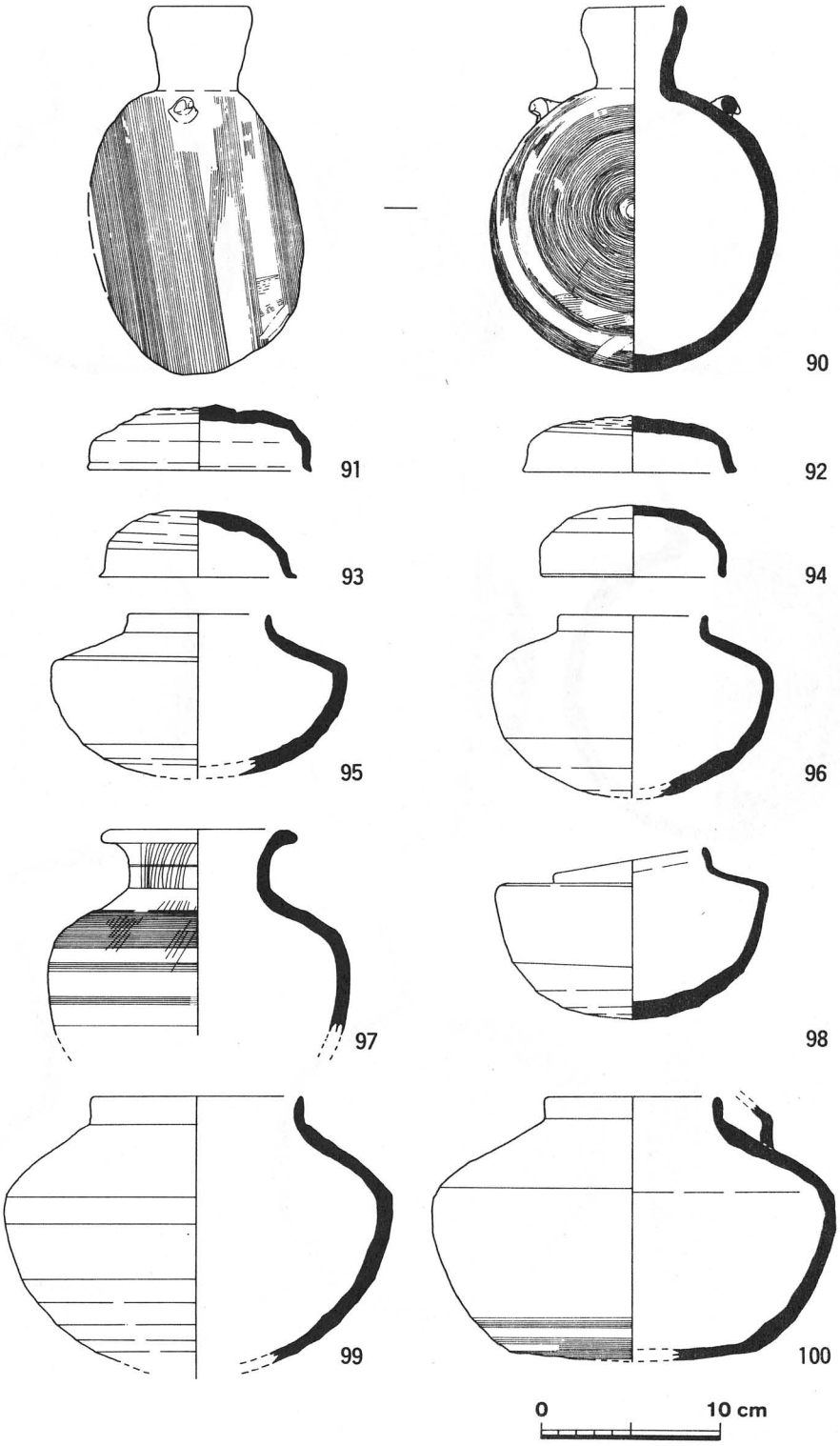
第５図　太満池南窯灰原出土遺物（２）



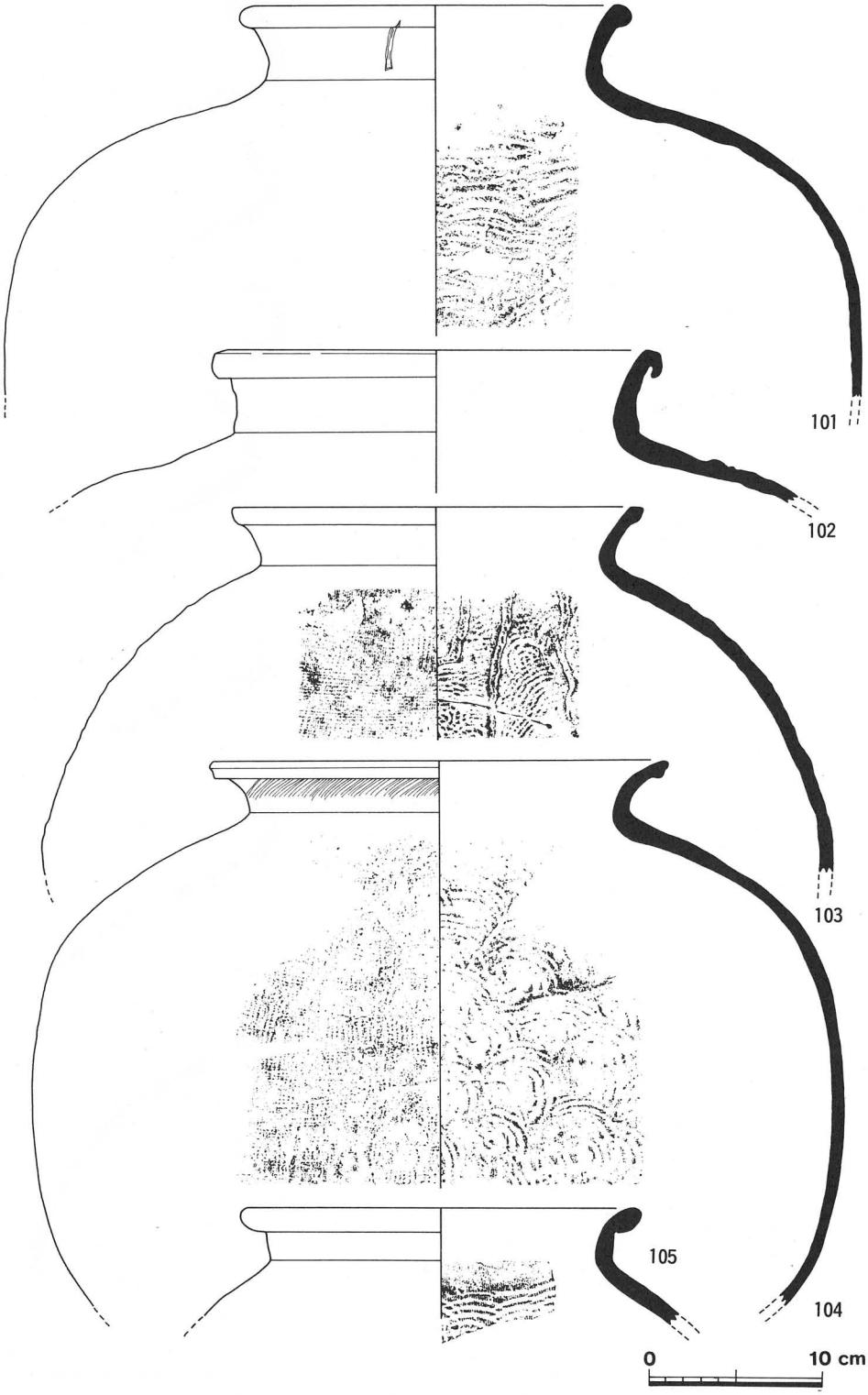
第６図　太満池南窯灰原出土遺物（３）



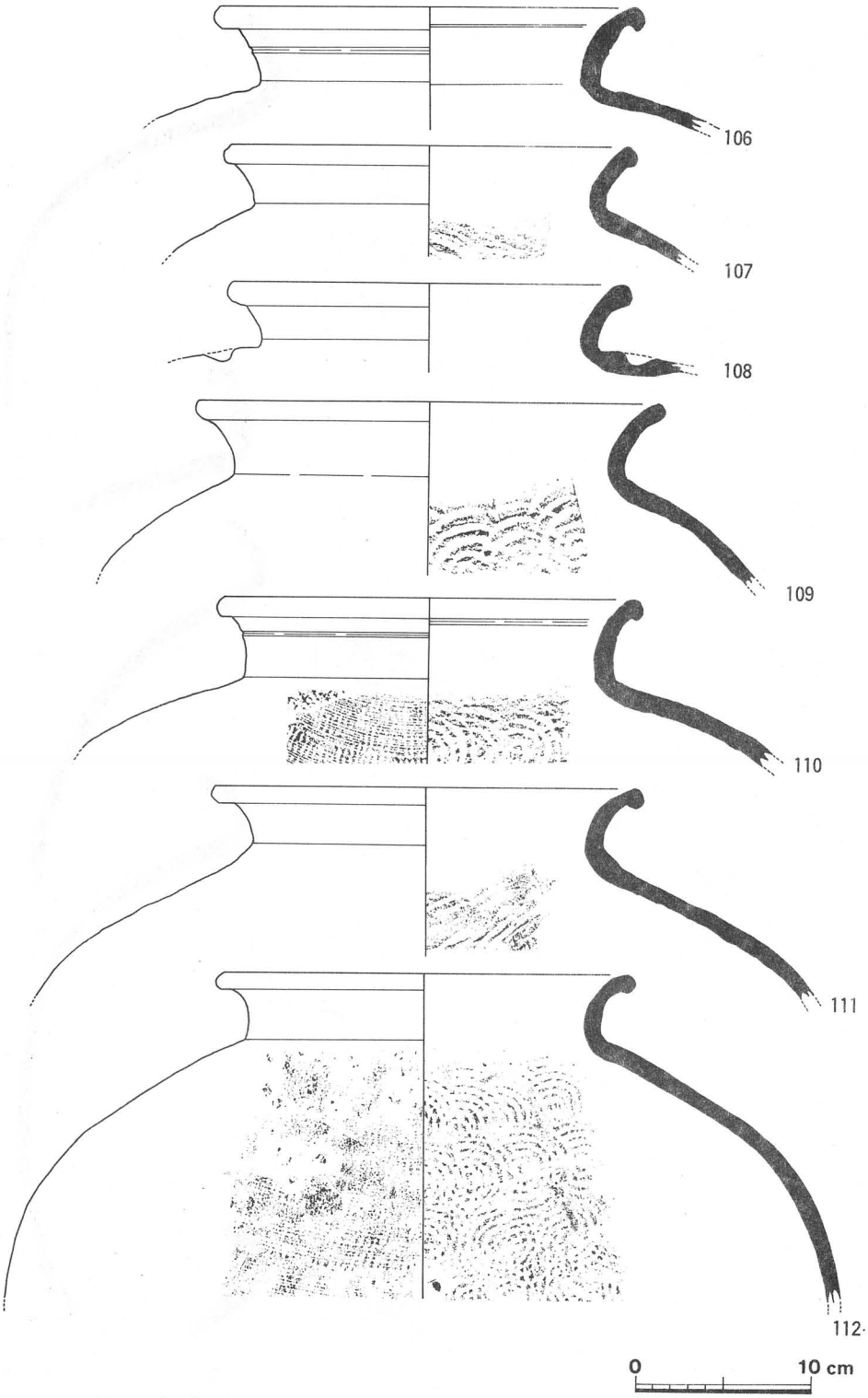
第７図　太満池南窯灰原出土遺物（４）



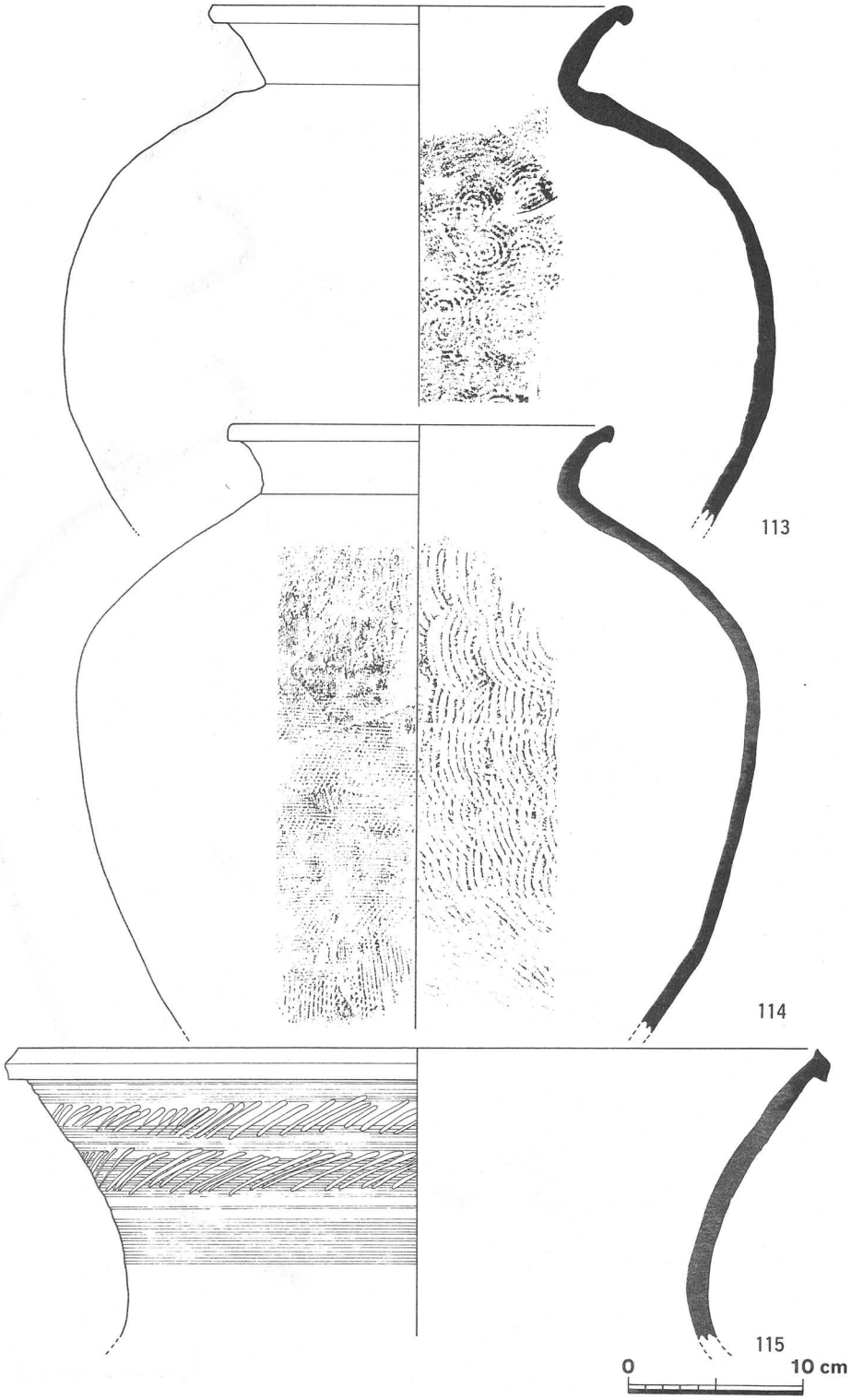
第８図　太満池南窯灰原出土遺物（５）



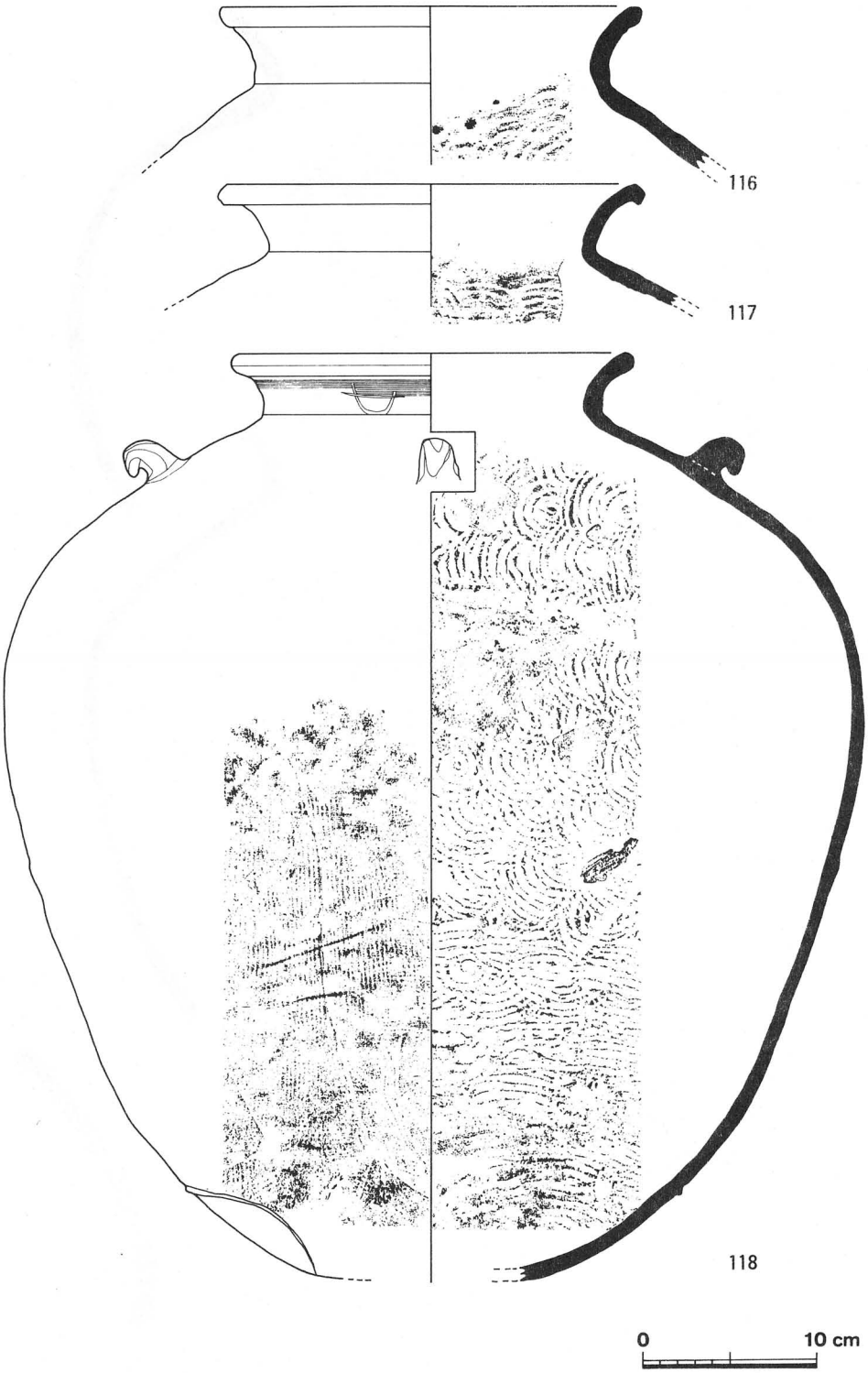
第９図　太満池南窯灰原出土遺物（６）



第10図　太満池南窯灰原出土遺物（７）



第11図　太満池南窯灰原出土遺物（８）



第12図　太満池南窯灰原出土遺物（９）

太満池89－２区

1. はじめに

今回の調査範囲は南北約15m・東西約11mに及ぶが、その大半は太満池が満水時には水没するため、調査区西側の大部分では調査時においても保水率が高く、非常に脆弱な泥土の堆積が厚く認められた。このために当該部分では全面掘削を行わず、試掘溝を設定して調査を行い、調査区東端の現在の池岸に相当する中位段丘崖上面南北約15m・東西約３mの範囲内で全面調査を行った。

2．近世遺構

（遺構）

現地表面より約0.5m下までは灰色シルト系の土層（整地層）が続き、この土層中には蓋杯や甕などの須恵器片・窯壁片・キセル・近世期の平瓦等が混入していた。現地表下約１mで灰黄色シルト層・灰褐色シルト層上面に達し、この面において溝および土坑を確認した。（第13図）

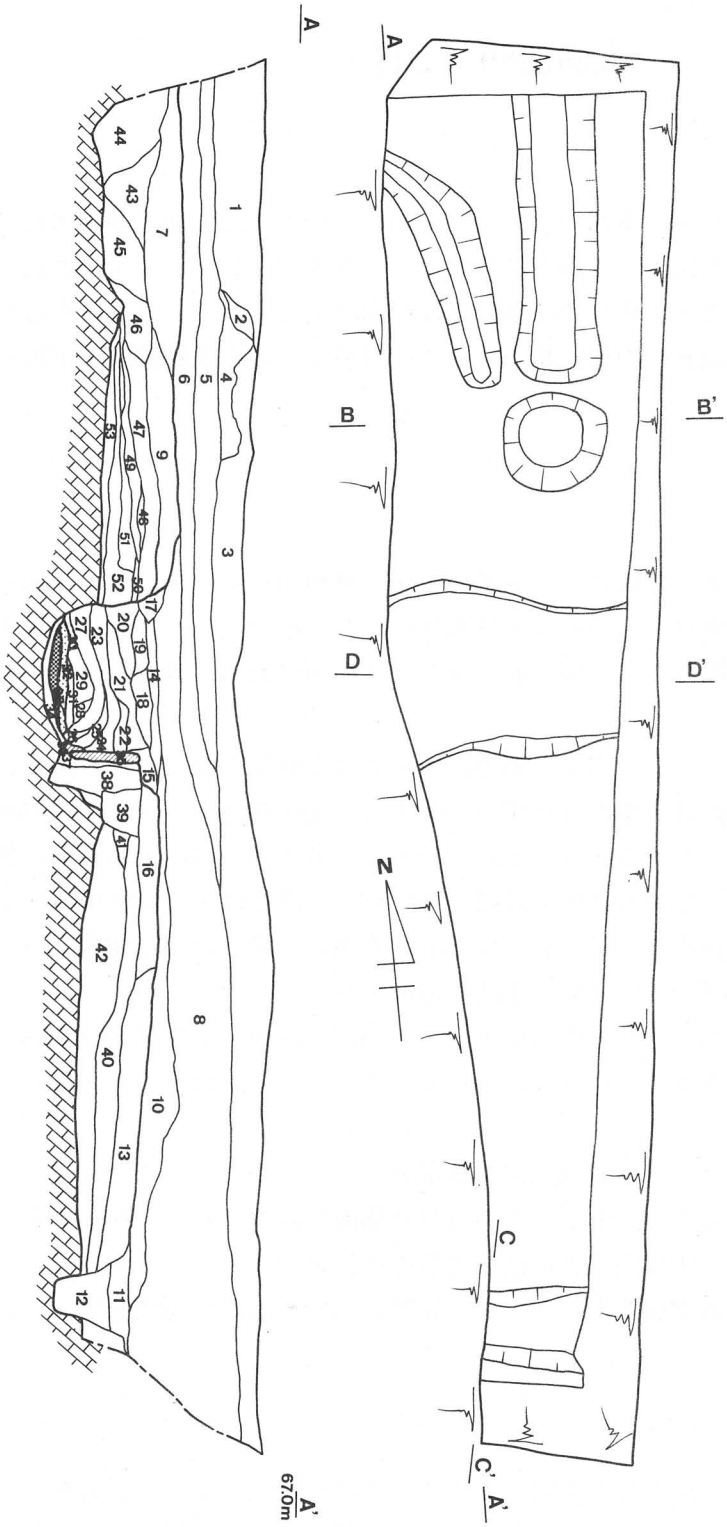
溝には調査区南端で東西にのびる溝１、調査区中央より北側で南北にのびる溝２、溝２西側で北北西にのびる溝３の計３本が存在する。溝１は上端幅約58cm・下端幅約34cm・深さ約32cmを測り、調査区内における長さは1.0mである。溝１底には、土師質甕が体部中位より上方を欠損して西側へ傾いた状態で設置されていた。溝２は上端幅約88cm・下端幅約48cm・深さ約40cm、調査区内における長さが3.0mを測る。溝３は上端幅約60cm・下端幅約16cm・深さ約40cm、調査区内における長さ2.6mを測る。

土坑は調査区中央より北側、溝２の南に位置し、上端径120cm・下端径84cmを測るほぼ真円形を呈し、深さは92cmを測る。底はほぼ平らである。この土坑はその形状より井戸などの用途を想定しうる。

また、調査区中央においては、太満池北窯窯体部分の天井が崩落したことによって、その窯壁および窯壁に対応する落ち込みが、この近世遺構面で確認された。後述するように崩落した窯体天井部の上層、窯体内埋土には須恵器片の包含が認められるが、それ以後の遺物は含まないため、当該遺構面が機能していた時期においては既に現状を呈していたものと考えられる。

（遺物）

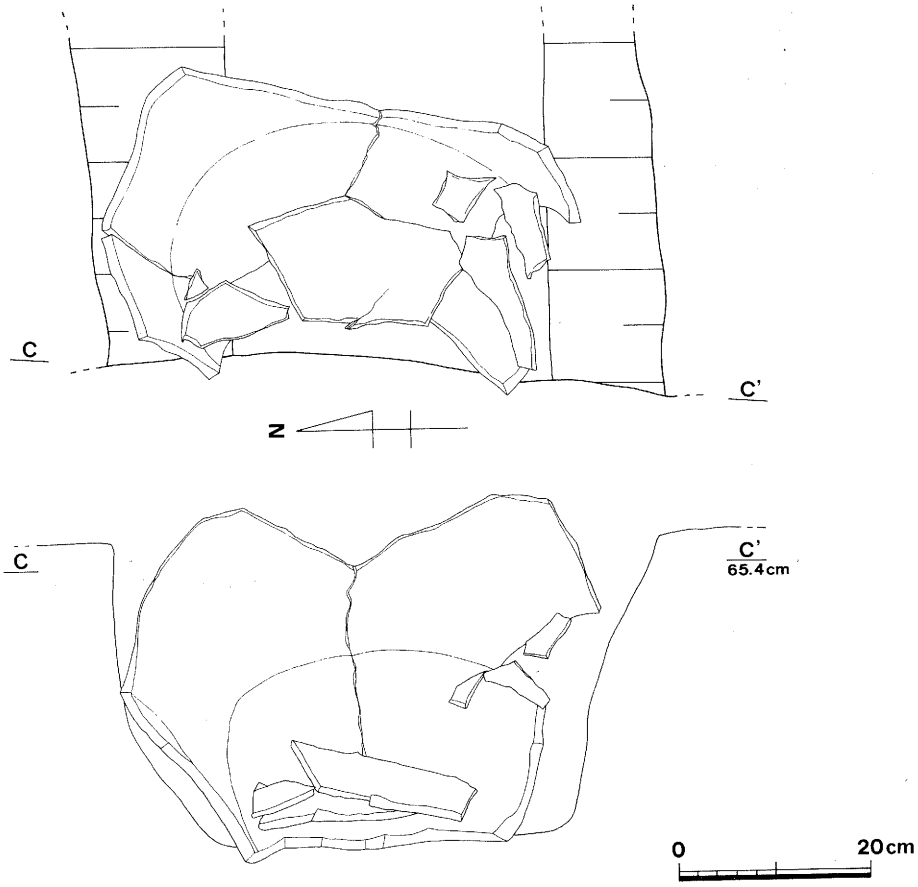
遺構面上層の整地層内から出土した遺物にキセル（煙管）（第16図上）がある。キセルは雁首とラウの一部のみが遺存し、吸口を欠損する。銅製。雁首残存長5.0cm・首部残存長4.3cm・脂返し長1.4cm・火皿径1.6cmを測る。首部は一本の管で形成され、ラウ接合



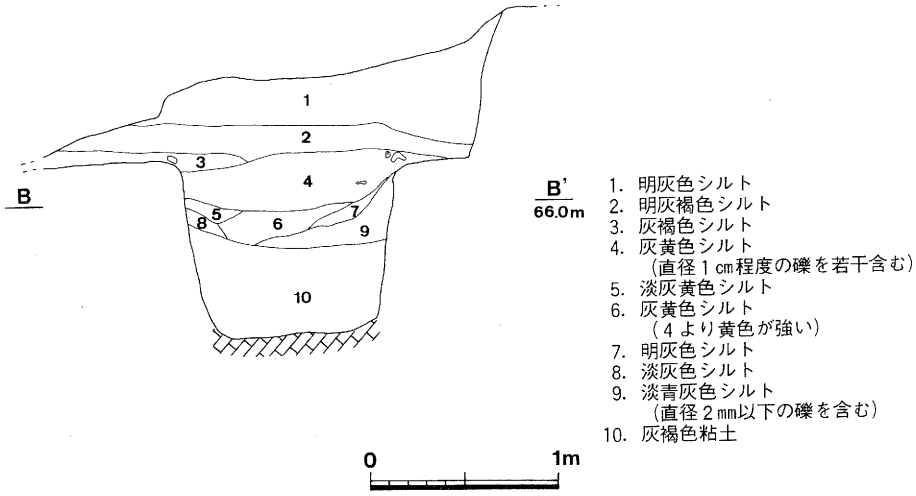
1. 暗灰褐色砂礫土
2. 明灰色シルト
3. 明灰色シルト
4. 明灰色シルト(2.より明るい)
5. 暗灰色シルト
6. 淡灰色シルト
7. 灰黄色シルト
8. 黄褐色砂質土(1㎝の礫を含む)
9. 暗灰黄色シルト
10. 灰黄色砂質土
11. 淡褐色シルト
12. 淡黄色シルト(3㎝の礫を含む)
13. 暗灰褐色シルト
14. 淡黄灰色シルト(焼土を含む)
15. 淡灰色シルト
16. 淡灰褐色シルト(焼土を含む)
17. 淡灰色シルト
18. 黄灰色シルト(焼土を含む)
19. 淡橙灰色シルト
20. 淡灰褐色シルト
21. 暗灰褐色粘土(天井部崩落)
22. 黄褐色シルト
23. 淡灰黄色シルト
24. 灰褐色シルト
25. 明灰色シルト
(橙色焼土を多量に含む)
26. 明灰色シルト
27. 明橙黄色シルト(焼土)
28. 明灰黄色砂質土
29. 暗青灰色焼土(北側壁崩落)
30. 灰黄褐色砂質土
31. 淡灰黄色砂質土
32. 黒色炭灰(床2上面堆積層)
33. 暗黒色炭灰(床1上面堆積層)
34. 淡黄色礫砂土
35. 窯壁
36. 窯壁
37. 橙色粘土(焼土)
38. 明橙色粘土(焼土)
39. 暗黄褐色粘土
40. 暗褐灰色粘土
41. 橙灰色シルト
42. 黄褐色シルト
43. 黄褐色シルト
44. 暗黄褐色シルト
45. 暗褐灰色シルト
46. 暗褐色粘土(炭灰含む)
47. 橙灰色粘土(焼土)
48. 黄色シルト
49. 淡黄色シルト
50. 淡黄色シルト
51. 暗褐灰色粘土
52. 褐色シルト
53. 淡褐色シルト

0 2m

第13図　ＴＩＭ89－２区、近世遺構・太満池北窯平断面図

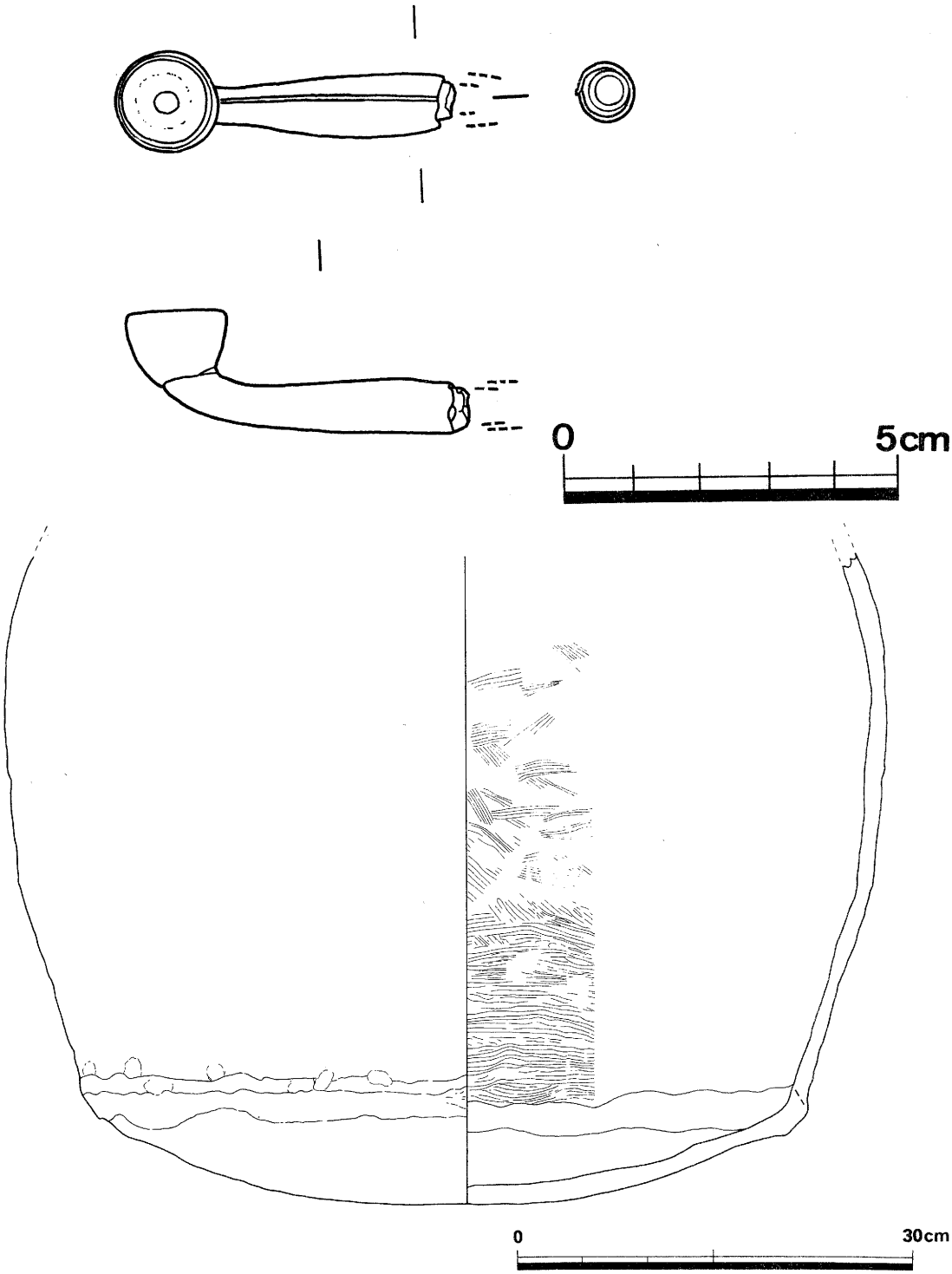


第14図　溝１土器出土状況



1. 明灰色シルト
2. 明灰褐色シルト
3. 灰褐色シルト
4. 灰黄色シルト
（直径１cm程度の礫を若干含む）
5. 淡灰黄色シルト
6. 灰黄色シルト
（４より黄色が強い）
7. 明灰色シルト
8. 淡灰色シルト
9. 淡青灰色シルト
（直径２mm以下の礫を含む）
10. 灰褐色粘土

第15図　土坑土層断面図



第16図　近世遺構出土遺物

部へ向って緩く広がり、肩がない。首部成形時の接合痕が背面にみられ、その合わせ目は右側の板を上にしている。脂返しは緩やかに彎曲し、火皿と首部の接合部に接合痕が観察される。補強帯は付かない。このキセルの雁首は古泉弘氏の分類で雁首第Ⅱ類Cに分類しうるものであり、氏によって江戸時代中期～後期に位置づけられている。[1]

溝1出土の土師質甕（第16図下）は口縁部～体部中位より上方を欠損しており、底部径52.0cm・体部最大径67.6cm・残存高50.9cmを測る。体部外面は著しく磨耗しているために観察が困難であるが、体部外面はハケのちナデ消し、体部外面下方には縦方向のヘラ削りを施すようである。体部内面はハケ調整を施す。色調はにぶい黄橙色。胎土は密で、直径5mm以下の長石を含む。焼成はやや良。江戸時代後期の湊焼きであろう。

3. 太満池北窯

（遺構）　（第13図・第17図）（図版10・11・12・13）

太満池北窯は太満池東岸よりに位置し、旧天野川東岸の中位段丘崖に立地する。本窯はその窯体が露出していたために早くから遺存が知られており、『狭山町史』においても「窯番号1　太満池A窯　時期Ⅲ期　窯が遺存」と記され、その写真も掲載されている。[2] 本窯の調査開始前も、段丘崖における窯体南側壁および床の露出・遺存が顕著であった。（図版10－b）

近世遺構面直下および20cm下層において赤変箇所・焼土が観察されたため、段丘崖の露出部分に対応する窯体両側壁の検出に努めた。結果、調査区ほぼ中央に位置する本窯は、その主軸方向をN－82°－Wとし、ほぼ西に開口することが確認された。窯体幅は西側で上端幅約1.8m・下端幅約1.6m、東側で上端幅約1.5m・下端幅約1.3mを測り、奥から開口部に向けてやや広がっている。主軸方向の長さは調査区内では2.3mを測るが、さらに東側の鉄工所建物下へと窯体は続く。

窯壁は特に南側壁が良好に遺存し、残存高1.1mを測り、淡青灰色に還元している。現存部分でみる限り、窯壁は垂直なたちあがりを示している。また、南側壁開口部付近では床面より50cm上方以上の部位で壁の貼替が一回分認められる。しかし、同窯壁の大部分においてはそれが確認できないためにこの貼替は部分補修的なものにとどまるものと思われる。北側壁はほぼ全面が内側に倒壊しており、還元されていない窯壁外側の落ち込み面をもって窯体北端を確認した。

また、天井部は当初床面より1.2m程の箇所に構築されていたものと推定しうるが、土圧によって床面より0.8m、窯体内埋土上に崩落した状態で検出された。これは細かく破砕していたため、除去した。

床面は地山を約60cm掘り込んだところに設けられており、2枚存在する。（第17図）下層の床1・上層の床2のそれぞれ上面には、かき出されて堆積した暗黒色・黒色の炭灰、およびその堆積層中からは破棄された須恵器が検出された。この堆積した炭灰の厚さは、

床１で約10cm・床２で約15cmである。床面のレベルは西側と東側で、床１が約30cm、床２が約28cmの高低差を示すが、全体的に緩やかな傾斜であり、傾斜変換点はさらに東側奥の調査区外に存在するものと想定される。これら炭灰の堆積状況および床面傾斜角から、当該部位は太満池北窯の燃焼部であると考えるものである。

ところで、本窯の焚口は既に欠失しているが、この破壊はおそらく池の浸食作用等をその要因とするものと思われる。また、灰原の遺存については、本窯西端より西へ８ｍの範囲で東西方向のトレンチ、本窯西端より西へ８ｍ地点で南北15ｍのトレンチ、本窯西端より西へ５ｍ地点で南北15ｍのトレンチを設定して土層断面観察を行い、地山が急激な傾斜で落ち込む、全面調査区域より西へ約３ｍの範囲内で既にほぼ露出していた地山面を再確認したが、灰土層等を検出するに至らなかった。つまり、本窯の現在の西端より西へ10ｍ以上離れた、冬季にも水が残る箇所の泥土下においては不明であるが、今回調査を実施した本窯西側120㎡の範囲内には灰原は遺存しない。

調査区東端以東についてであるが、前述のように検出された窯体は燃焼部のみであり、なおも窯体は東方へと続き、焼成部が鉄工所建物下に遺存するものと思われる。しかしながら、当該地点における中位段丘崖・中位段丘面の遺存状況が不明であるに加えて、焼成部の崩落した天井部上層においてその埋土内から須恵器片・窯壁片が検出されることにより、焼成部は多少の破壊を受けているものと推察される。

（遺物）　　（第18図・第19図）（図版14・15）

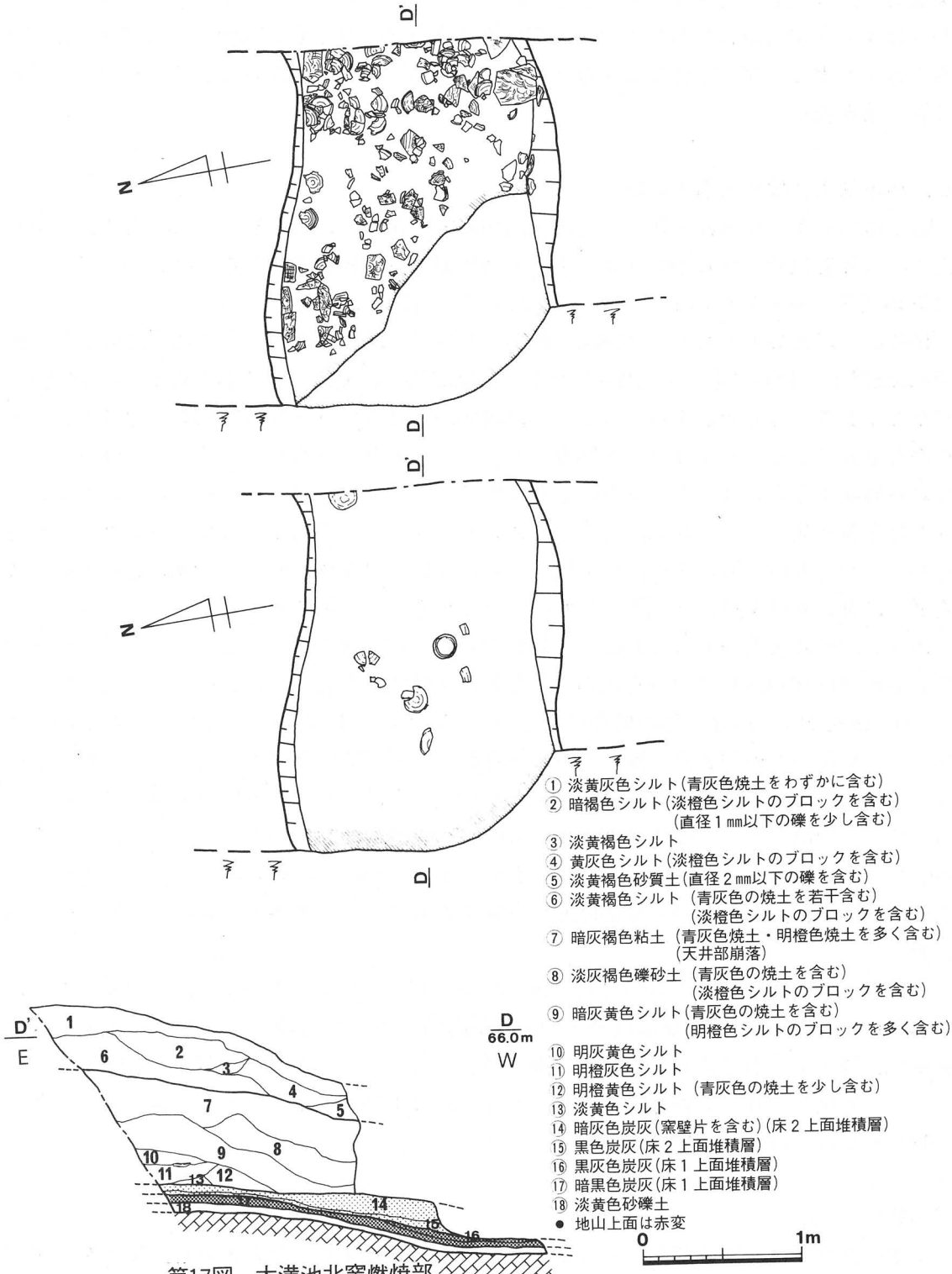
今回の調査で本窯から出土した須恵器の総量はコンテナ約７箱分である。窯体埋土内出土の須恵器には杯蓋・杯身・高杯・甕があるが、いずれも小片であるために図示しうるものが少なかった。よって、本報告では燃焼部床１・床２の堆積層内検出の須恵器のうち図示しうるもの、杯蓋・杯身・高杯・高杯蓋・短頸壺の計76点を掲載した。（第18図・第19図・第２表）個々の資料については第２表で土器観察を行っているので、ここではその概ねを述べる。

ａ．燃焼部床１堆積層出土遺物

床１堆積層からは杯蓋・杯身・甕が出土している。ここに図示しえたのは杯蓋３点・杯身３点である。（第18図１～６）（図版14　１～４）

杯蓋の口径は最大のもので14.5cm、最小のもので12.0cmを測り、その器高は最大のもので3.6cm以上、最小のもので2.8cmを測る。口縁端部の処理はやや丸くおさめるものと、やや鋭いものがある。天井部は２がやや低くやや丸いが１・３は低く平らもしくは平らに近い。口縁部は３点とも下外方に下っている。（第２表・第５表）

杯身の口径は最大のもので14.5cm、最小のもので12.0cmを測る。その器高は最大のもので4.0cm以上、最小のもので3.2cmを測る。たちあがり高は４・６が0.9cm、５が1.0cm



第17図　太満池北窯燃焼部

● 平面図(遺物出土状況：上－床2、中－床1)

● 土層断面図(下)

を測る。口縁端部の処理は４・５がやや鋭いかもしくは鋭く、６は丸くおさめる。たちあがりは４・５が内傾したのち中位・端部付近で上方にのび、６が内傾してのびる。受部は外上方・水平にのび、底体部は３点とも平らに近く、４・６が浅めで５がやや深い。（第２表・第６表）

ｂ．燃焼部床２堆積層出土遺物

床２堆積層からは杯蓋・杯身・高杯・高杯蓋・短頸壺蓋が出土している。ここに図示しえたのは杯蓋24点・杯身39点・高杯１点・高杯蓋１点・短頸壺蓋５点の計70点である。（第18図７～38・第19図39～76）（図版14　５～10・図版15　１～10）

杯蓋の口径は最大のもので16.8cm、最小のもので12.0cmを測り、その器高は最大のもので4.5cm以上、最小のもので3.2cmを測る。口縁端部の処理は、丸くおさめるものが20点、やや丸くおさめるものが４点を数える。口縁部が下外方に下るものは12点、下外方に下ったのち下方に下るものは５点、下外方に下ったのち垂直に下るものは２点、下外方に下ったのち外反するものは２点、下方に下るものは２点、下方に下ったのち下外方に下るものは１点を各々数える。天井部は高くやや丸いもの３点、やや高く平らなもの１点、やや低く丸い（やや丸い）もの５点、やや低く平らに近いもの３点、低くやや丸いもの１点、低く平らに近いもの４点、低く平らなもの６点を数える。（第２表・第７表）

杯身の口径は最大のもので15.3cm・最小のもので10.6cmを測る。その器高は最大のもので4.3cm、最小のもので2.4cmを測る。たちあがり高は最も高いもので1.2cm、最も低いもので0.5cmを測る。口縁端部の処理は丸くおさめるものが11点、やや丸くおさめるものが16点、やや鋭いものが８点、鋭いものが４点ある。たちあがりは内傾してのびるものが14点、内傾したのち中位で上方にのびるものが10点、内傾したのち中位で上内方にのびるものが２点、内傾したのち中位で直立するものが３点、内傾したのち低位で上方にのびるものが２点、内傾したのち低位で直立するものが１点、内傾したのち端部付近で上方にのびるものが６点、内傾したのち端部付近で直立するものが１点を各々数える。（第２表・第８表）

短頸壺蓋の口径は最大のもので12.3cm、最小のもので10.0cmを測る。器高は最大のもので3.6cm以上を測る。口縁端部は48・50・51が内傾する平面を成し、52がほぼ水平な平面を成し、53が丸くおさめる。口縁部は48が垂直に下ったのち外反し、50・52が下外方に下ったのち外反し、51が下外方に外反して下り、53は下外方に下ったのち内彎する。天井部は48がやや高いほかはやや低い。

（小結）

本窯の調査では、焼成部からかき出されて燃焼部に溜まったと考えられる炭灰が、明確に２層確認しえたため、それぞれの炭灰堆積層直下の面が操業時の床面として機能したも

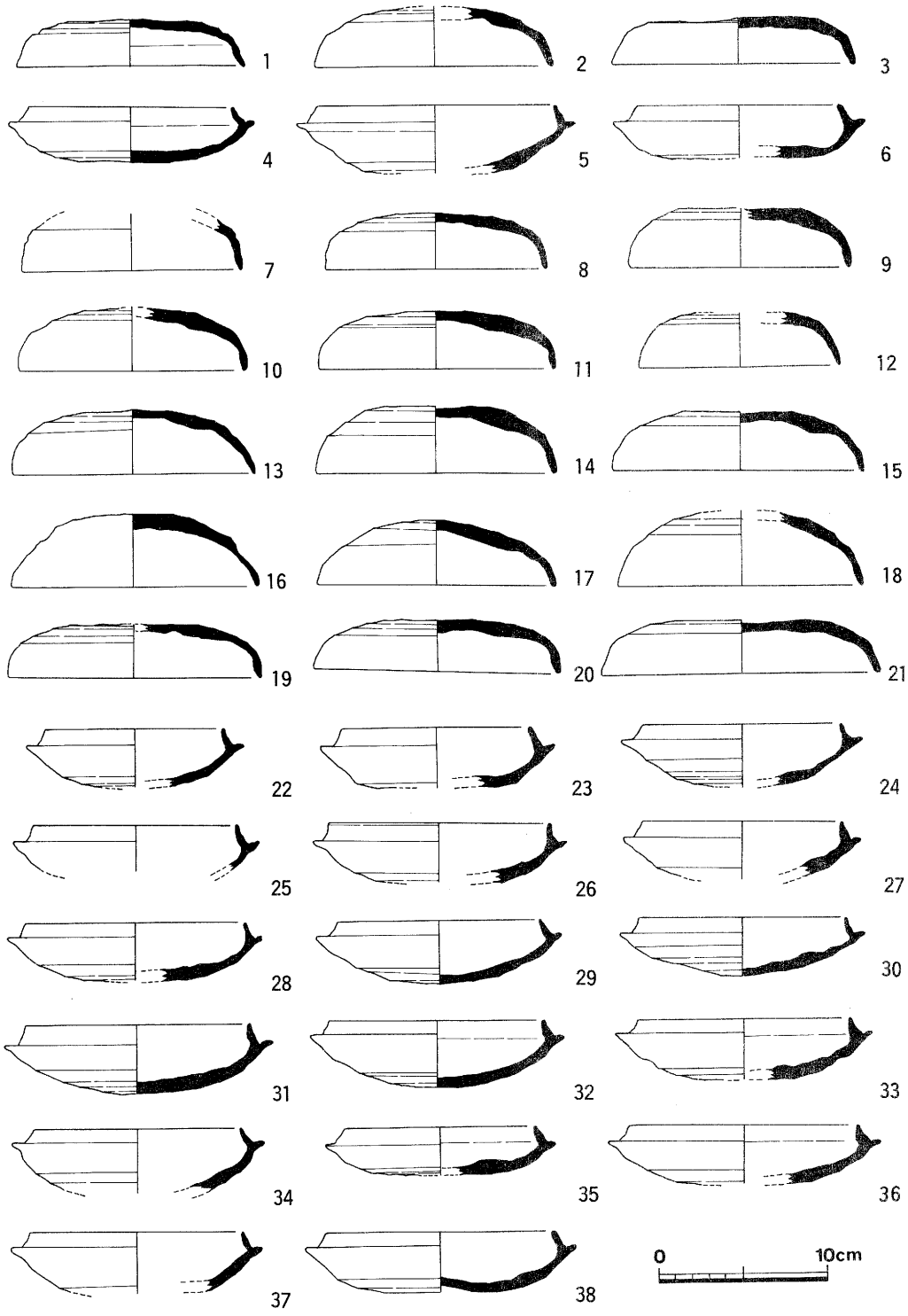
のと推定した。また、各々の炭灰層内においてはそれ以上の分層は不可能であった。このため、本窯では最低２回の操業（窯焚き）が行われたものと考える。

ゆえに、調査時には床面直上堆積層毎に須恵器の取り上げを試みたのであるが、床１上面堆積層内におけるその個体数が非常に少なかったため、床１上面堆積層内検出の須恵器と床２上面堆積層内検出の須恵器の形態等の対比を、数量的に良好な条件下で行うことができなかった。

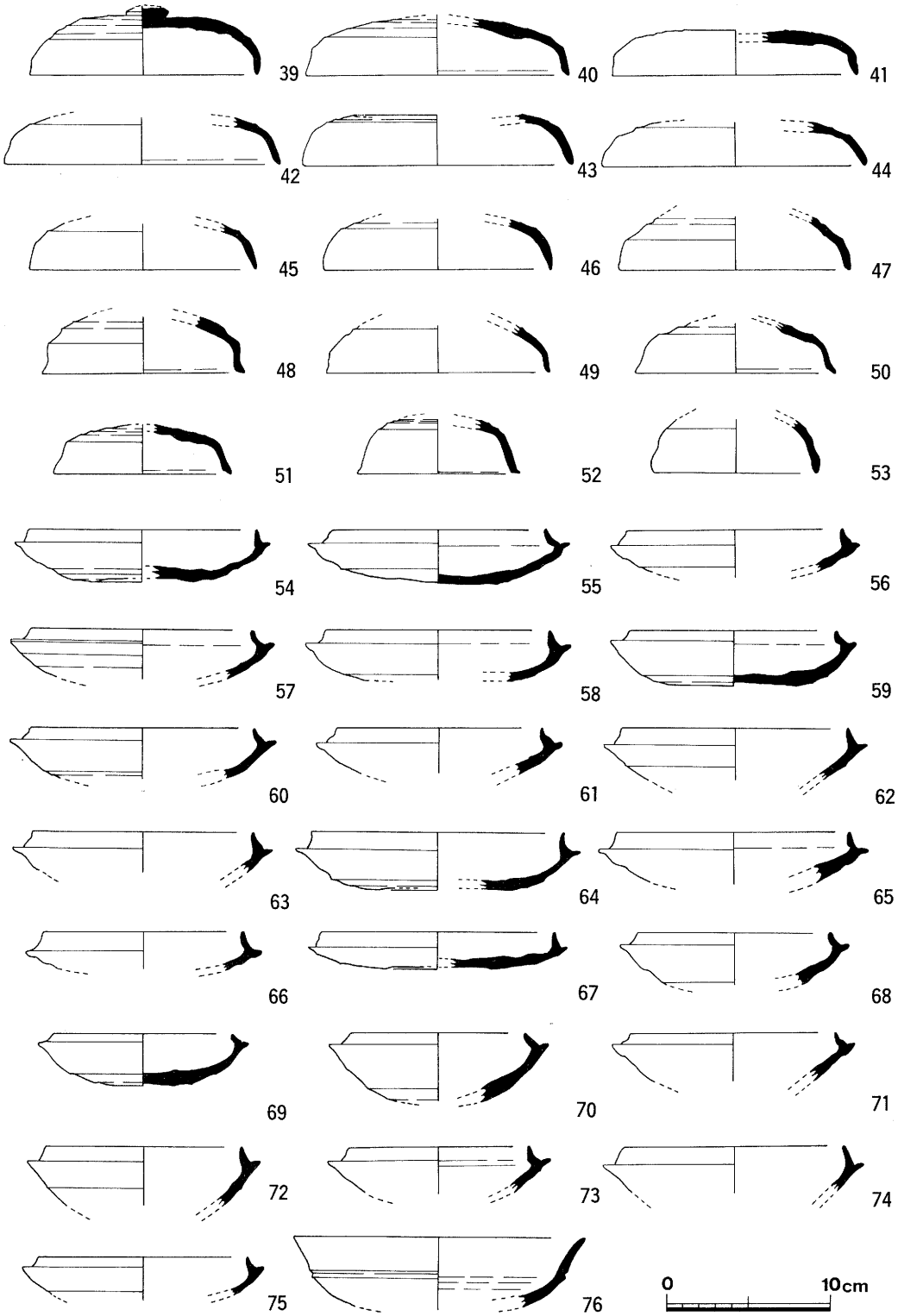
しかしながら、床１上面堆積層内検出の杯蓋・杯身はＴＫ43型式[3]の範疇に収まるようであり、床２上面堆積層内検出の杯蓋・杯身は、口径が大きく底体部の浅いものが多く見受けられ、ＴＫ43型式に比定しうるものを含むものの、その多くはＴＫ209型式[3]の範疇に収められよう。

生産地においても消費地においても、ＴＫ43型式とＴＫ 209 型式の須恵器が想像以上に混在して出土するように看取され、既報の窯跡発掘調査においても窯体毎および焼成床面毎、または灰原等の層序毎にＴＫ43型式とＴＫ 209 型式の須恵器を明確に分離しうる検出がなされた例は少ないように思われる。[4]この太満池北窯燃焼部もそれと同様な状況を示す一資料として評価できようか。

(1) 古泉　弘「江戸」『都立一橋高校地点発掘調査報告』1985年
(2) 森　浩一「第一章第三節　土器の生産」『狭山町史』第一巻、本文編、1967年
(3) 田辺昭三「陶邑古窯址群Ⅰ」『平安学園考古学クラブ研究論集』第10号、1968年
(4) ＴＫ43－Ⅰ号窯においても、その焼成部最終床面上・灰原出土の須恵器にはＴＫ43型式に比定しうるものとＴＫ 209 型式に比定しうるものの双方を含むであろうことが、その報告書掲載出土遺物実測図・遺物写真から伺える。（大阪府教育委員会「陶邑Ⅴ」『大阪府文化財調査報告書』第33輯、1982年）



第18図　太満池北窯出土遺物（1）（1～6：燃焼部床1堆積層
7～38：燃焼部床2堆積層）



第19図　太満池北窯出土遺物（２）（燃焼部床２堆積層）

まとめ

今回の調査では太満池東岸に所在する2基の須恵器窯の発掘を実施した。狭山池とならんで大阪狭山市を代表する溜池である太満池が、埋め立てという形でその長い歴史に幕を閉じたのは痛恨の極みというべきであるが、埋め立てに先立つ発掘調査によって多くの成果を手にすることができたのは不幸中の幸いであった。

今回の調査の結果、太満池東岸に位置する2基の須恵器窯跡はほとんど同時期に営まれていたことが確認できた。またそれらの窯のうち北窯においては杯と甕の出土が目立ち、南窯からは高杯、瑞等多彩な器種が出土している。隣接して所在する同じ時期の窯の遺物にこのような差異がみられることは、窯間で機能の差があったことを感じさせる。

大阪狭山市は陶邑窯跡群の西端に位置しており、市内でもこれまでに約80箇所の須恵器窯が確認されている。その大半は分布調査によって所在を確認されただけのものであり、その詳細については今後の調査の結果を待たなければならないのであるが、その限定された知見によれば、本市の須恵器窯は今回発掘された2基の窯と同時期のものが圧倒的に多いといえる。なぜこの時期に多くの須恵器窯がこの地に営まれたのか、そして須恵器の生産に従事した工人たちは一体どこに住んでいたのか、発掘成果を地域史に昇華する段階での多くの謎はいまだ残されたままである。今後は発掘調査によって市内の須恵器窯の全容を明らかにするとともに、その保存、有効利用についても努力を重ねていきたい。

遺 物 観 察 表

第１表　太満池南窯出土遺物観察表

第２表　太満池北窯出土遺物観察表

太 満 池 南 窯

第1表

器種	図面図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯蓋	4－1	口径 14.4 器高 4.3	口縁部は下方に下り、端部は丸くおさめる。天井部は高く丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面2/3、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：内一青灰色、外一灰色。胎土：密。白色微砂粒を含む。焼成：良好、堅緻。残存：1/2。反転復元。
同上	4－2 3－1	口径 14.0 器高 4.3	口縁部は下外方に下ったのち下方に下る。口縁端部は丸くおさめる。天井部体部の境界に非常に鈍い凹線がめぐる。天井部は高くほぼ丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面3/4、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。0.1mm～2mmの白色砂粒を含む。焼成：良好、堅緻。ほぼ完形。
同上	4－3 3－2	口径 14.4 器高 4.4	口縁部は内弯気味に下り、端部は丸くおさめる。天井部は高く丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面4/5、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：内一灰褐色、外一暗灰色。胎土：密。白色微砂粒を含む。焼成：良好。残存：3/4。反転復元。ヘラ記号：天井部外面に「一」。
同上	4－4	口径 12.4 器高 4.5	口縁部は下方に下り、端部は丸くおさめる。天井部は高くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面2/3、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。0.1mm～3mmの白色砂粒を含む。焼成：良好、堅緻。残存：1/4。反転復元。
同上	4－5 3－3	口径 13.2 器高 4.1	口縁部はほぼ下方に下り、端部は丸くおさめる。天井部は低く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面3/4、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：青灰色。胎土：密。0.1mm～3mmの白色砂粒を少し含む。焼成：良好、堅緻。残存：4/5。
同上	4－6 3－4	口径 14.2 器高 4.1	口縁部は下外方に下り、端部は丸くおさめる。天井部は高く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面3/4、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：青灰色。胎土：密。1mmの白色砂粒を若干含む。焼成：良好、堅緻。残存：2/3。反転復元。ヘラ記号：天井部外面に「一」。
同上	4－7	口径 14.0 器高 3.7	口縁部は下外方に下り、端部は丸くおさめる。天井部は低く平らに近い。	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面2/3、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。1mmの白色砂粒を含む。焼成：良好、堅緻。残存：5/6。
同上	4－8 3－5	口径 14.4 器高 3.7	口縁部は下外方に下り、端部は丸くおさめる。天井部は低く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面2/3、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：明青灰色。胎土：密。1.5mmの白色砂粒を含む。焼成：良好、堅緻。残存：3/4。
同上	4－9	口径 14.0 器高 3.5	口縁部は下外方に下ったのち下方に下る。口縁端部は丸くおさめる。天井部は低く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面3/4、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰白色。胎土：密。1.0mmの白色砂粒を若干含む。焼成：良好、堅緻。残存：3/5。反転復元。
同上	4－10	口径 13.2 器高 3.7	口縁部は垂直に下り、端部は丸くおさめる。天井部は低く平らに近い。	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面4/5、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：暗青灰色。胎土：密。4mmの白色砂粒を若干含む。焼成：良好、堅緻。残存：2/5。

器種	図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯蓋	4－11 3－6	口径 14.2 器高 4.8	口縁部は内弯気味に下方に下り、端部は丸くおさめる。 天井部は低く平らに近い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面4/5、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：内－灰褐色、外－灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。焼成：良好。 残存：7/8。ヘラ記号：天井部外面に「＝」がある。
同上	4－12 3－7	口径 13.9 器高 4.3	口縁部は下外方に下り、端部は丸くおさめる。 天井部は高く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面3/4、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰白色、一部黒色。 胎土：密。2㎜～2.5㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好、堅緻。 ほぼ完形。
同上	4－13	口径 14.8 器高 3.7	口縁部は下外方に下り、端部は丸くおさめる。 天井部は低く平らに近い。	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面3/4、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。7㎜の白色砂粒をわずかに含む。 焼成：良好、堅緻。 残存：1/4。反転復元。
同上	4－14	口径 14.3 器高 3.4	口縁部は垂直に下ったのち下外方に下る。 口縁端部は丸くおさめる。 天井部は高く丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面1/2、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好、堅緻。 残存：1/4。反転復元。
同上	4－15 3－8	口径 14.1 器高 3.4	口縁部は垂直に下り、端部は丸くおさめる。 天井部は低く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面2/3、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰白色。 胎土：密。1㎜～2㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好、堅緻。 残存：3/4。
同上	4－16	口径 14.0 器高 3.4	口縁部は下外方に下り、端部は丸くおさめる。 天井部は低く平らに近い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面3/4、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。 胎土：密。3㎜の白色砂粒をわずかに含む。 焼成：良好、堅緻。 残存：1/4。反転復元。
同上	4－17	口径 12.9 器高 3.3	口縁部は内弯気味に下ったのち下外方に下る。 口縁端部はやや鋭い。 天井部は低く、やや凹む。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面2/3、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：内－灰色、外－青灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好、堅緻 残存：1/5。反転復元。
同上	4－18 3－9	口径 13.6 器高 3.3	口縁部は下方に下り、端部は丸くおさめる。 天井部は低く平らに近いが、焼き歪みのために一部凹む。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面3/4、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：青灰色、一部橙色。胎土：密。3㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：やや不良。残存：5/6。 ヘラ記号：天井部外面に長さ12.5cmの「—」がある。
杯身	4－19 4－1	口径 11.2 受部径 14.2 器高 3.2 たちあがり高 1.0	たちあがりは内傾したのち、中位で上方にのびる。 端部はやや鋭い。 受部は外上方にのび、端部は丸くおさめる。 底体部はやや深くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰黄色。 胎土：密。3㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良。 残存：3/4。
同上	4－20	口径 11.6 受部径 14.0 器高 3.7 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾しながらやや上方にのび、端部はやや鋭い。 受部は外上方にのび、端部は丸くおさめる。 底体部はやや深くほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：外面－灰色、内面－褐灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を含む。焼成：良。 残存：3/5。反転復元。

器種	図面 図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯 身	4－21 4－2	口径 14.4 受部径 14.6 器高 4.2 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾したのち、端部付近でほぼ直立する。端部はやや鋭い。受部は外上方にのび、端部はやや鋭い。底体部はやや深くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面2/3、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：黒褐色。 胎土：密。2㎜～2.5㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。残存：2/3。底部全体に自然釉。窯壁片付着。
同 上	4－22 4－3	口径 12.0 受部径 14.5 器高 4.0 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾したのち、端部付近でやや上方にのびる。端部は鋭い。受部はやや外上方にのび、端部はやや鋭い。底体部はやや浅くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面5/6、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青黒色。一部赤褐色。 胎土：やや粗。1㎜～3㎜の白色砂粒を多く含む。 焼成：やや良。 ほぼ完形。底部一部剝離。
同 上	4－23 4－4	口径 11.8 受部径 14.6 器高 3.7 たちあがり高 1.0	たちあがりは内傾したのち、中位でやや上方にのびる。端部はやや丸くおさめる。受部はほぼ水平にのび、端部は丸くおさめる。底体部はやや浅くほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面5/6、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：明青灰色。底体部外面一部黒褐色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好、堅緻。残存：7/8。窯壁片付着。
同 上	4－24 4－5	口径 12.4 受部径 15.0 器高 3.7 たちあがり高 1.1	たちあがりは内傾したのち、中位でやや直立する。端部は丸くおさめる。受部はほぼ水平にのび、端部は丸くおさめる。底体部はやや浅く若干丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面2/3、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。底体部外面一部暗灰色。胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好、堅緻。残存：5/6。底体部外面窯壁片付着。内面灰かぶり。
同 上	4－25	口径 12.4 受部径 15.0 残存高 3.5 たちあがり高 1.1	たちあがりは内傾したのち、上方にのびる。端部はやや鋭い。受部はやや外上方にのび、端部は丸くおさめる。底体部は浅くほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面5/6、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：内－黄灰色、外－黒褐色。胎土：密。3㎜の白色砂粒を含む。焼成：良。残存：1/2。底体部外面土器片熔着、自然釉付着。
同 上	4－26	口径 12.4 受部径 14.8 残存高 3.9 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾してのび、端部は鋭い。受部はほぼ水平にのび、端部はやや鋭い。 底体部はやや深くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。胎土：密。3㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：1/5。反転復元。体部外面に重ね焼の際の土器片熔着。受部自然釉付着。
同 上	4－27	口径 12.8 受部径 15.2 残存高 3.7 たちあがり高 1.0	たちあがりは内傾したのち、中位でやや直立する。端部は丸くおさめる。受部はやや外上方にのび、端部は丸くおさめる。 底体部はやや深い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面5/6、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰青色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：1/5。反転復元。
同 上	4－28	口径 11.4 受部径 14.0 残存高 3.9 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾したのち、端部付近でやや上方にのびる。端部はやや丸くおさめる。受部はほぼ水平にのび、端部は丸くおさめる。底体部はやや深くほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面5/6、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：にぶい赤褐色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒をわずかに含む。 焼成：やや良。 残存：1/4。
同 上	4－29	口径 12.6 受部径 15.1 残存高 3.8 たちあがり高 1.0	たちあがりは内傾したのち、低位で上方にのびる。端部は丸くおさめる。受部は上外方に短くのび、端部は丸くおさめる。底体部はやや深い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：淡いオリーブ灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：やや良。 残存：3/5。
同 上	4－30	口径 12.9 受部径 15.1 残存高 3.6 たちあがり高 1.1	たちあがりは内傾したのち、中位で直立する。端部は丸くおさめる。受部は上外方にのび、端部は丸くおさめる。底体部は浅くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。残存：1/3。 底体部外面灰かぶり。

器種	図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯身	4－31 4－6	口径 11.6 受部径 14.6 器高 3.3 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾したのち中位でやや上方にのびる。端部はやや丸くおさめる。受部は外上方にのび、端部は丸くおさめる。底体部は浅く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面4/5、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。底体部・たちあがり外面一部暗赤褐色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。焼成：良好。ほぼ完形。底体部外面窯壁片熔着。
同上	4－32 4－7	口径 12.6 受部径 15.1 器高 4.1 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾したのち端部付近で上方にのびる。端部はやや鋭い。受部は上外方にのび、端部はやや鋭い。底体部はやや深く丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面5/6、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。胎土：密。3㎜の白色砂粒を若干含む。焼成：やや良。ほぼ完形。底体部内面一部灰かぶり。受部・体部外面一部窯壁片付着。
同上	4－33 4－8	口径 12.9 受部径 15.6 器高 3.7 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾したのち、端部で上方にのびる。端部はやや鋭い。受部はほぼ水平にのび、端部は丸くおさめる。底体部は浅く若干丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面9/10、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色 胎土：密。5㎜の白色小石をわずかに含む。3㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好、堅緻。 残存：8/9。
同上	4－34	口径 13.5 受部径 15.6 器高 4.3 たちあがり高 1.3	たちあがりは内傾してのび、端部はやや丸くおさめる。受部はほぼ水平にのび、端部は丸くおさめる。底体部はやや深くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面5/6、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：暗青灰色。一部灰赤色。 胎土：密。1㎜～2㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好、堅緻。 残存：1/2。反転復元。
同上	4－35 4－9	口径 12.2 受部径 15.0 器高 3.5 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾してやや短くのび、端部は鋭い。受部はほぼ水平にのび、端部は丸くおさめる。底体部は浅く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面7/8、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：内－灰白色、外－暗青灰色。胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。焼成：良好。 残存：7/8。内面、体部外面灰かぶり。受部自然釉付着。
杯蓋	5－36	口径 14.0 残存高 4.0	口縁部は下方に下り、端部は丸くおさめる。天井部はやや高くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面3/4、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：体部内面－灰白色。天井部内面－灰色。外面－褐灰色。一部灰色。胎土：やや密。1㎜の白色砂粒を多く含む。 焼成：良好。残存：1/3。
同上	5－37	口径 16.0 残存高 4.0	口縁部は若干内弯気味に下ったのち下方に下る。端部はやや丸く、内面に内傾するあまい凹面を成す。天井部体部境界に鈍い凹線がめぐる。天井部は低く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面7/8、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒をわずかに含む。 焼成：良好、堅緻。 残存：1/4。反転復元。
同上	5－38	口径 13.6 残存高 3.7	口縁部は下方に下ったのち、端部付近でやや内弯する。端部は丸くおさめる。天井部はやや低くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面5/6、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：内－灰色、外－黒褐色。 胎土：やや密。3㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。残存：1/2。反転復元。外面一部窯壁片付着。
同上	5－39	口径 13.6 残存高 3.3	口縁部は下外方に下ったのち、端部付近でやや内弯する。端部は丸くおさめる。天井部は低く平らに近い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面5/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：暗灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：1/6。反転復元。
同上	5－40	口径 14.1 器高 3.7	口縁部はやや下外方に下ったのち垂直に下る。端部は丸くおさめる。天井部は低く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：暗青灰色。 胎土：密。3㎜の白色砂粒をわずかに含む。 焼成：良好、堅緻。 残存：4/9。反転復元。

器種	図面 図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯 蓋	5－41	口径 15.6 残存高 3.8	口縁部はやや下方に下り、端部は丸くおさめる。 天井部はやや高く丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：1/4。反転復元。
同 上	5－42	口径 13.6 器高 3.1	口縁部は下外方に下り、端部は丸くおさめる。 天井部体部境界に非常に鈍い凹線がめぐる。 天井部は低く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面7/8、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。3㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良。残存：1/4。反転復元。天井部外面上器片付着。
同 上	5－43	口径 14.6 器高 3.2	口縁部は下外方に下り、端部はやや丸くおさめる。 天井部は低く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。3㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好、堅緻。 残存：1/3。反転復元。
同 上	5－44	口径 13.6 器高 2.8	口縁部は下外方に下ったのち、ややド方に下る。 端部はやや鋭い。 天井部は低く中央で凹む。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面5/6、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好、堅緻。 残存：1/4。反転復元。
同 上	5－45	口径 15.2 器高 3.6	口縁部は下外方に下り、端部は丸くおさめる。 天井部は低く平らに近い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面5/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：内－明灰色、外－灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：1/7。反転復元。
同 上	5－46 3－10	口径 16.0 器高 3.8	口縁部は下外方に下ったのち垂直に下る。 端部は丸くおさめる。 天井部は低く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面3/4、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：内－灰色、外－暗灰色。 胎土：やや粒。1㎜の白色砂粒を多く含む。 焼成：良好。 残存：3/4。
同 上	5－47	口径 13.5 器高 3.0	口縁部は垂直に下り、端部は丸くおさめる。 天井部は低く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面6/7、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。口縁部外面はのち縦方向の刷毛のち回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：暗青灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良。 残存：1/4。反転復元。
同 上	5－48	口径 13.0 器高 3.8	口縁部は下外方に下ったのち下方に下る。 端部は丸くおさめる。 天井部はやや低くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面7/8、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：内－灰色、外－暗緑灰色。胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：1/2。反転復元。
同 上	5－49	口径 12.6 残存高 3.2	口縁部は下外方に下ったのち下方に下る。 端部は丸くおさめる。 天井部は低く平らに近い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面4/5、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：内－青灰色、外－灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒をわずかに含む。 焼成：良。 残存：1/4。反転復元。
同 上	5－50	口径 14.0	口縁部は下方に下り、端部は丸くおさめる。 天井部はやや低くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：内－灰色、外－暗灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。 残存：4/7。反転復元。ヘラ記号：天井部外面に「—」。

器種	図面図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯蓋	5－51	口径 14.6 器高 3.8	口縁部は下外方に下ったのち、下方に下る。 端部はやや鋭い。 天井部は低く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面5/6、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。残存：2/5。 体部・口縁部外面に窯壁片付着。
同上	5－52	口径 12.5 器高 4.9	口縁部は下外方に下ったのち、垂直に下る。 端部は丸くおさめる。 天井部は高く丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。3㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好、堅緻。 残存：2/3。反転復元。
同上	5－53	口径 14.0 器高 4.5	口縁部は下外方に下ったのち、下方に下る。 端部は丸くおさめる。 天井部は低く平ら。 天井部体部の境界に沈線がめぐる。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面2/3、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。一部赤褐色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。焼成：良好。 残存：1/2。反転復元。ヘラ記号：天井部外面に「—」。
同上	5－54	口径 14.8 器高 3.3	口縁部は垂直に下り、端部は丸くおさめる。 天井部は低く平らで、中央で凹む。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：内—灰色、外—暗灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。焼成：良好。 残存：4/5。ヘラ記号：天井部外面にあり。
杯身	5－55	口径 12.4 受部径 15.9 器高 3.4 たちあがり高 0.8	たちあがりは内傾してのび、端部はやや鋭い。 受部は外上方にのび、端部はやや鋭い。 底体部はやや浅く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面5/6、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：内—暗赤色、外—灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。 残存：1/3。反転復元。受部、体部外面に土器片熔着。
同上	5－56	口径 11.8 受部径 14.4 残存高 3.5 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾したのち、中位で上方にのびる。 端部はやや鋭い。 受部は外上方にのび、端部は丸くおさめる。 底体部は浅く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面5/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好、堅緻。 残存：1/4。反転復元。
同上	5－57	口径 12.4 受部径 15.3 残存高 3.7 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾してのび、端部はやや丸くおさめる。 受部は外上方にのび、端部は丸くおさめる。底体部はやや浅くほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面5/6、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒をわずかに含む。 焼成：良好、堅緻。 残存：1/4。反転復元。
同上	5－58	口径 12.2 受部径 15.2 器高 2.9 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾したのち、端部付近であまい段を成して上方にのびる。 端部は丸くおさめる。受部はやや外上方にのび、端部は丸くおさめる。底体部は浅く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰青色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好、堅緻。 残存：1/4。反転復元。
同上	5－59	口径 13.2 受部径 15.8 器高 3.6 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾したのち、端部付近で上方にのびる。 端部は丸くおさめる。 受部は外上方にのび、端部はやや丸くおさめる。 底体部はやや浅く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面5/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：明灰青色。 胎土：密。3㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：1/2。反転復元。
同上	5－60	口径 12.6 受部径 15.2 器高 3.5 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾してのび、端部はやや鋭い。 受部は水平にのび、端部は丸くおさめる。 底体部は浅くほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：暗赤褐色。 胎土：密。3㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良。 残存：2/3。反転復元。

器種	図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯身	5－61	口径 13.6 受部径 16.2 残存高 3.1 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾したのち、中位でやや上方にのびる。端部は丸くおさめる。受部はほぼ水平にのび、端部は丸くおさめる。底体部は浅くほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面3/4、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：紫灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：2/5。反転復元。
同上	5－62 4－10	口径 13.7 受部径 16.8 器高 3.0 たちあがり高 0.8	たちあがりは内傾したのち、端部付近でやや上方にのびる。端部は丸くおさめる。受部は外上方にのび、端部は丸くおさめる。底体部は浅くほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面5/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。3㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：7/8。
同上	5－63	口径 12.0 受部径 14.8 残存高 2.8 たちあがり高 0.8	たちあがりは内傾したのち、端部でやや上方にのびる。端部はやや丸くおさめる。受部はやや外上方にのび、端部は丸くおさめる。底体部は浅く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面5/6、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰青色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：1/4。反転復元。
同上	5－64	口径 13.8 受部径 16.4 残存高 3.5 たちあがり高 0.8	たちあがりは内傾したのち、端部付近であまい段を成し、上方にのびる。端部は丸くおさめる。受部はやや外上方にのび、端部は丸くおさめる。底体部は浅く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面7/8、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良。残存：1/6。反転復元。底部外面窯壁片付着。
同上	5－65	口径 12.6 受部径 15.2 残存高 3.7 たちあがり高 0.8	たちあがりは内傾してのび、端部は丸くおさめる。受部は上外方にのび、端部はやや鋭い。 底体部はやや深くほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面7/8、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：内－灰黄色、外－灰色。 胎土：やや粗。2㎜の白色砂粒を多く含む。 焼成：やや良。 残存：1/3。反転復元。
同上	5－66	口径 14.0 受部径 16.4 器高 4.4 たちあがり高 0.7	たちあがりは内傾したのち、端部付近で上方にのびる。端部は丸くおさめる。受部はやや外上方にのび、端部は丸くおさめる。底体部はやや深く丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：橙色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：不良。 残存：2/3。
同上	5－67	口径 13.2 受部径 15.0 残存高 3.3 たちあがり高 0.8	たちあがりは内傾してのび、端部はやや鋭い。受部はやや外上方に短くのび、端部はやや鋭い。底体部は浅くほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面5/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：暗灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：1/4。反転復元。
同上	－68	口径 10.8 受部径 13.6 残存高 6.7 たちあがり高 0.7	たちあがりは内傾したのち、やや上方にのびる。端部は丸くおさめる。受部はやや外上方にのび、端部は丸くおさめる。 底体部は浅い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 残存部は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。 胎土：やや粗。1㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：1/4。反転復元。
高杯	6－69 5－1	口径 12.8 受部径 15.3 基部径 6.3 脚底径 12.2 器高 8.9 たちあがり高 1.1 脚高 5.2	たちあがりは内傾して上方にのび、端部はやや鋭い。受部は外上方にのび、端部は丸くおさめる。底体部はやや深く丸い。脚部は下外方に下ったのち、1/2下方で外下方に開いて下方に下り、裾部で外反する。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底体部外面5/6、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を多く含む。 焼成：良好、堅緻。 残存：ほぼ完形。

器種	図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
高杯	6－70 5－2	口径 12.6 受部径 15.4 基部径 6.5 脚底径 11.4 器高 8.8 たちあがり高 1.0 脚高 4.8	たちあがりは内傾したのち、中位で上方にのび、端部は丸くおさめる。受部は外上方にのび、端部は丸くおさめる。底体部はやや深く丸い。脚部は下方に下ったのち、1/2下方で外下方に開き下外方に下り裾部で外反。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底体部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰青色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を多く含む。 焼成：良好、堅緻。 残存：ほぼ完形。
高杯(杯部)	6－71 5－3	脚底径 11.3 基部径 5.9 残存高 4.0	脚部はやや下外方に下ったのち、中位で外下方に開き、外方にのびたのち外下方に下る。端部は内傾する凹面を成す。脚部1/2より下位、3方向に円孔スカシを有す。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：内－灰色、外－暗灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：脚部の1/3。
同上	6－72 5－4	脚底径 8.7 基部径 5.3 残存高 4.7 脚高 3.4	杯底部はほぼ平ら。上部は欠損。脚部は下外方に下ったのち外下方に開いて裾部に至り、端部はやや丸くおさめ、内側で接地。	マキアゲ、ミズビキ成形。 杯底部、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰白色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：やや不良。 残存：脚部の3/5。杯部一部。
同上	6－73 5－6	脚底径 8.0 基部径 4.8 残存高 3.7 脚高 2.5	杯底部は平らに近い。上部は欠損。脚部は下外方に下ったのち、脚部1/3より下位で外下方に開いて裾部とする。基部外面にタテ方向の沈線15本を有す。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナデ調整。	色調：灰白色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：やや不良。 残存：脚部の8/9。杯部一部。
同上	6－74	脚底径 14.4 残存高 6.7	脚部は下外方に開いて下り、1/2下方で段を成し、下外方に下り、裾部で外反し、端部はやや内傾する平面を成す。3方向に長方形スカシを有す。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナデ調整。	色調：灰色。 胎土：密。5㎜の白色小石をわずかに含む。 焼成：良好。 残存：脚部の1/3。反転復元。
同上	6－75	脚底径 15.0 残存高 5.8	脚部は下外方に開いて下り、下方1/3で段を成し、下外方に下り、裾部で外反し、端部は平面を成して接地する。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナデ調整。	色調：灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：脚部の1/5。反転復元。
高杯(杯部)	6－76	口径 6.8 残存高 4.4	口縁部は上外方にやや外反してのび、端部はやや丸くおさめる。底体部はやや深くやや丸い。底部・体部境界、底部1/2の位置にやや鋭い稜をめぐらす。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面3/5、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰青色。胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：杯部の2/5。反転復元。口縁部・体部・底部の一部、内面灰かぶり。
同上	6－77 5－5	口径 13.0 基部径 4.0 残存高 9.5	口縁部は上外方にのび、端部は丸くおさめる。底体部は深く丸い。底部・体部境界、底部2/5の位置にやや鈍い稜をめぐらす。脚部は下内方に下ったのち、外反しつつ下方に下る。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面1/4、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰青色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。残存：杯部1/3。脚部の一部。反転復元。
高杯(脚部)	6－78	脚底径 16.5 基部径 5.8 脚高 12.7	脚部は下内方に下ったのち、外反しつつ、下方に下り、下外方に下り、裾部内面で一部接地する。端部はやや外傾する凹面を成す。1/2上方に2条、裾部上方に1条の沈線をめぐらす。2段3方向の長方形スカシを有す。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナデ調整。 脚部内面のしぼり目は右方向。	ロクロ回転：右方向。 色調：内－灰色、外－暗灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：脚部の1/2。反転復元。

器種	図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
高杯(脚部)	6－79 5－8	脚底径 10.4 基部径 3.4 残存高 12.2 脚高 11.2	脚部はやや下内方に下ったのち、外反しつつ、下方に下り、下外方に下り、裾部で外方にのび、端部はやや内傾する平面を成す。1/2 上方に2条、脚部下方に1条の沈線をめぐらす。2段3方向長方形スカシを有す。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナデ調整。	色調：灰青色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好、堅緻。 残存：脚部完形。杯部一部。 外面一部灰かぶり。
同上	6－80	脚底径 16.8 残存高 7.6	脚部は下外方に開いて下り、裾部内面で一部接地して、やや外上方にのび、端部はやや外傾する凹面を成す。脚部中位に2条の沈線、裾部上方に非常に鈍い1条の沈線をめぐらす。2段4方向に長方形スカシを有す。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナデ調整。	色調：内一灰青色、外一青灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒をわずかに含む。 焼成：良好。 残存：脚部の1/6。反転復元。
同上	6－81 5－9	脚底径 19.2 基部径 4.4 脚高 20.2	脚部は下方に下ったのち、下外方に開いて下り、裾部外方に短くのび、端部は外傾する凹面を成し、内面に段を成す。1/2上方に2条、脚部下方に2条の沈線をめぐらす。2段3方向に長方形スカシを有する。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナデ調整。 脚部内面のしぼり目は右方向。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。 胎土：密。7㎜の白色小石をわずかに含む。3㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：脚部の2/3。一部反転復元。
同上	6－82	脚底径 16.7 残存高 9.1	脚部は下外方に開いて下り、裾部で非常にあまい段を成し、端部は外傾する凹面を、内面にあまい段を成す。脚部中位に2条の沈線、裾部上方に非常に鈍い1条の沈線をめぐらす。2段3方向に長方形スカシを有する。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナデ調整。	色調：灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒をわずかに含む。 焼成：良好。 残存：脚部の1/6。反転復元。
瓶	6－83 5－7	基部径 4.6 体部最大径 10.0 残存高 14.9	口頸部は外弯しながら上外方にのび、口縁部との境界で沈線をめぐらす。肩部はやや外下方に下り、体部最大径は体部上位に位置し、その位置に円孔を穿つ。底部はほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底体部外面、回転ヘラ削り調整。 円孔の周囲、静止ナデ調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：内一灰色、外一灰青色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好、堅緻。 残存：3/5。
提瓶	7－84 6－1	口径 7.2 基部径 5.5 体部最大径 15.2 器高 19.7	口頸部はやや外弯しながら上外方にのび、口縁部でほぼ直立し、端部は丸くおさめる。肩部・体部・底部は正面で縦に長い球形を成し、側面でやや角張った楕円形を成す。肩部に先端が丸い下方へ屈曲した把手を付す。	マキアゲ、ミズビキ成形。 肩部・体部・底部前面、同側面8/11、カキ目調整。 同側面3/11、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰青色。胎土：密。1㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好、堅緻。残存：ほぼ完形。背面・側面に窯壁片熔着。口頸部・背面に自然釉付着。
同上	7－85 6－2	口径 6.8 基部径 5.6 体部最大径 17.3 器高 22.1	口頸部は上外方にのび、口縁部に至り、端部は丸くおさめる。口頸部は焼け歪む。肩部・体部・底部は正面で縦に長い球形を成し、側面で楕円形を成す。肩部に先端が丸い下方へ屈曲する左右一対の把手を付す。	マキアゲ、ミズビキ成形。 肩部・体部・底部前面同側面1/2、カキ目調整。 肩部・体部・底部背面5/7、同側面1/2、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：暗灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：ほぼ完形。

器種	図面 図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
提 瓶	7－86 6－3	口径 7.1 基部径 5.9 体部最大径 18.6 器高 23.0	口頸部は外弯しながら上外方にのび、口縁部で上方にのび、端部は丸くおさめる。肩部・体部・底部は正面で球形を成し、側面で若干角張った楕円形を成す。肩部に先端がやや鋭く、接して輪状を成す把手を付す。	マキアゲ、ミズビキ成形。 肩部・体部・底部前面、同側面、カキ目調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：口頸部－青黒色、他－青灰色。胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：2/3。体部前面土器片熔着。 口頸部・肩部に自然釉付着。
同 上	7－87 6－4	口径 7.0 基部径 5.6 体部最大径 15.5 器高 19.4	口頸部は上外方にのび、口縁部で上方にのび、端部は丸くおさめる。肩部・体部・底部は正面で球形を成し、側面で若干角張った楕円形を成す。肩部に先端がやや扁平な下方へ屈曲する左右一対の把手を付す。	マキアゲ、ミズビキ成形。 肩部・体部・底部前面、同側面3/4、背面、カキ目調整。背面側側面1/12、カキ目調整のち回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。胎土：密。1㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。残存：3/5。 ヘラ記号：体部前面に「V」がある。
壺 蓋	7－88	口径 8.4 つまみ径 3.2 器高 2.8 つまみ高 0.6	天井部は外下方に下り、あまい段を成し、体部は外下方に下り、端部はやや丸くおさめる。内面端部に内傾するかえりを有す。かえりで接地し、端部はやや丸くおさめる。天井部外面中央に扁平なつまみを付す。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面3/4、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：暗青灰色。 胎土：密。3㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。残存：ほぼ完形。体部焼き歪み。
長頸壺	7－89 7－7	口径 9.4 基部径 6.8 体部最大径 15.0 基部径 6.0 残存高 24.4	口頸部はやや外弯しながら上外方にのび、口縁部に至り、端部は丸くおさめる。肩部はやや外下方に下り、肩部・体部境界に2条の沈線をめぐらし、体部は下内方に下り、底部はやや平ら。脚部は下外方に下る。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面5/7、回転ヘラ削り調整、のち高台接合時、回転ナデ調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：内－灰青色、外－暗灰色。胎土：密。3㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：4/7。一部反転復元。全体に自然釉付着、灰かぶり。脚部歪み大。
提 瓶	8－90 6－5	口径 5.3 基部径 4.7 体部最大径 16.1 器高 20.3	口頸部はやや外弯しながら上外方にのび、口縁部は内弯して上方にのび、端部は丸くおさめる。肩部・体部・底部は正面で球形を成し、側面で楕円形を成す。肩部に先端の丸い下方へ屈曲する左右一対の把手を付す。	マキアゲ、ミズビキ成形。 肩部・体部・底部背面、同側面5/6、前面、カキ目調整。背面側側面1/6、カキ目調整のち回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰青色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：3/5。
壺 蓋	8－91 7－1	口径 12.4 器高 3.7	口縁部は垂直に下ったのち外反し、端部は内傾する平面を成す。 天井部はやや低く平らに近い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面7/10、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰青色。 胎土：2㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：4/5。
同 上	8－92	口径 11.8 器高 3.2	口縁部は下外方に下ったのち外反し、端部はやや内傾する平面を成す。 天井部は低く平らに近い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面5/6、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。残存：1/2。 天井部外面に窯壁片付着。
同 上	8－93 7－2	口径 11.0 器高 3.8	口縁部は下方に下ったのち外反し、端部は水平な平面を成す。 天井部は高く丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。3㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：3/5。

器種	図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
壺 蓋	8－94	口径 10.2 器高 4.0	口縁部は垂直に下り、端部は内傾する凹面を成す。天井部は高く丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面5/6、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。7㎜の白色小石をわずかに含む。 焼成：良好。残存：7/8。反転復元。天井部外面自然釉付着。
短頸壺	8－95 7－3	口径 7.8 基部径 8.7 体部最大径 16.4 残存高 9.1	口縁部は基部より若干内傾して上方にのび、端部は丸くおさめる。肩部は外下方に張り出し、底体部は下内方に下り内下方に下る。体部最大径は上位に位置する。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：暗青灰色。胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。焼成：良好。残存：1/3。反転復元。肩部外面上器片熔着。底体部外面窯壁片熔着、自然釉付着。
同上	8－96	口径 8.2 基部径 8.5 体部最大径 15.6 残存高 10.3	口縁部は基部より直立し、端部は丸くおさめる。肩部は外下方に張り出し、底体部は下内方に下り、内下方に下る。体部最大径は上位に位置する。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：にぶい橙色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。 焼成：不良、脆弱。 残存：1/3。反転復元。
壺	8－97	口径 11.1 基部径 8.0 体部最大径 17.0 残存高 11.4	口頸部は基部より垂直にのびて外弯し、端部はやや内傾する平面を成す。肩部は外下方に張り出し、体部は内弯しつつ下方に下る。体部最大径は上位に位置する。	マキアゲ、ミズビキ成形。 体部外面、タタキののち、カキ目調整。 他は回転ナデ調整。	色調：灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：2/9。反転復元。
短頸壺	8－98 7－4	口径 8.5 基部径 8.9 体部最大径 15.2 器高 9.7	口縁部は基部より上方にのび、端部は丸くおさめる。肩部は外下方に張り出し、底体部は下内方に下り、内下方に下る。体部最大径は上位に位置する。基部から肩部にかけて焼け歪みが著しい	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好、堅緻。 残存：6/7。
同上	8－99	口径 11.7 基部径 12.2 体部最大径 22.0 残存高 14.4	口縁部は基部よりほぼ垂直にのび、端部はやや丸くおさめる。肩部は外下方に張り出し、底体部は下内方に下り内下方に下る。体部最大径は上方1/3に位置する。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。 胎土：密。3㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：2/5。反転復元。
同上	8－100 7－6	口径 9.6 基部径 10.1 体部最大径 22.8 残存高 14.6	口縁部は基部より垂直にのび、端部は丸くおさめる。肩部は外下方に張り出し、底体部は下内方に下り内方にのびる。体部最大径は上位に位置する。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面、カキ目調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。4㎜の白色砂粒を若干含む。焼成：良好。残存：5/8。一部反転復元。肩部に壺蓋片熔着。肩部を中心に窯壁片・自然釉付着。
甕	9－101 8－1	口径 21.0 基部径 20.0 体部最大径 49.4 残存高 22.4	口頸部は外反して上外方にのび、口縁部で外上方にのびたのち、内弯して上方にのび、端部は丸くおさめる。肩部は外下方に開いたのち、下方に下り、体部は下方に下る。底部・体部一部欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 肩部・体部外面、タタキののち、カキ目調整。 肩部・体部内面、青海波タタキ。 他は回転ナデ調整。	色調：灰色。胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：1/6。反転復元。口縁部内外面窯壁片付着。口縁部内面一部自然釉付着。ヘラ記号：頸部に「＋」がある。
同上	9－102	口径 26.0 基部径 23.6 残存高 8.4	口頸部は外弯して上外方にのび、口縁部下で下方に屈曲し、口縁部は内弯して上方にのび、内傾する平面を成し、端部は丸くおさめる。肩部は外下方に下る。底部・体部は欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 肩部外面、タタキ。 肩部内面、青海波タタキ。 他は回転ナデ調整。	色調：内－暗緑色。外－暗灰色。胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。焼成：良好。残存：口頸部の1/6。反転復元。内外面に窯壁片・自然釉付着。

器種	図面 図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
甕	9－103 8－2	口径 22.7 基部径 21.0 体部最大径 45.8 残存高 21.5	口頸部はやや外反して上外方にのび、口縁部で外上方にのびたのち、上外方にのび、平面を成す。端部は丸くおさめる。肩部は下外方に内弯して下り、体部は下方に内弯して下る。底部・体部一部欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 肩部・体部外面、タタキのち、カキ目調整。 肩部・体部内面、青海波タタキ。 他は回転ナデ調整。	色調：灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：1/6。反転復元。 口縁部内面に自然釉付着。
同上	9－104	口径 26.6 基部径 22.0 体部最大径 46.8 残存高 31.9	口頸部は外弯して上外方に開き、口縁部下でやや外下方にのび、口縁部でやや凹面を成しつつ上外方にのびる。端部は丸くおさめる。肩部は外下方に内弯して下り、体部は下方・下内方に内弯して下る。底部欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 口頸部外面1/2、カキ目調整。肩部・体部外面、タタキのちカキ目調整。 肩部・体部内面、同心円タタキ。他は回転ナデ調整。	色調：灰色。 胎土：密。0.3㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。残存：1/3。反転復元。外面一部自然釉着。 ヘラ記号：口頸部内面「‖」。
同上	9－105	口径 22.6 基部径 20.0 残存高 6.3	口頸部は短く、やや外弯して上外方にのび、口縁部で内弯してのび、端部は丸くおさめる。 肩部は外下方にやや内弯して下る。 底部・体部は欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 肩部外面、タタキ。 肩部内面、不明。 他は回転ナデ調整。	色調：灰縁色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：口頸部の1/3。反転復元。
同上	10－106 8－3	口径 24.3 基部径 19.8 残存高 7.0	口頸部は外弯して、上外方にのび、口縁部下で下外方に下ったのち、口縁部は上外方にのびて内弯し、端部は丸くおさめる。肩部は外下方に下る。底部・体部は欠損。口頸部中位に1条の沈線をめぐらす。	マキアゲ、ミズビキ成形。 肩部外面、タタキ。 肩部内面、青海波タタキ。 他は回転ナデ調整。	色調：内－灰色、外－暗灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：口頸部の1/3。反転復元。
同上	10－107	口径 23.2 基部径 20.3 残存高 6.9	口頸部は外弯して上外方にのび、口縁部下で外上方にのびたのち、口縁部は上方にのびて内傾し、端部はやや丸くおさめる。肩部は外下方に下る。 底部・体部は欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 肩部外面、タタキ。 肩部内面、青海波タタキ。 他は回転ナデ調整。	色調：灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：口頸部の1/3。反転復元。
同上	10－108	口径 22.8 基部径 19.8 残存高 5.2	口頸部は外弯して上外方にのび、口縁部下で外上方にのびたのち、口縁部は内弯して上方にのび、端部は丸くおさめる。 肩部は外方にのびる。肩部は焼け歪みが著しい。 底部・体部は欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 肩部外面、タタキ。 肩部内面、青海波タタキ。 他は回転ナデ調整。	色調：灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：口頸部の1/3。反転復元。
同上	10－109	口径 26.6 基部径 22.8 残存高 10.0	口頸部は外弯して上外方にのび、口縁部は内弯して上外方・上方にのび、端部は丸くおさめる。 肩部は外下方に内弯して下る。底部・体部は欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 肩部外面、タタキ。 肩部内面、同心円タタキ。 他は回転ナデ調整。	色調：灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：口頸部の2/5。反転復元。外面一部自然釉付着。
同上	10－110	口径 23.8 基部径 21.7 残存高 9.6	口頸部は垂直にのびたのち外弯して上外方にのび、口縁部下で下方に屈曲し、口縁部は内弯して上方にのび、端部は丸くおさめる。肩部は外下方に内弯して下る。底体部・体部は欠損。口頸部1/3 上方に1条の沈線あり。	マキアゲ、ミズビキ成形。 肩部外面、タタキ。 肩部内面、同心円タタキ。 他は回転ナデ調整。	色調：灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：口頸部の2/3。反転復元。頸部内外面に自然釉付着。

器種	図面 図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
甕	10—111 8 — 4	口径 26.6 基部径 20.4 残存高 12.0	口頸部は外弯して上外方に開き、口縁部下で外下方にのびたのち、口縁部は内弯して上方にのび、端部は丸くおさめる。肩部は外下方に内弯して下る。底部・体部は欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 肩部外面、タタキ。 肩部内面、青海波タタキ。 他は回転ナデ調整。	色調：灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：口頸部の1/3。反転復元。外面の一部に土器片熔着。内外面に自然釉付着。
同 上	10—112 8 — 5	口径 23.4 基部径 21.2 残存高 19.0	口頸部は上方にのびたのち外弯して上外方にのび、口縁部下で外方にのび、口縁部は内弯して上方にのび、端部は丸くおさめる。肩部は外下方に下り、体部は下方に内弯して下る。底部・体部一部欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 口頸部外面1/4、カキ目調整。肩部・体部外面、タタキのち、カキ目調整。肩部・体部内面、同心円タタキ。 他は回転ナデ調整。	色調：灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：1/6。反転復元。
同 上	11—113 8 — 6	口径 24.2 基部径 18.2 体部最大径 41.4 残存高 30.0	口頸部は上外方に開いてのび、口縁部下で下外方に下り、口縁部は内弯して上方にのび、端部は丸くおさめる。肩部は外下方に内弯して下り、体部は下方に内弯して下る。底部は欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 肩部・体部外面、タタキ。 肩部・体部内面、同心円タタキ。 他は回転ナデ調整。	色調：灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：1/3。反転復元。
同 上	11—114 8 — 7	口径 21.8 基部径 18.6 体部最大径 39.7 残存高 35.0	口頸部は外弯して上外方にのび、口縁部はやや上外方にのびたのち内弯し、端部は丸くおさめる。肩部は外下方に内弯して下り、体部はやや下内方にやや内弯して下り、底部は下内方に内弯して下る。	マキアゲ、ミズビキ成形。 肩部・体部・底部外面、タタキのち、カキ目調整。 肩部・体部・底部内面、青海波タタキ。 他は回転ナデ調整。	色調：内—灰色、外—暗灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：2/5。 外面に自然釉付着。
同 上	11—115	口径 46.6 残存高 16.5	口頸部は外反して上外方にのび、口縁部下で外下方にのび、口縁部はやや上外方にのびたのち、内傾する凹面を成す。端部はやや鋭い。1/2上方で2条のあまい沈線を3箇めぐらし、その間に櫛描き斜行沈線文を有す。	マキアゲ、ミズビキ成形。 口頸部外面2/3、カキ目調整。 他は回転ナデ調整。	色調：内—灰色、外—暗灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：口頸部の1/7。口頸部以外は欠損。反転復元。外面一部に自然釉付着。
同 上	12—116	口径 24.4 基部径 20.8 残存高 9.2	口頸部は外弯して上方・上外方にのび、口縁部は内弯して上方にのび、端部は丸くおさめる。肩部はやや外下方に下る。底部・体部・肩部一部欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 肩部外面、タタキ。 肩部内面、青海波タタキ。 他は回転ナデ調整。	色調：灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：口頸部の1/3。反転復元。内外面に自然釉付着。
同 上	12—117	口径 23.8 基部径 19.2 残存高 6.6	口頸部は外弯して上外方にのび、口縁部下で外下方にのび、口縁部は上外方にのびる外傾する平面を成したのち内傾し、端部は丸くおさめる。肩部は外下方に下る。底部・体部・肩部一部欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 肩部外面、タタキ。 肩部内面、同心円タタキ。 他は回転ナデ調整。	色調：暗灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：口頸部の1/5。反転復元。内外面に自然釉付着。
同 上	12—118 8 — 8	口径 23.4 基部径 19.8 体部最大径 50.6 残存高 54.3	口頸部は外弯して垂直・上外方にのび、口縁部は内弯して上方にのび、端部は丸くおさめる。肩部は外下方に、体部は下内方に、底部は内下方に内弯して下る。肩部で4方向に、下方へ屈曲する把手を付す。	マキアゲ、ミズビキ成形。口頸部外面1/2、カキ目調整。肩部・体部外面、タタキのち、カキ目調整。底部外面、タタキ。肩部・体部・底部内面、同心円タタキ。 他は回転ナデ調整。	色調：青灰色。胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：5/9。ヘラ記号：頸部外面に「ナ」がある。底部外面に蓋杯の熔着痕あり。肩部・体部外面自然釉付着。

太 満 池 北 窯

第2表

器種	図面 図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯 蓋	18－1	口径 13.5 器高 2.9	口縁部はやや下方に下ったのち下外方に下る。端部はやや丸くおさめる。天井部体部境界に鈍い凹線がめぐる。天井部は低く平らに近い。	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面5/6、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：暗灰色。胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。焼成：良好。残存：2/5。反転復元。
同 上	18－2 14－1	口径 14.2 残存高 3.6	口縁部は下外方に下り、端部はやや丸くおさめる。天井部はやや低くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面5/7、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：暗灰青色。胎土：密。1㎜の白色砂粒を多く含む。焼成：良好。残存：1/3。反転復元。体部外面土器片熔着。内面灰かぶり。
同 上	18－3 14－2	口径 14.5 器高 2.8	口縁部は下外方に下り、端部はやや鋭い。天井部は低く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面5/7、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：7/8。
杯 身	18－4 14－3	口径 12.0 受部径 14.6 器高 3.5 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾したのち、中位でやや上方にのびる。端部はやや鋭い。受部は外上方にのび、端部はやや鋭い。底体部はやや浅くほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。底部外面6/7、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：4/5。体部内面一部灰かぶり。
同 上	18－5	口径 14.5 受部径 17.0 残存高 4.0 たちあがり高 1.0	たちあがりは内傾したのち、端部付近でやや上方にのびる。端部は鋭い。受部は水平にのび、端部は丸くおさめる。底体部はやや深くほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。底部外面3/4、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：1/3。反転復元。
同 上	18－6 14－4	口径 12.2 受部径 15.2 残存高 3.2 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾してのび、端部は丸くおさめる。受部はやや外上方にのび、端部は丸くおさめる。底体部は浅く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。底部外面5/6、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：暗灰色。胎土：密。1㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：1/3。反転復元。
杯 蓋	18－7	口径 13.0 残存高 3.0	口縁部はやや下方に下り、端部は丸くおさめる。天井部体部境界に鈍い凹線がめぐる。天井部欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面9/10、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰青色。胎土：密。0.5㎜の白色砂粒を若干含む。焼成：良好。残存：1/12。反転復元。
同 上	18－8	口径 13.1 器高 3.4	口縁部は下外方に下ったのち、下方に下る。端部は丸くおさめる。天井部は低くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面5/6、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：暗青灰色。胎土：密。1㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：2/5。反転復元。内面一部窯壁片付着。
同 上	18－9	口径 13.4 器高 3.5	口縁部は下外方に下り、端部は丸くおさめる。天井部はやや低く平らに近い。	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面5/6、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。焼成：良好。残存：1/5。反転復元。
同 上	18－10 14－5	口径 13.4 残存高 3.9	口縁部は下外方に下ったのち、垂直に下る。端部は丸くおさめる。天井部はやや低くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面5/6、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：青灰色。胎土：密。2㎜の白色砂粒を多く含む。焼成：良好。残存：2/3。反転復元。

器種	図面 図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯 蓋	18－11	口径 14.2 器高 3.4	口縁部は下方に下り、端部は丸くおさめる。 天井部は低く平らに近い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を多く含む。 焼成：良好。残存：1/2。反転復元。外面一部土器片熔着。
同 上	18－12	口径 12.0 残存高 3.2	口縁部は下外方に下り、端部は丸くおさめる。 天井部は低く平らに近い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面5/6、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒をわずかに含む。 焼成：良好。 残存：1/8。反転復元。
同 上	18－13 14－ 6	口径 14.3 器高 3.9	口縁部は下外方に下ったのち下方に下る箇所と下外方に下る箇所がある。 端部は丸くおさめる。天井部はやや低くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：3/4。ヘラ記号：天井部外面に「IVl」がある。外面自然釉付着。
同 上	18－14 14－ 7	口径 14.2 器高 3.9	口縁部は下外方に下り、端部は丸くおさめる。 天井部はやや高く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面9/10、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：1/4。反転復元。
同 上	18－15	口径 15.2 器高 3.5	口縁部は下外方に下ったのち内弯して垂直に下り、端部は丸くおさめる。 天井部は低く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。 胎土：やや密。3㎜の白色砂粒を多く含む。 焼成：良好。 残存：2/3。
同 上	18－16 14－ 8	口径 14.8 器高 4.3	口縁部は下外方に開いて下り、端部は丸くおさめる。 天井部は高くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面3/4、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：明灰青色。天井部外面一部一明灰色。胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：5/7。
同 上	18－17 14－ 9	口径 14.2 器高 4.0	口縁部は下外方に下り、端部は丸くおさめる。 天井部はやや低く丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面3/4、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：暗灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：1/2。
同 上	18－18	口径 14.6 残存高 4.5	口縁部は下外方に下り、端部は丸くおさめる。 天井部は高くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面4/5、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。3㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：1/6。反転復元。
同 上	18－19	口径 14.9 器高 3.2	口縁部は下外方に下ったのち下方に下り、端部はやや丸くおさめる。 天井部は低く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面7/8、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒をわずかに含む。 焼成：良好。 残存：1/4。反転復元。
同 上	18－20 14－10	口径 14.7 器高 3.2	口縁部は下外方に下ったのちやや下方に下り、端部はやや丸くおさめる。 天井部は低く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面5/6、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。胎土：密。3㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：3/4。ヘラ記号：天井部外面に「—」がある。天井部体部境界に土器片熔着。

器種	図面 図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯 蓋	18－21	口径 16.4 器高 3.3	口縁部は下外方に下り、端部は丸くおさめる。天井部は低く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。天井部外面7/8、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：青灰色。胎土：密。2㎜の白色砂粒をわずかに含む。焼成：良好。残存：1/4。反転復元。
杯 身	18－22	口径 10.8 受部径 12.8 残存高 3.5 たちあがり高 1.0	たちあがりは内傾してのび、端部付近でやや直立する。端部はやや鋭い。受部は水平にのび、端部はやや鋭い。底体部はやや深くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。底部外面7/10、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：暗灰青色。胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。焼成：良好。残存：1/4。反転復元。一部自然釉付着。
同 上	18－23	口径 11.2 受部径 14.0 残存高 3.6 たちあがり高 1.2	たちあがりは内傾したのち、低位でやや上方にのびる。端部は丸くおさめる。受部は上外方にのび、端部はやや丸くおさめる。底体部はやや深くほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。底部外面2/3、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：暗灰色。胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。焼成：良好。残存：1/7。反転復元。
同 上	18－24	口径 12.0 受部径 14.6 残存高 3.7 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾してのび、端部は丸くおさめる。受部はほぼ水平にのび、端部はやや丸くおさめる。底体部はやや深く丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。底部外面9/10、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。1㎜の白色砂粒を多く含む。焼成：良好。残存：1/6。反転復元。受部、体部外面自然釉付着。底部外面土器片付着。
同 上	18－25	口径 12.0 受部径 14.6 残存高 2.8 たちあがり高 1.2	たちあがりは内傾したのち、中位で上方にのびる。端部はやや丸くおさめる。受部は上外方にのび、端部はやや鋭い。底体部はやや深い。	マキアゲ、ミズビキ成形。回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：内－灰青色、外－暗灰色。胎土：密。1㎜の白色砂粒をわずかに含む。焼成：良好。残存：1/8。反転復元。受部に自然釉付着。
同 上	18－26	口径 13.4 受部径 15.4 残存高 3.5 たちあがり高 1.1	たちあがりは内傾したのち、中位で直立する。端部はやや丸くおさめる。受部は外上方にのび、端部はやや丸くおさめる。底体部はやや浅くほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。底部外面5/6、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。1㎜の白色砂粒をわずかに含む。焼成：良好。残存：1/10。反転復元。底体部外面灰かぶり。体部外面自然釉付着。
同 上	18－27	口径 11.8 受部径 14.2 残存高 3.4 たちあがり高 1.0	たちあがりは内傾してのび、端部はやや鋭い。受部はやや外上方にのび、端部は丸くおさめる。底体部はやや浅い。	マキアゲ、ミズビキ成形。底部外面4/5、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：内－灰褐色、外－灰色。胎土：密。1㎜の白色砂粒を多く含む。焼成：良好。残存：1/12。反転復元。外面自然釉付着。
同 上	18－28	口径 13.0 受部径 15.2 残存高 3.6 たちあがり高 1.0	たちあがりは内傾してのび、端部はやや鋭い。受部は外上方にのび、端部はやや鋭い。底体部はやや浅くほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。底部外面6/7、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：やや密。4㎜の白色砂粒を多く含む。1㎜の白色砂粒を多く含む。焼成：良好。残存：1/4。反転復元。
同 上	18－29 15－1	口径 12.1 受部径 14.7 器高 3.8 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾したのち、中位でやや上方にのびる。端部はやや鋭い。受部は上外方にのび、端部は丸くおさめる。底体部はやや浅くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。底部外面2/3、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：暗灰色。胎土：密。1㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：7/8。底体部外面灰かぶり。底部外面窯壁片熔着。
同 上	18－30 15－2	口径 12.6 受部径 14.9 器高 3.5 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾したのち、低位もしくは中位で上方にのびる。端部は鋭い。受部は外上方にのび、端部はやや鋭い。底体部は浅く若干丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。底部外面9/10、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：暗灰色。胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。焼成：良好。残存：6/7。底体部外面灰かぶり。体部外面窯壁片熔着。

器種	図面 図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯 身	18－31 15－ 3	口径 13.2 受部径 16.0 器高 4.3 たちあがり高 1.2	たちあがりは内傾したのち、端部付近で上方にのびる。端部はやや鋭い。受部は外上方にのび、端部はやや丸くおさめる。底体部はやや浅くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：明灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒をわずかに含む。 焼成：良好。 残存：6/7。
同 上	18－32	口径 13.0 受部径 15.4 器高 4.0 たちあがり高 1.0	たちあがりは内傾してのび、端部はやや丸くおさめる。受部は外上方にのび、端部はやや丸くおさめる。底体部は浅くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面5/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。胎土：密。1㎜の白色砂粒を多く含む。2㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：1/5。反転復元。内面灰かぶり。
同 上	18－33 15－ 4	口径 12.6 受部径 15.3 残存高 3.6 たちあがり高 1.0	たちあがりは内傾したのち、中位でやや上方にのびる。端部はやや丸くおさめる。受部は上外方にのび、端部はやや丸くおさめる。底体部はやや浅くほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面4/5、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：2/3。反転復元。
同 上	18－34	口径 12.2 受部径 15.0 残存高 3.7 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾したのち、端部付近でやや上方にのびる。端部はやや鋭い。受部は外上方にのび、端部は丸くおさめる。底体部はやや深い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰青色。 胎土：やや密。1㎜の白色砂粒をやや多く含む。 焼成：良好。 残存：1/5。反転復元。
同 上	18－35	口径 11.6 受部径 14.0 残存高 2.9 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾してのび、端部はやや丸くおさめる。受部はほぼ水平にのび、端部は丸くおさめる。底体部は浅く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面5/6、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整	ロクロ回転：右方向。 色調：灰青色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。残存：1/7。反転復元。外面やや灰かぶり。
同 上	18－36	口径 13.6 受部径 16.2 残存高 3.6 たちあがり高 1.0	たちあがりは内傾したのち、中位でやや上方にのびる。端部はやや丸くおさめる。受部はやや外上方にのび、端部は丸くおさめる。底体部は浅くほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面3/4、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。 胎土：やや密。1㎜の白色砂粒を多く含む。 焼成：良好。残存：1/5。反転復元。外面やや灰かぶり。
同 上	18－37	口径 12.8 受部径 15.2 残存高 3.5 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾してのび、端部は丸くおさめる。受部はほぼ水平にのび、端部はやや丸くおさめる。底体部はやや浅い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰青色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。残存：1/6。反転復元。外面やや灰かぶり。
同 上	18－38 15－ 5	口径 13.6 受部径 16.2 器高 3.6 たちあがり高 1.0	たちあがりは内傾してのび、端部は丸くおさめる。受部は外上方にのび、端部はやや丸くおさめる。底体部はやや浅くほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：淡青灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：1/2。
高杯 (蓋)	19－39 15－10	口径 14.0 残存高 4.2 つまみ径 2.7 つまみ高 0.7	口縁部は下外方に下ったのちほぼ垂直に下り、端部は丸くおさめる。天井部はやや高く平らに近く、外面中央に中央部がやや丸いつまみを付す。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：暗灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。5㎜の白色小石をわずかに含む。焼成：良好。残存：7/8。天井部土器片熔着。
杯 蓋	19－40	口径 16.0 残存高 3.6	口縁部は下方に下ったのち、やや下外方に下る。端部はやや丸く、内面に内傾する平面をわずかに成す。天井部はやや低くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面7/8、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒をわずかに含む。 焼成：良好。 残存：1/4。反転復元。

器種	図面 図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯 蓋	19—41	口径　14.9 残存高　2.9	口縁部は下方に下ったのち、やや外反し、端部は丸くおさめる。 天井部は低く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面5/8、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：内—灰色、外—灰青色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：1/5。反転復元。
同 上	19—42	口径　16.8 残存高　3.0	口縁部は下外方に下り、端部はやや丸く、内面に内傾する平面をわずかに成す。 天井部は低い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面4/5、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒をわずかに含む。 焼成：良好。 残存：1/12。反転復元。
同 上	19—43	口径　16.3 残存高　3.2	口縁部は下外方に下り、端部は丸くおさめる。 天井部は低く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面9/10、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：暗灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒をやや多く含む。 焼成：良好。 残存：1/10。反転復元。
同 上	19—44	口径　16.0 残存高　2.9	口縁部は下外方に開き、端部は丸くおさめる。 天井部は低く平らに近い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面4/5、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：1/14。反転復元。
同 上	19—45	口径　13.8 残存高　3.0	口縁部は下外方に下り、端部は丸くおさめる。 天井部はやや低い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面4/5、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：1/6。反転復元。
同 上	19—46	口径　14.0 残存高　3.1	口縁部は下外方に下ったのち下方に下る。 端部は丸くおさめる。 天井部は低い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：淡青灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：1/12。反転復元。
同 上	19—47	口径　14.3 残存高　3.3	口縁部はやや内弯して下外方に下り、端部は丸くおさめる。 天井部は高い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：内—灰色、暗灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒をわずかに含む。 焼成：良好。 残存：1/16。反転復元。
壺 蓋	19—48	口径　12.3 残存高　3.6	口縁部は垂直に下ったのち外反し、端部は内傾する平面を成す。 天井部はやや高い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：1/7。反転復元。
杯 蓋	19—49	口径　13.6 残存高　3.1	口縁部は下方に下ったのち端部付近でわずかに外反する。 端部は丸くおさめる。 天井部はやや低い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面3/4、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：内—青灰色、外—暗灰色。胎土：密。1㎜の白色砂粒をわずかに含む。焼成：良好。残存：1/12。反転復元。 外面一部土器片付着。
壺 蓋	19—50	口径　12.2 残存高　3.2	口縁部は下外方に下ったのち外反する。端部は内傾する平面を成したのち、あまい段を成す。 天井部はやや低くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面4/5、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。7㎜の白色小石をわずかに含む。1㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。 残存：1/8。反転復元。

器種	図面 図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
壺 蓋	19—51	口径 10.8 残存高 3.1	口縁部は下外方に外反して下り、端部は内傾する平面を成したのち、あまい段を成す。 天井部はやや低くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰青色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒をやや多く含む。 焼成：良好。 残存：1/6。反転復元。
同 上	19—52	口径 10.0 残存高 3.5	口縁部は下外方に下ったのち端部付近で外反する。端部はほぼ水平な平面を成す。 天井部はやや低い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面9/10、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：1/6。反転復元。
同 上	19—53	口径 10.0 残存高 3.4	口縁部は下外方に下ったのち内弯して下方に下る。端部は丸くおさめる。 天井部はやや低い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 天井部外面4/5、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：淡灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒をわずかに含む。 焼成：良好。 残存：1/6。反転復元。
杯 身	19—54 15— 6	口径 13.8 受部径 15.6 器高 3.4 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾したのち、低位でほぼ直立する。端部はやや丸くおさめる。受部は水平にのび、端部はやや丸くおさめる。 底体部はやや浅くほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：2/5。反転復元。
同 上	19—55 15— 7	口径 13.1 受部径 16.0 器高 3.5 たちあがり高 1.0	たちあがりは内傾したのち中位で上内方にのびる。端部は丸くおさめる。 受部は外上方にのび、端部はやや丸くおさめる。 底体部は浅くほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：青灰色。 胎土：密。3㎜の白色小石をわずかに含む。1㎜の白色砂粒を若干含む。焼成：良好。 残存：3/4。
同 上	19—56	口径 13.4 受部径 15.6 残存高 2.7 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾してのび、端部でほぼ直立する。端部はやや鋭い。受部はほぼ水平にのび、端部はやや丸くおさめる。 底体部は浅い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：暗灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：1/16。反転復元。
同 上	19—57	口径 13.6 受部径 16.4 残存高 3.0 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾したのち中位でやや上内方にのびる。端部は丸くおさめる。受部は外上方にのび、端部は丸くおさめる。 底体部は浅い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：淡青灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：1/16。反転復元。
同 上	19—58	口径 13.6 受部径 16.2 残存高 3.2 たちあがり高 1.0	たちあがりは内傾したのち中位で上方にのびる。端部は丸くおさめる。 受部は外上方にのび、端部は丸くおさめる。 底体部は浅くほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面4/5、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：淡灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。 焼成：良好。 残存：1/12。反転復元。
同 上	19—59 15— 8	口径 12.6 受部径 15.0 器高 3.4 たちあがり高 0.8	たちあがりは内傾したのち端部付近でやや上方にのびる。端部は丸くおさめる。受部は外上方にのび、端部は丸くおさめる。 底体部はやや浅く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面4/5、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。胎土：密。1㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：1/4。反転復元。 外面一部灰かぶり。外面自然釉付着。
同 上	19—60	口径 13.6 受部径 16.2 残存高 3.2 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾したのち端部付近でやや上内方にのびる。端部はやや丸くおさめる。受部はやや外上方にのび、端部は丸くおさめる。 底体部はやや浅い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面4/5、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：暗灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。残存：1/12。反転復元。内面一部灰かぶり。

器種	図面 図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯 身	19—61	口径 12.8 受部径 15.4 残存高 2.9 たちあがり高 1.0	たちあがりは内傾したのち中位でほぼ直立する。端部は丸くおさめる。受部は外上方にのび、端部は丸くおさめる。底体部は浅い。	マキアゲ、ミズビキ成形。回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。焼成：良好。残存：1/10。反転復元。灰かぶり。
同 上	19—62	口径 13.8 受部径 16.1 残存高 3.4 たちあがり高 1.1	たちあがりは内傾してのび、端部はやや丸くおさめる。受部は外上方にのび、端部は丸くおさめる。底体部はやや深い。	マキアゲ、ミズビキ成形。底部外面9/10、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。焼成：良好。残存：1/16。反転復元。内面土器片付着。
同 上	19—63	口径 13.6 受部径 16.2 残存高 2.4 たちあがり高 1.1	たちあがりは内傾したのち中位で上方にのびる。端部はやや鋭い。受部は水平にのび、端部はやや丸くおさめる。底体部は欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰青色。胎土：密。1㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：1/16。反転復元。体部外面灰かぶり。
同 上	19—64 15— 9	口径 15.3 受部径 17.3 残存高 3.5 たちあがり高 1.1	たちあがりは内傾したのち中位で直立し、端部はやや丸くおさめる。受部はやや外上方にのび、端部は丸くおさめる。底体部はやや浅くほぼ平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。底部外面9/10、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：内—灰色、外—暗灰色。胎土：密。2㎜の白色砂粒を若干含む。1㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：1/5。反転復元。
同 上	19—65	口径 14.2 受部径 16.4 残存高 3.1 たちあがり高 1.0	たちあがりは内傾したのち低位で上方にのびる。端部は丸くおさめる。受部は水平にのび、端部は丸くおさめる。底体部は浅い。	マキアゲ、ミズビキ成形。回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。3㎜の白色砂粒をわずかに含む。1㎜の白色砂粒を若干含む。焼成：良好。残存：1/12。反転復元。
同 上	19—66	口径 12.2 受部径 14.4 残存高 2.4 たちあがり高 1.2	たちあがりは内傾したのち中位でやや上方にのびる。端部はやや丸くおさめる。受部はほぼ水平にのび、端部はやや鋭い。底体部は浅い。	マキアゲ、ミズビキ成形。回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰青色。胎土：密。1㎜の白色砂粒をわずかに含む。焼成：良好。残存：1/10。反転復元。
同 上	19—67	口径 14.2 受部径 15.8 器高 2.4 たちあがり高 1.0	たちあがりは内傾したのち中位で上方にのびる。端部は鋭い。受部はほぼ水平に短くのび、端部は鋭い。底体部は浅く平ら。	マキアゲ、ミズビキ成形。底部外面1/2、回転ヘラ削り調整。	ロクロ回転：右方向。色調：暗灰色。胎土：密。2㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：1/4。反転復元。底部外面土器片熔着。底体部外面自然釉付着。灰かぶり。
同 上	19—68	口径 11.6 受部径 14.0 残存高 3.3 たちあがり高 0.8	たちあがりは内傾したのち端部付近でやや上方にのびる。端部はやや丸くおさめる。受部は外上方にのび、端部は丸くおさめる。底部はやや深い。	マキアゲ、ミズビキ成形。底部外面7/10、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰青色。胎土：密。1㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：1/8。反転復元。
同 上	19—69	口径 10.8 受部径 12.8 器高 3.2 たちあがり高 0.5	たちあがりは内傾してのび、端部はやや丸くおさめる。受部はほぼ水平に短くのび、端部は丸くおさめる。底体部はやや浅くやや丸い。	マキアゲ、ミズビキ成形。底部外面4/5、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：内—灰色、外—暗灰色。胎土：やや密。5㎜の白色小石を若干含む。2㎜の白色砂粒を含む。焼成：良好。残存：1/4。反転復元。
同 上	19—70	口径 10.6 受部径 13.4 残存高 4.3 たちあがり高 0.9	たちあがりは内傾してのび、端部はやや丸くおさめる。受部は上外方にのび、端部は丸くおさめる。底体部は深い。	マキアゲ、ミズビキ成形。底部外面7/10、回転ヘラ削り調整。他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。色調：灰色。胎土：密。1㎜の白色砂粒を若干含む。焼成：良好。残存：1/7。反転復元。

器種	図面図版	法量(cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
杯身	19—71	口径 12.8 受部径 15.1 残存高 3.0 たちあがり高 0.7	たちあがりは内傾したのち端部付近で上方にのびる。端部は鋭い。受部はやや上外方にのび、端部はやや鋭い。 底体部はやや浅い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：暗灰色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：1/8。反転復元。
同上	19—72	口径 11.8 受部径 14.2 残存高 3.7 たちあがり高 1.0	たちあがりは内傾してのび、端部はやや丸くおさめる。 受部は外上方にのび、端部は丸くおさめる。 底体部は深い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面9/10、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰青色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒を含む。 焼成：良好。 残存：1/8。反転復元。
同上	19—73	口径 11.0 受部径 13.6 残存高 2.8 たちあがり高 1.0	たちあがりは内傾したのち中位で上方にのびる。 端部はやや丸くおさめる。 受部は外上方にのび、端部はやや丸くおさめる。 底体部は浅い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：明灰青色。 胎土：密。1㎜の白色砂粒をわずかに含む。 焼成：良好。 残存：1/10。反転復元。
同上	19—74	口径 13.6 受部径 16.2 残存高 2.7 たちあがり高 1.2	たちあがりはやや内弯しつつ内傾してのび、端部は丸くおさめる。 受部は外上方にのび、端部は丸くおさめる。 底部は欠損。	マキアゲ、ミズビキ成形。 回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰青色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒をわずかに含む。 焼成：良好。 残存：1/12。反転復元。
同上	19—75	口径 13.0 受部径 15.0 残存高 2.3 たちあがり高 0.6	たちあがりは内傾したのち端部は鋭い。 受部は外上方にのび、端部は丸くおさめる。 底部は浅い。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面6/7、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：暗灰色。 胎土：密。2㎜の白色砂粒をわずかに含む。 焼成：良好。 残存：1/5。反転復元。
高杯(杯部)	19—76	口径 17.8 残存高 4.4	口縁部は上外方にやや外反してのび、端部は丸くおさめる。 底体部はやや浅い。 底部・体部境界に鈍い稜をめぐらす。	マキアゲ、ミズビキ成形。 底部外面3/4、回転ヘラ削り調整。 他は回転ナデ調整。	ロクロ回転：右方向。 色調：灰色。胎土：密。2㎜の白色砂粒をわずかに含む。1㎜の白色砂粒をやや多く含む。焼成：良好。残存：杯部の1/20。反転復元。

遺物形態分類表

第３表　太満池南窯杯蓋形態分類表

第４表　太満池南窯杯身形態分類表

第５表　太満池北窯燃焼部床１杯蓋形態分類表

第６表　太満池北窯燃焼部床１杯身形態分類表

第７表　太満池北窯燃焼部床２杯蓋形態分類表

第８表　太満池北窯燃焼部床２杯身形態分類表

太満池南窯杯蓋形態分類表

第3表

端部	口縁部	天井部	個数
丸くおさめる	下方に下る	高く丸い	1
		高くやや丸い	1
		やや高く丸い	1
		やや高くやや丸い	1
		低く平ら	1
		低く平らに近い	1
		やや低くやや丸い	1
	下方に下ったのち端部付近でやや内弯	やや低くやや丸い	1
	内弯気味に下る	高く丸い	1
	内弯気味に下方に下る	低く平らに近い	1
	下外方に下る	高く平ら	2
		低く平ら	2
		低く平らに近い	4
	下外方に下ったのち下方に下る	高くほぼ丸い	1
		低く平ら	2
		低く平らに近い	1
		やや低くやや丸い	1
	下外方に下ったのち垂直に下る	高く丸い	1
		低く平ら	2
	下外方に下ったのち端部付近でやや内弯	低く平らに近い	1
	垂直に下る	低く平ら	3
		低く平らに近い	1
	垂直に下ったのち下外方に下る	高く丸い	1
やや丸くおさめる	内弯気味に下ったのち下方に下る	底く平ら	1
	下外方に下ったのちやや下方に下る	低い	1
やや鋭い	下外方に下ったのちやや下方に下る	低い	1
鋭い	――	――	0

太満池南窯杯身形態分類表

第4表

口縁端部	たちあがり	受部	受部端	底体部	個数
丸くおさめる	上方にのびる	やや外上方	丸くおさめる	浅い	1
	中位で上方にのびる	ほぼ水平		浅くほぼ平ら	1
	中位で直立する			やや深い	1
		上外方		浅くやや丸い	1
		上外方		浅くやや丸い	1
	低位で上方にのびる	上外方に短く		やや深い	1
	端部付近で上方にのびる	やや外上方		浅く平ら	2
		外上方		浅くほぼ平ら	1
		やや外上方		やや深く丸い	1
	端部付近で上方にのびる	外上方	やや丸くおさめる	やや浅く平ら	1
	内傾	上外方	やや鋭い	やや深くほぼ平ら	1
やや丸くおさめる	中位で上方にのびる	ほぼ水平	丸くおさめる	やや浅くほぼ平ら	1
		外上方		浅く平ら	1
	端部で上方にのびる	やや外上方		浅く平ら	1
	端部付近で上方にのびる	ほぼ水平		やや深くほぼ平ら	1
	内傾	ほぼ水平		やや深い	1
		外上方		やや浅くほぼ平ら	1
鋭い	内傾し短くのびる	ほぼ水平	丸くおさめる	浅く平ら	1
	端部付近で上方にのびる	やや外上方	やや鋭い	やや浅くほぼ平ら	1
	内傾	ほぼ水平		やや深くやや丸い	1
やや鋭い	上方にのびる	外上方	丸くおさめる	やや深くほぼ平ら	1
				浅くほぼ平ら	1
	中位で上方にのびる			やや深くやや丸い	1
				浅く平ら	1
	端部で上方にのびる	ほぼ水平		浅く若干丸い	1
	内傾	水平		浅くほぼ平ら	1
	端部付近で上方にのびる	上外方	やや鋭い	やや深く丸い	1
	端部付近で直立する	外上方		やや深くやや丸い	1
	内傾			やや浅く平ら	1
		やや外上方		浅くほぼ平ら	1

太満池北窯燃焼部床1杯蓋形態分類表

第5表

端部	口縁部	天井部	個数
やや丸くおさめる	下方に下ったのち下外方に下る	低く平らに近い	1
	下外方に下る	やや低く　やや丸い	1
やや鋭い	下外方に下る	低く平ら	1
丸くおさめる	――――	――――	0
鋭い	――――	――――	0

太満池北窯燃焼部床1杯身形態分類表

第6表

口縁端部	たちあがり	受部	受部端	底体部	個数
丸くおさめる	内傾	やや外上方	丸くおさめる	浅く平ら	1
鋭い	端部付近で上方にのびる	水平	丸くおさめる	やや浅くほぼ平ら	1
やや鋭い	中位で上方にのびる	外上方	やや鋭い	やや浅くほぼ平ら	1
やや丸くおさめる	――――	――――	――	――	0

太満池北窯燃焼部床2杯蓋形態分類表

第7表

端　部	口　縁　部	天　井　部	個数
丸くおさめる	下方に下る	低く平らに近い	1
		欠　損	1
	下外方に下る	高くやや丸い	2
		やや高く平ら	1
		低く平ら	2
		低く平らに近い	2
		やや低く平らに近い	1
		やや低く丸い	1
		やや低い	1
	下外方に下ったのち下方に下る	低くやや丸い	1
		低　い	1
		やや低くやや丸い	1
	下外方に下ったのち垂直に下る	やや低くやや丸い	1
	下外方に下ったのち内弯し垂直に下る	低く平ら	1
	下外方に下ったのち端部でわずかに外反	やや低い	1
	下外方に下ったのちやや外反	低く平ら	1
	やや内弯して下外方に下る	高　い	1
やや丸くおさめる	下方に下ったのちやや下外方に下る	やや低くやや丸い	1
	下外方に下ったのち下方に下る	低く平ら	1
	下外方に下ったのちやや下外方に下る	やや低くやや丸い	1
やや鋭い	――――	――――	0
鋭い	――――	――――	0

太満池北窯燃焼部床2杯身形態分類表

第8表

口縁端部	たちあがり	受部	受部端	底体部	個数
丸くおさめる	中位で上内方にのびる	外上方	丸くおさめる	浅い	1
	中位で上方にのびる			浅くほぼ平ら	1
	中位でほぼ直立する			浅い	1
	低位で上方にのびる	水平		浅い	1
		上外方		やや深くほぼ平ら	1
	端部付近で上方にのびる	外上方		浅く平ら	1
	内弯する			欠損	1
	中位で上内方にのびる	外上方	やや丸くおさめる	浅くほぼ平ら	1
	内傾	ほぼ水平		やや深く丸い	1
				やや浅い	1
		外上方		やや浅くほぼ平ら	1
やや丸くおさめる	中位で上方にのびる	やや外上方	丸くおさめる	浅くほぼ平ら	1
	中位で直立する	外上方		やや浅くほぼ平ら	1
	端部付近で上方にのびる			やや深い	1
		やや外上方		やや浅い	1
	内傾	ほぼ水平		浅く平ら	1
		外上方		深い	1
				やや深い	1
		上外方		深い	1
	中位で上方にのびる	外上方	やや丸くおさめる	浅い	1
		上外方		やや浅くほぼ平ら	1
	中位で直立する	上外方		やや浅くほぼ平ら	1
	低位で直立する	水平		やや浅くほぼ平ら	1
	内傾	ほぼ水平に短く		やや浅くやや丸い	1
		外上方		浅くやや丸い	1
	中位で上方にのびる	ほぼ水平	やや鋭い	浅い	1
		上外方		やや深い	1
鋭い	内傾	外上方	丸くおさめる	浅い	1
	中位で上方にのびる	ほぼ水平に短く	鋭い	浅く平ら	1
		外上方	やや鋭い	浅く若干丸い	1
	端部付近で上方にのびる	やや上外方		やや浅い	1
やや鋭い	中位で上方にのびる	水平にのびる	やや丸くおさめる	欠損	1
	端部付近に上方にのびる	外上方		やや浅くやや丸い	1
	内傾	ほぼ水平		浅い	1
	端部付近で直立する	水平	やや鋭い	やや深くやや丸い	1
	内傾	外上方		やや浅くほぼ平ら	1

図　　版

図版1　TIM89－1

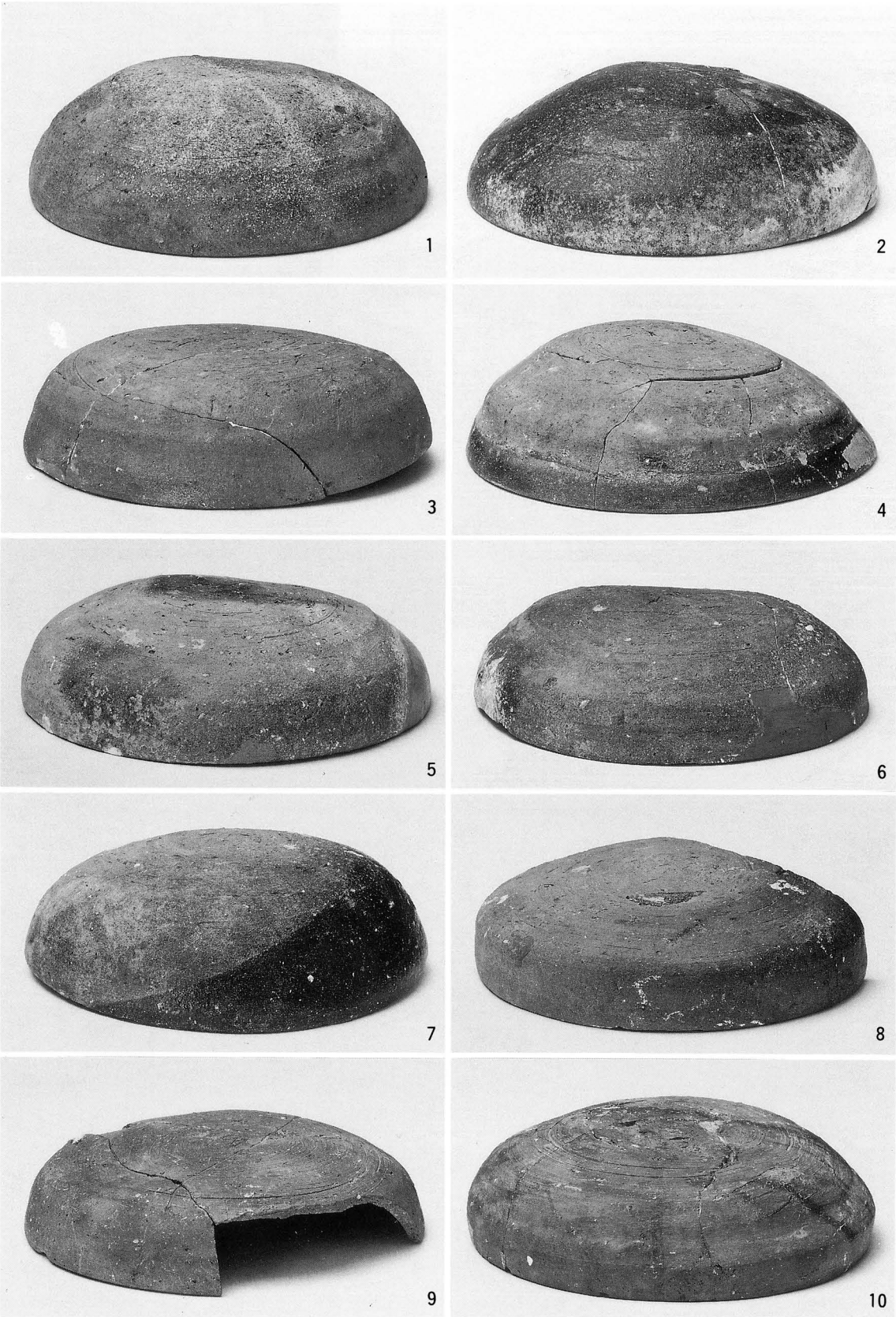
a．太満池南窯灰原

b．太満池南窯灰原土層断面

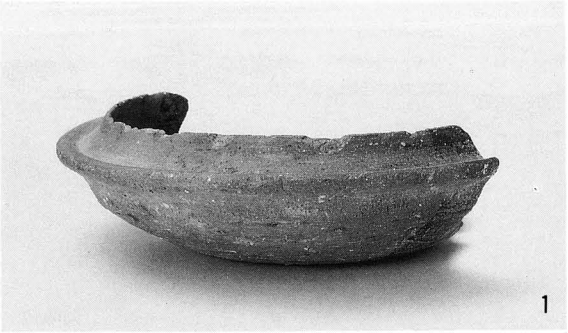
図版2　TIM89－1

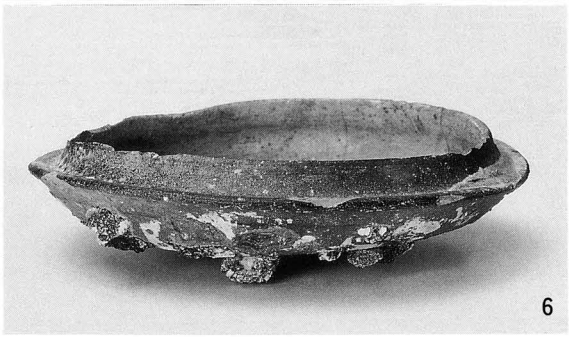
a．太満池南窯灰原

b．太満池南窯

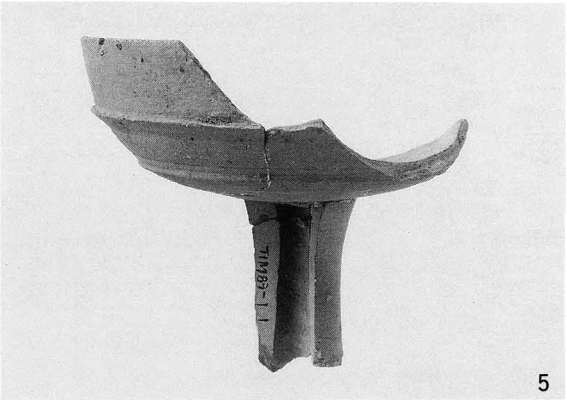


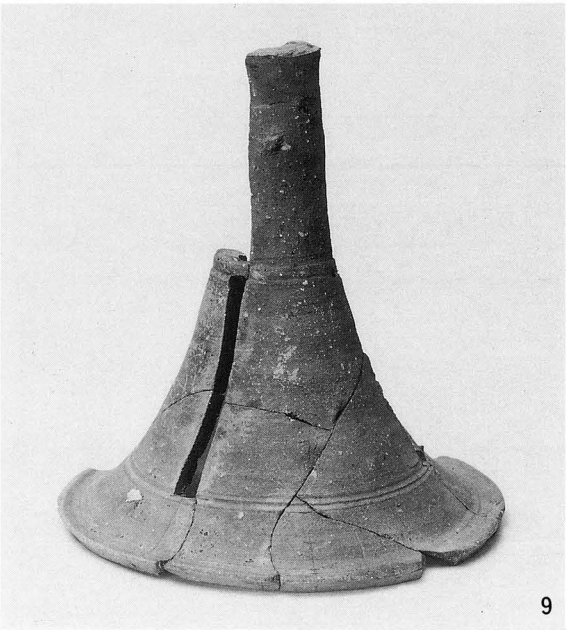
太満池南窯灰原出土遺物（1）





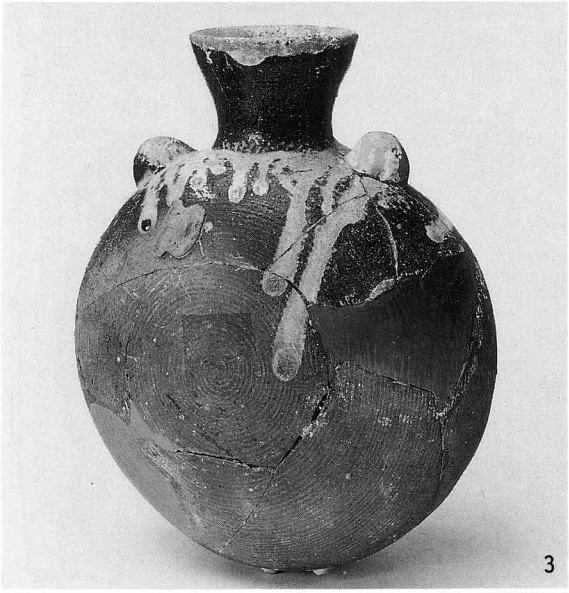
太満池南窯灰原出土遺物（2）





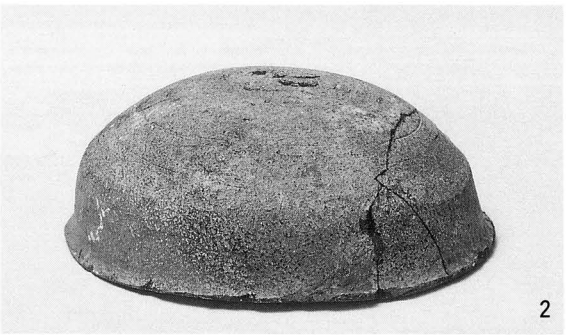
太満池南窯灰原出土遺物（3）

図版6 TIM89-1

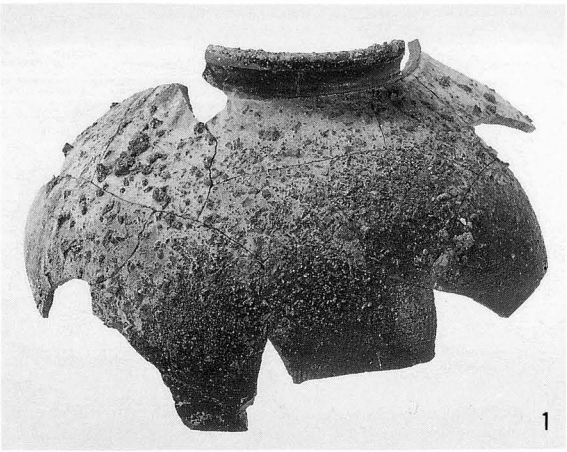


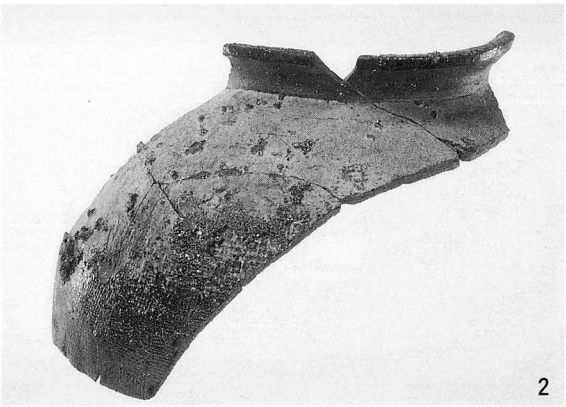
太満池南窯灰原出土遺物（4）

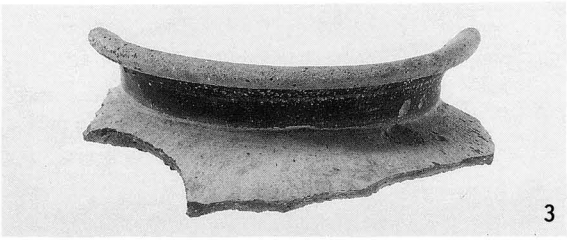
図版7　TIM89－1

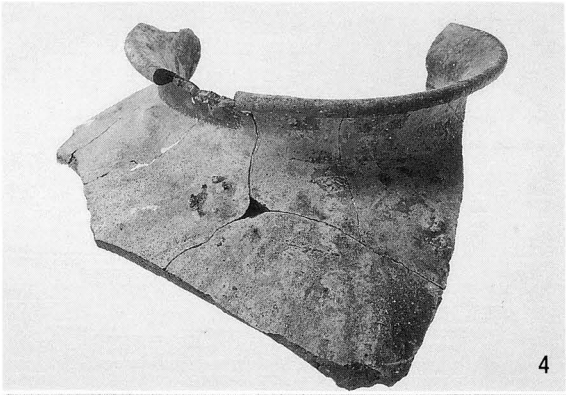


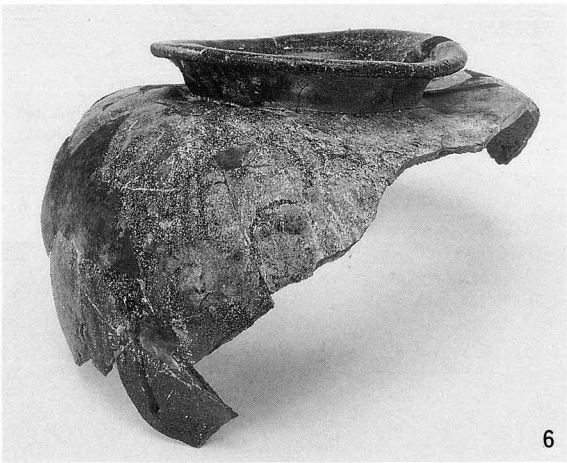
太満池南窯灰原出土遺物（5）

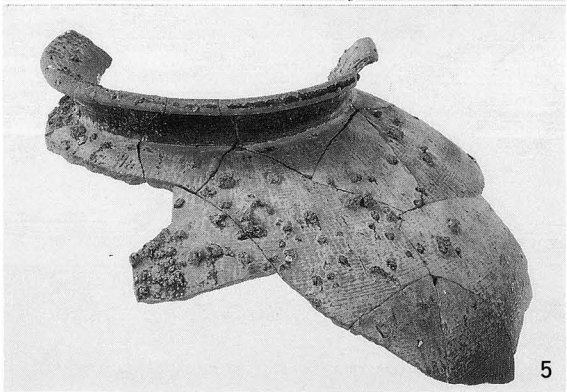








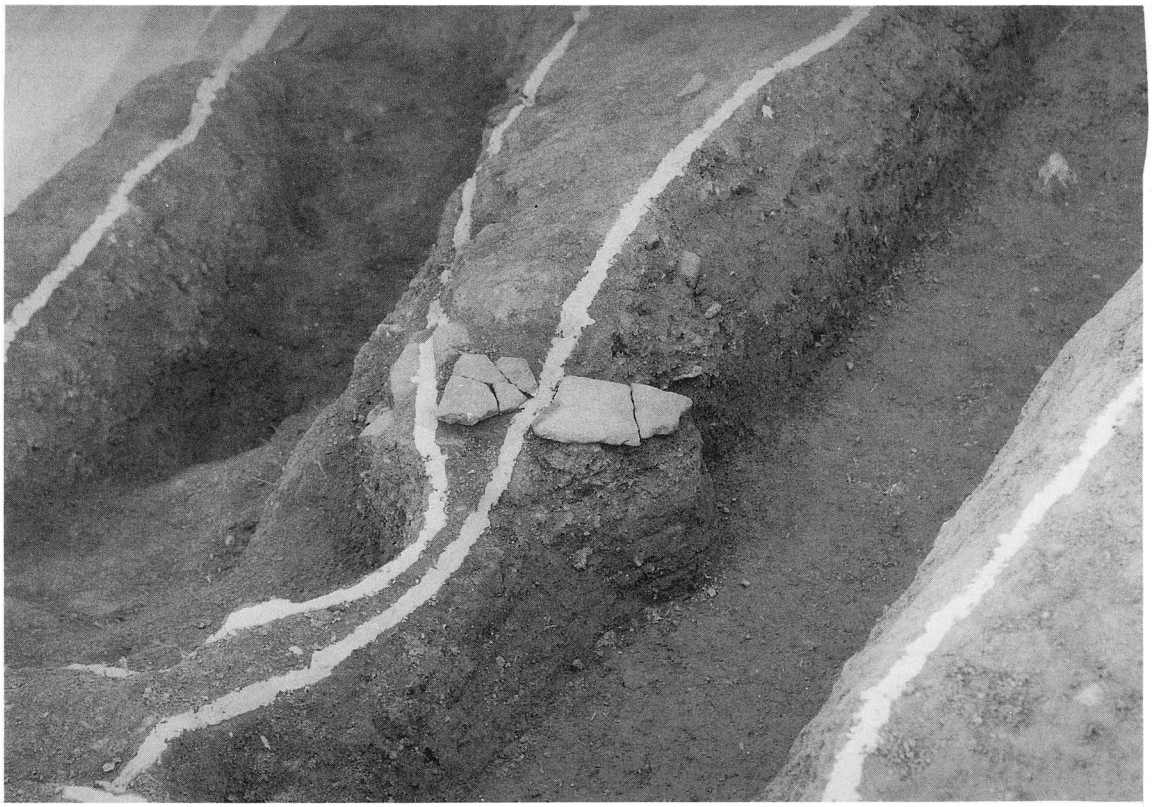




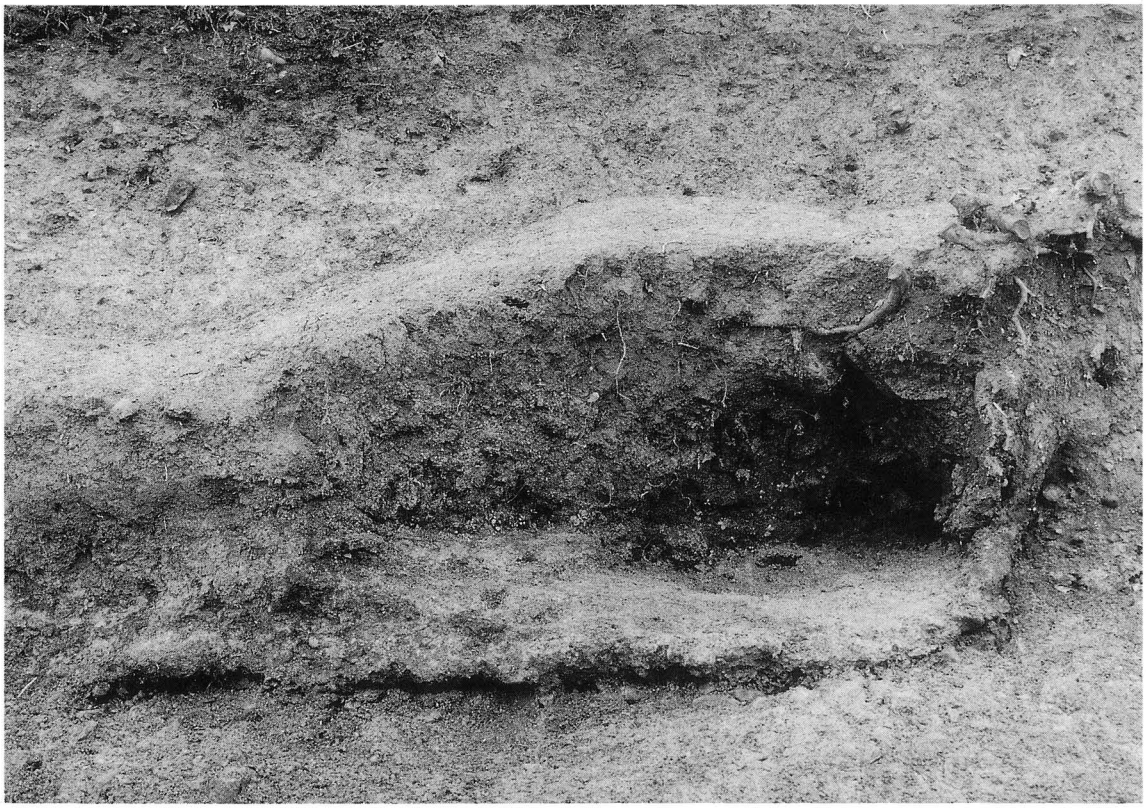
太満池南窯灰原出土遺物（6）

a．近世遺構　溝1土器出土状況

b．近世遺構　土坑



a．近世遺構　溝２・溝３



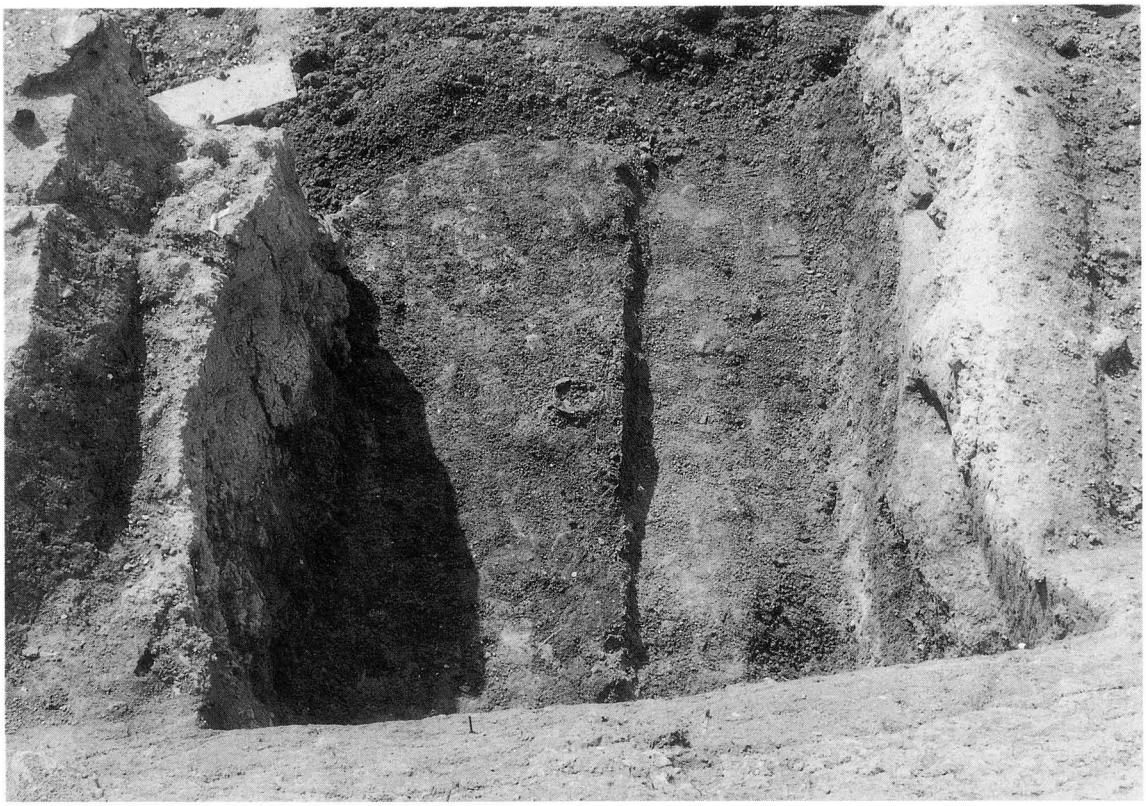
b．太満池北窯燃焼部（調査前）

a．太満池北窯燃焼部（床２直上）

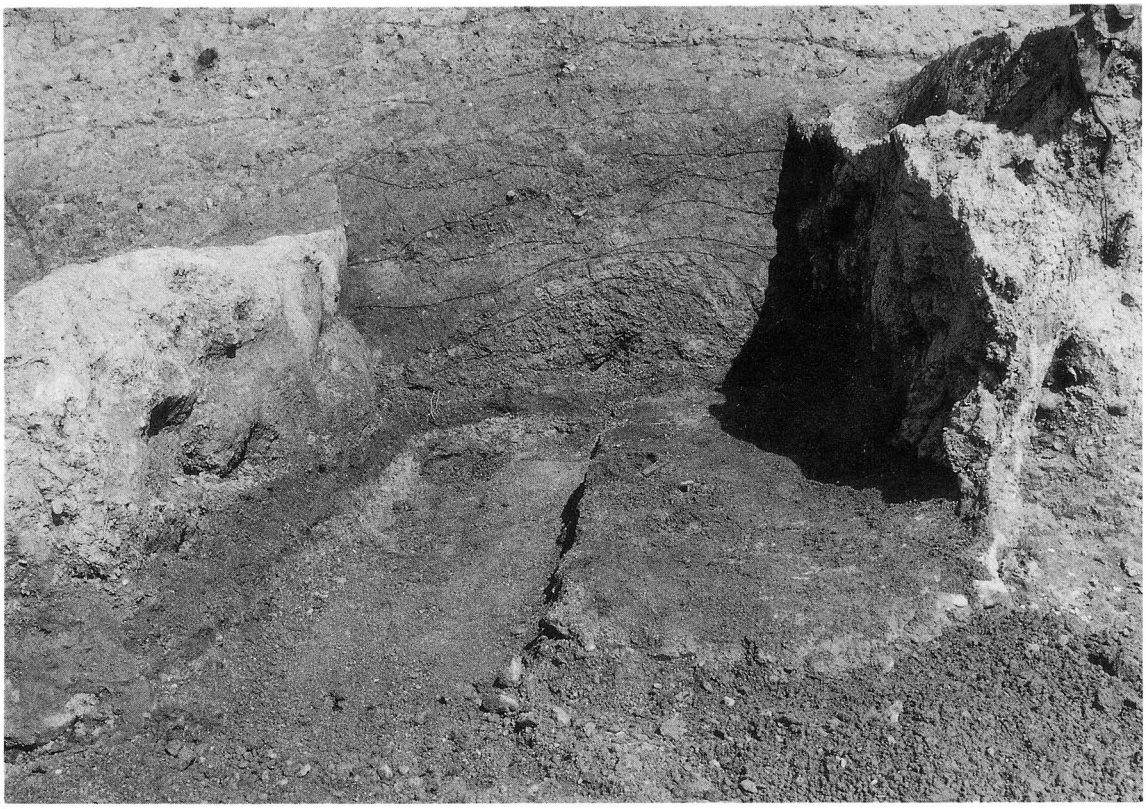
b．太満池北窯燃焼部（床２直上、東上方より）

a．太満池北窯燃焼部床２遺物出土状況（東上方より）

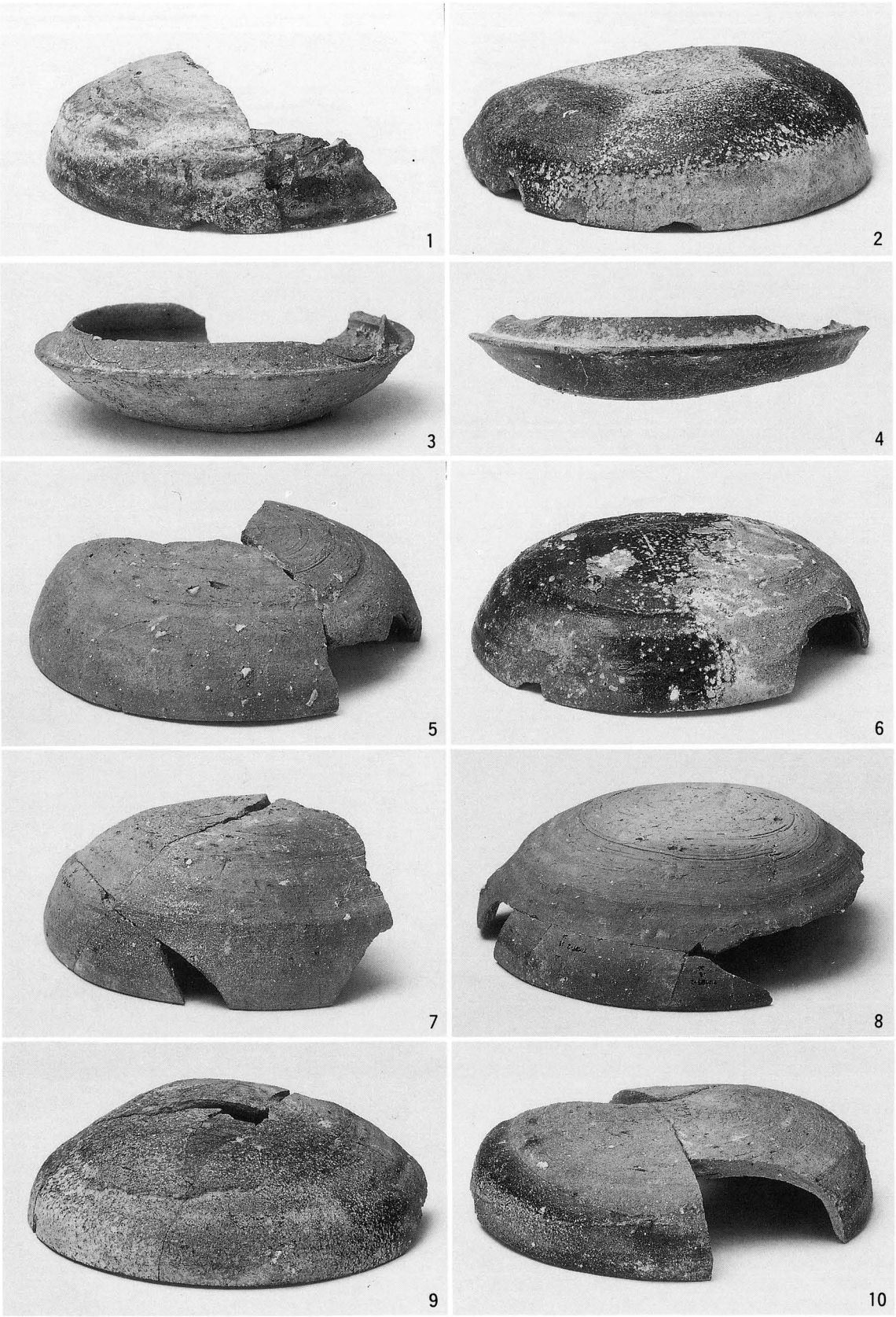
b．太満池北窯燃焼部床２遺物出土状況（北より）



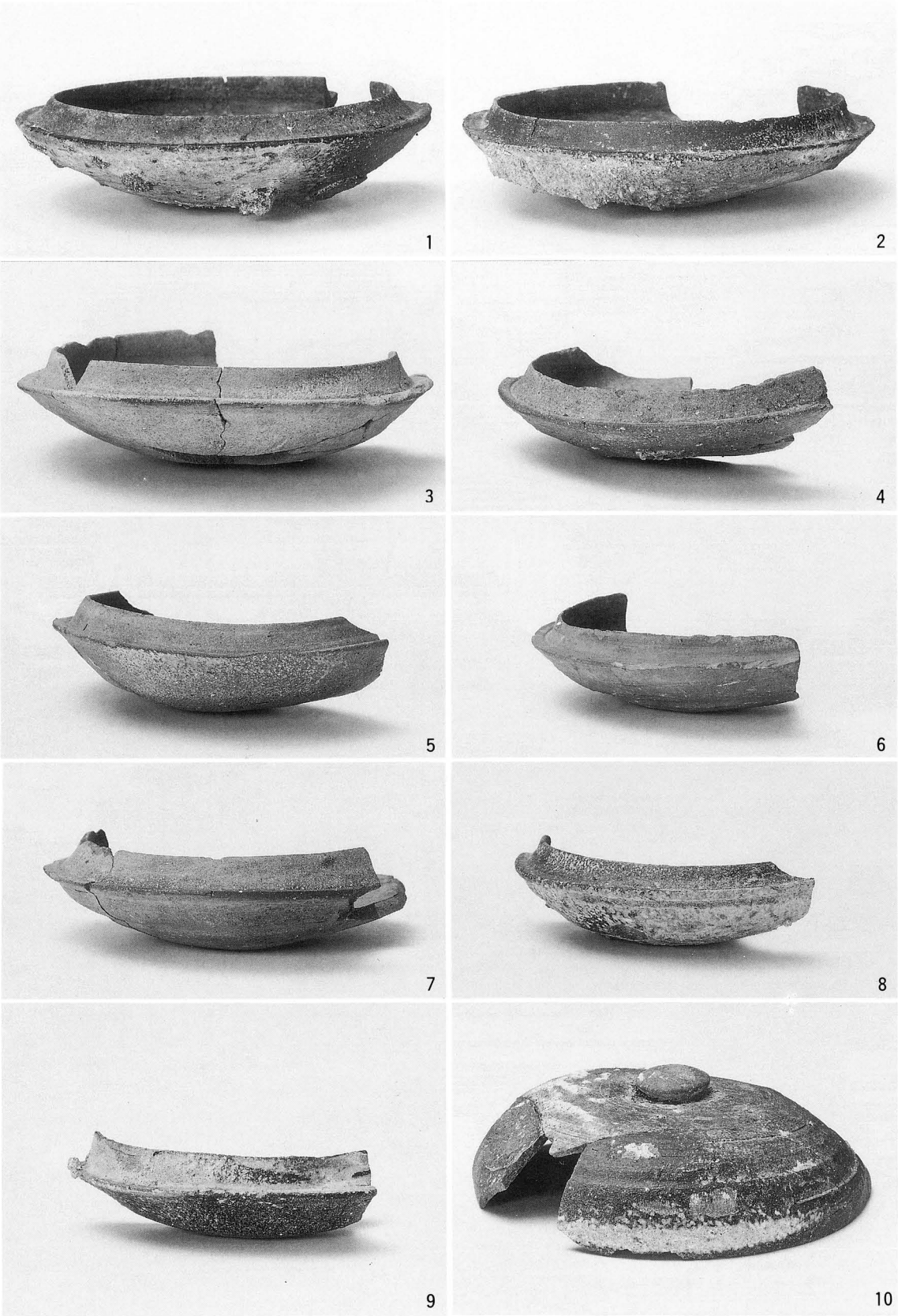
a．太満池北窯燃焼部（床１直上・半掘、東上方より）



b．太満池北窯燃焼部（床１直上・半掘）



太満池北窯燃焼部出土遺物（1）
（1～4：床1、5～10：床2）



太満池北窯燃焼部出土遺物（2）
（床2出土）

大阪狭山市文化財報告書 5

太満池南窯・北窯
発掘調査報告書

発行日　平成 3 年 3 月 31 日
発　行　大阪狭山市教育委員会
印　刷　橋本印刷株式会社